

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
1	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	地域行政入門A	山田 泰秀	1	2	私達に身近な地方公共団体(地方自治体)における政治・行政の仕組みを理解し、今日的行政課題に対してその解決手法を研究・検討するとともに、一人ひとりの将来目標を選択・実現するうえで参考になれば幸いである。元福山市職員、行政書士としての実務経験を活かしつつ、実践的な教育を行う授業を目指す。
2	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	地域行政入門B	山田 泰秀	1	2	私達に身近な地方公共団体(地方自治体)における政治・行政の仕組みを理解し、今日的行政課題に対してその解決手法を研究・検討するとともに、一人ひとりの将来目標を選択・実現するうえで参考になれば幸いである。元福山市職員、行政書士としての実務経験を活かしつつ、実践的な教育を行う授業を目指す。
3	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	数学A	藤原 庸隆	1	2	「読み・書き・そろばん(数学)」が、社会人としての基本的素養であることは今も昔も変わらない。このうち、特にそろばん(数学)の素養としての重要性は、情報社会の一層の深化・進展にともない、なお一層増しているのが実情である。 このような実情に鑑み、本授業では、これまで中学・高校を通して、長い年月をかけて学び、身につけているべき数学の基本的な知識や能力(数学リテラシー)を確認するとともに復習する。そして授業においては、企業で数学の実務経験のある教員が、その経験を生かして数学を学業上の問題・課題解決へ応用できるよう懇切丁寧に指導する。
4	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	数学B	藤原 庸隆	1	2	「読み・書き・そろばん(数学)」が、社会人としての基本的素養であることは今も昔も変わらない。このうち、特にそろばん(数学)の素養としての重要性は、情報社会の一層の深化・進展にともない、なお一層増しているのが実情である。 このような実情に鑑み、本授業では、これまで中学・高校を通して、長い年月をかけて学び、身につけているべき数学の基本的な知識や能力(数学リテラシー)を確認するとともに復習する。そして授業においては、企業で数学の実務経験のある教員が、その経験を生かして数学を学業上の問題・課題解決へ応用できるよう懇切丁寧に指導する。
5	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	キャリアデザインⅠ	赤木 邦江	1	2	大学生生活のスタートにあたり、何のために「働く」のか、そして「働く」ということの本質となるものは何であるか、を考える。大学生生活を経て初職に就く時、社会情勢の変化・環境はいつの時代にも厳しさはある。その中で自らの責任と選択により、有意義な人生を築くためのキャリアデザイン(職業人生)の設計・創造は、自己の描く未来への第一歩となる道標を見つけることである。 この講義では、「働く」ということの基礎知識を学び、キャリア形成のために、これからの大学生生活で求められる学修・知識、ヒューマンスキルを自己理解することを期待する。 キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、大学生生活の第一歩から「ワークキャリア」と「ライフキャリア」を築いていくための考え方と行動を指導する。
6	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	キャリアデザインⅡ	赤木 邦江	2	2	「キャリアデザインⅡ」では、キャリアデザインⅠで学修した『キャリアの見方＝捉え方』をベースに、「働く」ということの本質を、さらに具体化するために必要とされる自己理解・他者理解・相互理解、そして社会の理解を深め、より多面的に将来の自己のキャリアについて考えていく。職業観・キャリア観を認識する上で、社会の状況や雇用環境、就職を希望する業界の状況など『職業の経済学』の知識を得ることにより、近い将来の初職選択を意義あるものに構築する機会とする。 この講義では、自己を取り巻く環境を理解した上で、求められる人材として、自分自身の現在できること、これから取り組むべきことを主体的に熟慮できることを期待する。そして3年次で体験する「インターンシップ」に向け、自己の就業に関する方向性を明確にする力を養成する。 キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、就業意欲の向上と職業選択の具体的方策を指導する。
7	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	福山歴史学	八幡 浩二	1	2	福山(備後)地域の遺跡・史跡、指定文化財や博物館の展示品など保存継承されてきた貴重な資料から多面的に歴史像を読み解き、地域の歴史や文化をたどってみる。覚える歴史から、考えて推理し語れる歴史への創造をめざす。また、広島大学埋蔵文化財調査室(現、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門)の勤務経験を活かして、博物館や考古資料に触れながら、講義を進めていく。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
8	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	スポーツとメディア	田辺 一洋	1	2	<p>国内では雑誌が売れなくなり、新聞は全国紙・地方紙とも急速に部数を減らしている。米国新聞協会は2016年秋、組織名を「ニューメディア連合」に改称した。</p> <p>大学生も含めて「テレビ離れ」も進む。国内に目を移すと2017年には「どこでも、いつでもスポーツ中継」が楽しめるDAZNのサービスが本格化し、スポーツ中継と言えばテレビ画面ではなく、パソコンやスマホ画面が当たり前になった。</p> <p>小学生からシニア世代までスマホを使いこなす、Z世代に至っては「スマホ命」…</p> <p>このように、スポーツコンテンツ(ニュースなど)を伝えるメディアは、紙媒体と放送から通信へシフトしつつある。それと同時に、かつて情報の受け手側だった読者・視聴者は「Twitter」などで、「福山平成大学バレーボール部、全国大会出場決定！」などと、たやすく情報を発信できるようになった。</p> <p>広島での情報誌編集長を経て、スポニチの記者として国内外のスポーツを取材し、続いて中国放送、テレビ東京でスポーツニュース制作などに携わりインターネットでもスポーツ情報を発信中の教員が、カープ、サンフレッチェ広島、JTサンダーズなどの取材現場やオリンピック、サッカー日本代表戦など海外取材現場での経験も交えて、スポーツとメディアの「親和性」(ものごとを組み合わせた時の相性の良さ)について解説する。</p> <p>急速なIT化やDXの推進、AI技術の進化が世の中の仕組みを大きく変える中であっても、スポーツにおいて「人間がプレーする」「人が取材する」という根本のところは(ロボットが試合に参加しない限り)変わらない。ゆえにスポーツとメディアの「親和性」の中からこの先、どんな価値を見出していくか？</p> <p>スポーツコンテンツは巨額の放映権料なども生み出すが、こうしたスポーツビジネスでの「勝ち組み」となるために、今、新聞社も放送局も、動画配信運営サービスの会社も、魅力あるスポーツコンテンツをいかに「囲い込むか」に躍起になっている。</p> <p>その動きを学ぶことで、スポーツとスポーツ報道の持つ特性や広がり理解するとともに、将来、学校教育現場や地域社会・企業でのスポーツ活動と向き合う際に様々な対応が可能な知識を身に着ける。</p> <p>加えて「スポーツ」は「音楽」「マンガ」「ゲーム」「映画」…と他のキラコンコンテンツとの「親和性」においても優れた特性を有し、故にここでもまた様々な「商品」が提供されている。</p> <p>情報の受け手側は、どのコンテンツを選択するか、その「眼力」も試される。</p> <p>生活を豊かにしたり、日々の学習にプラスとなるよう活用したり、将来の可能性をより高めたりできるよう、スポーツとメディアという親しみやすいテーマを通して、メディアリテラシーを高めていく。</p>
9	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	広島スポーツ学	田辺 一洋	1	2	<p>広島スポーツが「国内最強」を誇った時代がある。</p> <p>1928年(昭和3年)、アムステルダム五輪で日本人初の金メダルに輝いた三段跳びの織田幹雄は、広島一中(現広島国泰寺高校)の出身である。当時の広島一中はサッカーでも全国を制し、そのスクールカラー「紫」がサンフレッチェ広島へ引き継がれている。サンフレッチェ広島は2022年4月、創立30周年を迎える。</p> <p>大正から昭和初期にかけ広島スポーツは続々に国内最強の時代を迎え、そして世界へ羽ばたいた。バレーボール、サッカー、野球、陸上競技、水泳…広島各地に競技ごと盛んな地域が誕生したこともあり、スポーツは人々の生活の一部となった。</p> <p>1945年8月6日。人類初の原子爆弾の惨禍により広島は壊滅したが、広島の人々は戦後復興の過程でもスポーツとの関わりをその力に変えた。</p> <p>そして今なお広島はスポーツとともに歩み続ける。</p> <p>2021年秋には国内初の女子プロサッカーリーグ、WEリーグがスタート。サンフレッチェ広島レジーナは、選手を全国からスカウトしてゼロからチームを作り上げた。スポーツの力で、女性の生き方そのものを変えていくという。こうして広島スポーツは新たな歴史を刻んでいく。</p> <p>2022年2月現在、JR広島駅ビルでは全面建て替え工事が進む。その建設現場には広島とスポーツの関わりを紹介する「広島ステーションスタジアム」が設置されている。</p> <p>およそ30年にも及ぶカープ取材や、Jリーグの立ち上げから今に至るまで、さらにはサッカーの日本代表戦、アトランタオリンピックなど国内外での取材経験豊富な教員が、世界に挑み続ける広島スポーツ史の中から、身近なエピソードや特筆すべき出来事について紹介する。</p> <p>100年を越えるこうした広島スポーツの歩みは、日本が経験した日清・日露戦争や2度の世界大戦と深く関わり、それ故、スポーツを愛する、応援する、プレーすることが、世界平和を希求する広島人の心と重なる。</p> <p>広島とスポーツと平和についての知識を深めることで、学校教育、社会教育の場などにおいて、様々な場面でその知識を活用できる。</p> <p>また、教員が放送局勤務時代に制作した90分スポーツ番組「広島スポーツ100年、最強伝説」を視聴して広島スポーツの根底にある「不動心」や「ライバルの存在」「創意工夫」「特筆すべき指導者のありよう」などについて理解を深めることで、スポーツとの関わり方をより有意義なものとする態度、習慣を身につける。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
10	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	心理学	藤澤 真智	1	2	現代は「心の時代」と言われるように、物質的な物では満たされない心の豊かさを人は求めています。自分自身への不確かさや人間関係への悩みなど、現代人ならではの悩みを誰もが抱え、誰しもが心への関心を強めています。 この授業では、「そもそも心理学はどんな学問なのだろうか、心理学で何がわかるのだろうか」といった素朴な関心・疑問に応えつつ、心理学の過去から現在に至る歴史を紐解き、人の心と行動を対象とする基礎心理学を中心に据えながら、今、様々な分野で応用されている心理学のすそ野の広がりを概観します。 医療、教育、福祉の分野で長年カウンセラーとしての臨床経験を持ち、それを生かしてカウンセリングや心理テストの演習も行います。皆さんの人間理解が深まることでしょう。
11	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国語表現法B	三藤 恭弘	1	2	本授業は「物語」の仕組みを学び、自ら創作できる表現技能の修得を目指す授業である。授業前半で「物語」の仕組みを構造的に分析し、どのような要素が「物語」を成立させているのかを学ぶ。また、学内行事「音楽と物語りの夕べ」に参加、鑑賞し感想を書く。後半は、自分自身で物語の材料を収集、構成し、「物語」(原稿用紙5枚)をノートパソコンにて創作、コンクールに応募する。 小学校教員志望者は、「初等国語Ⅰ」の基礎となるので極力履修すること。また、保育・幼児教育志望者も、「幼児の言語と遊び」の基礎となるので極力履修すること。 本授業は教育現場における「物語の創作」指導の経験のある教員が、物語論の知見に基づき指導する。
12	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	言語発達論A	川島 範章	1	2	なぜ子どもは生後数年後に流暢にことばを話すようになるのか、人はことばをどのように身につけていくのか？また、なぜ人間だけがことばを使えるのか、ことばの獲得・習得はどのような意味があるのか？ 本授業では、このようなことばの発達をめぐる問題について、保育・教育の観点から、考察できるようになることが本講義の目標である。本講義では、特に、乳幼児期に焦点を当てて考えていく。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
13	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	言語発達論B	川島 範章	1	2	なぜ子どもは生後数年後に流暢にことばを話すようになるのか、人はことばをどのように身につけていくのか？また、なぜ人間だけがことばを使えるのか、ことばの獲得・習得はどのような意味があるのか？ 本授業では、このようなことばの発達をめぐる問題について、保育・教育の観点から、考察できるようになることが本講義の目標である。本講義では、特に、幼児期以降に焦点を当てて考えていく。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
14	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	統計学A	藤原 庸隆	2	2	統計的なものの見方や統計手法の必要性が高まっているにもかかわらず、統計学はとかく敬遠されやすい。特に文科系の学生には、統計学は数学の一部という先入観からであろうか、その傾向が強いように思われる。 しかしながら、情報社会のなお一層の深化・発展にともない、われわれの周辺にはおびただしい量のデータが溢れるようになり、その多さにため息が出そうである。だからこそ大量のデータを適切に分析し、そのデータの意味するを読み解く力量が、昨今大いに求められる所以なのである。 本授業では、企業で統計学の実務経験のある教員が、その経験を活かして、まずは学生が統計学に親しみを持てるように、そして統計的なものの見方や統計手法を習得できるように懇切丁寧に指導する。
15	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	統計学B	藤原 庸隆	2	2	統計的なものの見方や統計手法の必要性が高まっているにもかかわらず、統計学はとかく敬遠されやすい。特に文科系の学生には、統計学は数学の一部という先入観からであろうか、その傾向が強いように思われる。 しかしながら、情報社会のなお一層の深化・発展にともない、われわれの周辺にはおびただしい量のデータが溢れるようになり、その多さにため息が出そうである。だからこそ大量のデータを適切に分析し、そのデータの意味するを読み解く力量が、昨今大いに求められる所以なのである。 本授業では、企業で統計学の実務経験のある教員が、その経験を活かして、まずは学生が統計学に親しみを持てるように、そして統計的なものの見方や統計手法を習得できるように懇切丁寧に指導する。
16	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本史A	大江 和彦	1	2	現役の地理歴史科日本史教員が担当します。中世(室町時代)までの高等学校日本史の発展的内容を、時代順に学修します。政治・社会・経済・文化などの視点を設定し、各時代の特色を、具体的な資料に基づいて科学的に考察します。歴史を学ぶ現代的意義を考えていく授業となります。高等学校で日本を選択していた人はもちろん、日本史を学んでみたい人も大歓迎です。
17	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本史B	大江 和彦	1	2	現役の地理歴史科日本史教員が担当します。近世から現代までの高等学校日本史の発展的内容を、時代順に学修します。政治・社会・経済・文化などの視点を設定し、各時代の特色を、具体的な資料に基づいて科学的に考察します。歴史を学ぶ現代的意義を考えていく授業となります。高等学校で日本を選択していた人はもちろん、日本史を学んでみたい人も大歓迎です。
18	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	備後の経済学	ひろぎんHD 経済産業 調査部	1	2	・金融業務、シンクタンク経験者が経済・金融・社会全般の動きや地域経済の状況について解説することを通じて、身近な知識として理解を深める。 ・地元経済の状況や企業の具体的な活動について知ることで、備後経済圏の経済・社会に対する理解を深める。 ・企業財務やお金と個人のライフステージの関係を通じて金融に関する理解を深める。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
19	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	TOEICセミナー	渡辺 清美	1	2	「多読」、Out loud (音読、シャドウイング、オーバーラッピング)などの英語学習法を用いて、TOEIC受験準備を行う。これらの学習方法は従来の文法主体の講義とは異なり、英語に慣れることを通してリスニングとリーディングのスキルを身につける方法である。定期的に模擬試験を行い、自らの課題を確認し、具体的な目標を個々に立てながら、授業を進めていくため、毎回、全体での演習と個々の目標に合わせた課題に取り組む。目標達成のために長期の海外経験があり、高校の英語免許を持つ教員がその経験を活かしながら、受講生の課題克服の指導を行う。
20	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本文化入門(茶の湯を通して)	河合 宗滋	1	2	茶道上田宗箇流、家元正教授資格を有した教員が、茶の湯を通して日本文化の素晴らしさを確認し、社会人としてのマナーや常識を身につける為に必要な知識を指導する。又、子供達の基礎教育を担うものとして、日本に伝わる文化を学ぶ為の実習を行う。
21	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際教養総論A	西川 京子	1	2	この講義のねらいは「持続可能な社会づくり(SDGs)に向けた小中学校地理教育実践」に必要な地理学的教養の修得です。全15回は3部構成で自然地理学、人文地理学、地誌学の順に学んでいきます。地理学の基礎的知識・理解定着のために、毎回小テストに取り組みます。地理学的思考力や技能の向上のため、第15回には一人10分の発表を行い、原稿付きPowerPoint資料と発表会の省察(A4、1枚)を提出します。小・中学校教諭や国内外の教員養成担当者等への研修講師の実績がある教員が、子ども達に学ばせたい地理学的見方・考え方を解説します。
22	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際教養総論B	西川 京子	1	2	この講義のねらいは、「SDGs(持続可能な社会づくり)に向けた小中学校教育実践」に必要な教養として、世界の各地域文化や問題をグローバルな視点から地理学的に理解することです。毎回小テストを解き、知識理解の定着を図ります。地理学的思考力や技能の向上のために第15回には一人10分の発表を行い、原稿付きPowerPoint資料と発表会の省察(A4、1枚)を提出します。小・中学校教諭や国内外の教育改善研修講師の経験のある教員が、子ども達に培いたい地理学的見方・考え方を解説します。□
23	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際協力論	西川 京子	1	2	現代の国際社会が抱える主要な問題群を解決するための国際協力のあり方について学びます。毎回、国際協力の見方・考え方や知識理解を深めるためのグループ活動や小課題に取り組み、その省察(A5、1枚)を提出します。また、一人1回、地球規模の問題とその解決策の成果と課題を調べ、自身が取り組む国際協力計画をたて、10分程度の発表原稿付きPowerPoint資料にまとめ、発表、質疑応答を行います。カンボジアやルワンダにおける国教育開発経験のある教員が国際協力の理論と実際を解説します。
24	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際理解教育論	西川 京子	1	2	現代は多様な人、モノ、事が国境を超えて行き交い、一人ひとりの暮らし方が、世界や未来のどこかの誰かの生活や人生に影響を与えています。本科目では、このような社会において、子ども達の自己実現をどのように支援していけばよいかについて、小学校教諭経験と、国内外の教員養成担当者への研修経験を生かして解説、指導していきます。毎回小テストを行い、次回に解説します。第15回には、10分の発表原稿付きPowerPoint資料と発表の省察(A4、1枚)の提出を課し、地球的課題とその教育計画について調べ、考察したことを発表し合います。
25	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本語・日本文化	三藤 恭弘	1	2	本授業は現代の日本がどのような文化的文脈の中で形成されてきたのか、説話や昔話、物語を学ぶことでその源流から現代への流れを理解しつつ、あわせて日本語についての知識、理解を深める。本授業は教育現場における「物語の創作」指導の経験のある教員が、物語論の知見に基づき指導する。(※本授業は留学生のみ受講できる。)
26	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	剣道A	高橋 和久	1	1	剣道の講話と実技を通して、試合技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。中学、高校の授業や部活動で剣道指導の実務経験を有する者が、その経験を活かして理論的かつ実践的に進めます。 (1)講義前半では、剣道衣と袴の着装(貸し出し)から「居合の動き」や「木刀による剣道基本技稽古法」も習得できます。 (2)講義後半の防具着装時には、安全対策としてマスクと面頭巾・手袋を着用し、「上段の技」や「二刀の技」までも教材として採用しています。
27	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	剣道B	高橋 和久	1	1	剣道の講話と実技を通して、試合技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。中学、高校の授業や部活動で剣道指導の実務経験を有する者が、その経験を活かして理論的かつ実践的に進めます。 (1)講義前半では、剣道衣と袴の着装(貸し出し)から「居合の動き」や「木刀による剣道基本技稽古法」も習得できます。 (2)講義後半の防具着装時には、安全対策としてマスクと面頭巾・手袋を着用し、「上段の技」や「二刀の技」までも教材として採用しています。
28	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語A	渡辺 清美	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
29	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語B	渡辺 清美	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
30	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語A(上級)	渡辺 清美	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
31	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語B(上級)	渡辺 清美	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
単位数(合計)					56	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
1	一般教育科目(看護)	地域行政入門A	山田 泰秀	1	2	私達に身近な地方公共団体(地方自治体)における政治・行政の仕組みを理解し、今日的行政課題に対してその解決手法を研究・検討するとともに、一人ひとりの将来目標を選択・実現するうえで参考になれば幸いである。元福山市職員、行政書士としての実務経験を活かしつつ、実践的な教育を行う授業を目指す。
2	一般教育科目(看護)	地域行政入門B	山田 泰秀	1	2	私達に身近な地方公共団体(地方自治体)における政治・行政の仕組みを理解し、今日的行政課題に対してその解決手法を研究・検討するとともに、一人ひとりの将来目標を選択・実現するうえで参考になれば幸いである。元福山市職員、行政書士としての実務経験を活かしつつ、実践的な教育を行う授業を目指す。
3	一般教育科目(看護)	数学A	藤原 庸隆	1	2	「読み・書き・そろばん(数学)」が、社会人としての基本的素養であることは今も昔も変わらない。このうち、特にそろばん(数学)の素養としての重要性は、情報社会の一層の深化・進展にともない、なお一層増しているのが実情である。 このような実情に鑑み、本授業では、これまで中学・高校を通して、長い年月をかけて学び、身につけているべき数学の基本的な知識や能力(数学リテラシー)を確認するとともに復習する。そして授業においては、企業で数学の実務経験のある教員が、その経験を生かして数学を学業上の問題・課題解決へ応用できるよう懇切丁寧に指導する。
4	一般教育科目(看護)	数学B	藤原 庸隆	1	2	「読み・書き・そろばん(数学)」が、社会人としての基本的素養であることは今も昔も変わらない。このうち、特にそろばん(数学)の素養としての重要性は、情報社会の一層の深化・進展にともない、なお一層増しているのが実情である。 このような実情に鑑み、本授業では、これまで中学・高校を通して、長い年月をかけて学び、身につけているべき数学の基本的な知識や能力(数学リテラシー)を確認するとともに復習する。そして授業においては、企業で数学の実務経験のある教員が、その経験を生かして数学を学業上の問題・課題解決へ応用できるよう懇切丁寧に指導する。
5	一般教育科目(看護)	キャリアデザイン I	赤木 邦江	1	2	大学生活のスタートにあたり、何のために「働く」のか、そして「働く」ということの本質となるものは何であるか、を考える。大学生活を経て初職に就く時、社会情勢の変化・環境はいつの時代にも厳しさはある。その中で自らの責任と選択により、有意義な人生を築くためのキャリアデザイン(職業人生)の設計・創造は、自己の描く未来への第一歩となる道標を見つけることである。 この講義では、「働く」ということの基礎知識を学び、キャリア形成のために、これからの大学生活で求められる学修・知識、ヒューマンスキルを自己理解することを期待する。 キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、大学生活の第一歩から「ワークキャリア」と「ライフキャリア」を築いていくための考え方や行動を指導する。
6	一般教育科目(看護)	キャリアデザイン II	赤木 邦江	2	2	「キャリアデザイン II」では、キャリアデザイン I で学修した『キャリアの見方＝捉え方』をベースに、「働く」ということの本質を、さらに具体化するために必要とされる自己理解・他者理解・相互理解、そして社会の理解を深め、より多面的に将来の自己のキャリアについて考えていく。職業観・キャリア観を認識する上で、社会の状況や雇用環境、就職を希望する業界の状況など『職業の経済学』の知識を得ることにより、近い将来の初職選択を意義あるものに構築する機会とする。 この講義では、自己を取り巻く環境を理解した上で、求められる人材として、自分自身の現在できること、これから取り組むべきことを主体的に熟慮できることを期待する。そして3年次で体験する「インターンシップ」に向け、自己の就業に関する方向性を明確にする力を養成する。 キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、就業意欲の向上と職業選択の具体的方策を指導する。
7	一般教育科目(看護)	福山歴史学	八幡 浩二	1	2	福山(備後)地域の遺跡・史跡、指定文化財や博物館の展示品など保存継承されてきた貴重な資料から多面的に歴史像を読み解き、地域の歴史や文化をたどってみる。覚える歴史から、考えて推理し語れる歴史への創造をめざす。また、広島大学埋蔵文化財調査室(現、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門)の勤務経験を活かし、博物館や考古資料に触れながら、講義を進めていく。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
8	一般教育科目(看護)	スポーツとメディア	田辺 一洋	1	2	<p>国内では雑誌が売れなくなり、新聞は全国紙・地方紙とも急速に部数を減らしている。米国新聞協会は2016年秋、組織名を「ニューメディア連合」に改称した。</p> <p>大学生も含めて「テレビ離れ」も進む。国内に目を移すと2017年には「どこでも、いつでもスポーツ中継」が楽しめるDAZNのサービスが本格化し、スポーツ中継と言えばテレビ画面ではなく、パソコンやスマホ画面が当たり前になった。</p> <p>小学生からシニア世代までスマホを使いこなし、Z世代に至っては「スマホ命」…</p> <p>このように、スポーツコンテンツ(ニュースなど)を伝えるメディアは、紙媒体と放送から通信へシフトしつつある。それと同時に、かつて情報の受け手側だった読者・視聴者は「Twitter」などで、「福山平成大学バレーボール部、全国大会出場決定！」などと、たやすく情報を発信できるようになった。</p> <p>広島での情報誌編集長を経て、スポニチの記者として国内外のスポーツ取材し、続いて中国放送、テレビ東京でスポーツニュース制作などに携わりインターネットでもスポーツ情報を発信中の教員が、カープ、サンフレッチェ広島、JTサンダーズなどの取材現場やオリンピック、サッカー日本代表戦など海外取材現場での経験も交えて、スポーツとメディアの「親和性」(ものごとを組み合わせた時の相性の良さ)について解説する。</p> <p>急速なIT化やDXの推進、AI技術の進化が世の中の仕組みを大きく変える中にある中、スポーツにおいて「人間がプレーする」「人が取材する」という根本のところは(ロボットが試合に参加しない限り)変わらない。ゆえにスポーツとメディアの「親和性」の中からこの先、どんな価値を見出していくか？</p> <p>スポーツコンテンツは巨額の放映権料なども生み出すが、こうしたスポーツビジネスでの「勝ち組み」となるために、今、新聞社も放送局も、動画配信運営サービスの会社も、魅力あるスポーツコンテンツをいかに「囲い込むか」に躍起になっている。</p> <p>その動きを学ぶことで、スポーツとスポーツ報道の持つ特性や広がり理解するとともに、将来、学校教育現場や地域社会・企業でのスポーツ活動と向き合う際に様々な対応が可能な知識を身に着ける。</p> <p>加えて「スポーツ」は「音楽」「マンガ」「ゲーム」「映画」…と他のキラーコンテンツとの「親和性」においても優れた特性を有し、故にここでもまた様々な「商品」が提供されている。</p> <p>情報の受け手側は、どのコンテンツを選択するか、その「眼力」も試される。</p> <p>生活を豊かにしたり、日々の学習にプラスとなるよう活用したり、将来の可能性をより高めたりできるよう、スポーツとメディアという親しみやすいテーマを通して、メディアリテラシーを高めていく。</p>
9	一般教育科目(看護)	広島スポーツ学	田辺 一洋	1	2	<p>広島スポーツが「国内最強」を誇った時代がある。</p> <p>1928年(昭和3年)、アムステルダム五輪で日本人初の金メダルに輝いた三段跳びの織田幹雄は、広島一中(現広島国泰寺高校)の出身である。当時の広島一中はサッカーでも全国を制し、そのスクールカラー「紫」がサンフレッチェ広島へ引き継がれている。サンフレッチェ広島は2022年4月、創立30周年を迎える。</p> <p>大正から昭和初期にかけ広島スポーツは続々に国内最強の時代を迎え、そして世界へ羽ばたいた。バレーボール、サッカー、野球、陸上競技、水泳…広島各地に競技ごと盛んな地域が誕生したこともあり、スポーツは人々の生活の一部となった。</p> <p>1945年8月6日。人類初の原子爆弾の惨禍により広島は壊滅したが、広島の人々は戦後復興の過程でもスポーツとの関わりをその力に変えた。</p> <p>そして今なお広島はスポーツとともに歩み続ける。</p> <p>2021年秋には国内初の女子プロサッカーリーグ、WEリーグがスタート。サンフレッチェ広島レジーナは、選手を全国からスカウトしてゼロからチームを作り上げた。スポーツの力で、女性の生き方そのものを変えていくという。こうして広島スポーツは新たな歴史を刻んでいく。</p> <p>2022年2月現在、JR広島駅ビルでは全面建て替え工事が進む。その建設現場には広島とスポーツの関わりを紹介する「広島ステーションスタジアム」が設置されている。</p> <p>およそ30年にも及ぶカープ取材や、Jリーグの立ち上げから今に至るまで、さらにはサッカーの日本代表戦、アトランタオリンピックなど国内外での取材経験豊富な教員が、世界に挑み続ける広島スポーツ史の中から、身近なエピソードや特筆すべき出来事について紹介する。</p> <p>100年を越えるこうした広島スポーツの歩みは、日本が経験した日清・日露戦争や2度の世界大戦と深く関わり、それ故、スポーツを愛する、応援する、プレーすることが、世界平和を希求する広島人の心と重なる。</p> <p>広島とスポーツと平和についての知識を深めることで、学校教育、社会教育の場などにおいて、様々な場面でその知識を活用できる。</p> <p>また、教員が放送局勤務時代に制作した90分スポーツ番組「広島スポーツ100年、最強伝説」を視聴して広島スポーツの根底にある「不動心」や「ライバルの存在」「創意工夫」「特筆すべき指導者のありよう」などについて理解を深めることで、スポーツとの関わり方をより有意義なものとする態度、習慣を身につける。</p>
10	一般教育科目(看護)	言語発達論	川島 範章	1	2	<p>なぜ子どもは生後数年後に流暢にことばを話すようになるのか、人はことばをどのように身につけていくのか？また、なぜ人間だけがことばを使えるのか、ことばの獲得・習得はどのような意味があるのか？</p> <p>本授業では、このようなことばの発達をめぐる問題について、保育・教育の観点から、考察できるようになることが本講義の目標である。本講義では、特に、幼児期以降に焦点を当てて考えていく。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
11	一般教育科目(看護)	英語A	浅井 智雄	1	1	グローバル化が進展する中、上手に英語を使って相手とのコミュニケーションをスムーズに展開する能力がより一層求められています。この能力は更に、異文化を理解して、多様な価値観への柔軟な対応力を高めることにも通じます。英語によるスムーズなコミュニケーションを展開させるための努力は、看護医療現場での様々な場面に対応できる力にも応用できるという点で、大変重要です。授業では、継続的に高校英語を復習するとともに、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」活動とその振り返りを通して、語彙文法力を基盤とした実践に役立つ英語力を身につけることを目指します。なお、本講義については、中学高校教育現場における教職経験がある教員がその経験を活かして、能動的に英語を学習する力の向上という課題への対応を指導する。
12	一般教育科目(看護)	英語B	浅井 智雄	1	1	グローバル化が進展する中、上手に英語を使って相手とのコミュニケーションをスムーズに展開する能力がグローバル化が進展する中、上手に英語を使って相手とのコミュニケーションをスムーズに展開する能力がより一層求められています。この能力は更に、異文化を理解して、多様な価値観への柔軟な対応力を高めることにも通じます。英語によるスムーズなコミュニケーションを展開させるための努力は、看護医療現場での様々な場面に対応できる力にも応用できるという点で、大変重要です。授業では、継続的に高校英語を復習するとともに、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」活動とその振り返りを通して、語彙文法力を基盤とした実践に役立つ英語力を身につけることを目指します。なお、本講義については、中学高校教育現場における教職経験がある教員がその経験を活かして、能動的に英語を学習する力の向上という課題への対応を指導する。
13	一般教育科目(看護)	英語A(上級)	渡辺 清美	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
14	一般教育科目(看護)	英語B(上級)	渡辺 清美	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
15	一般教育科目(看護)	心理学	藤澤 真智	2	2	現代は「心の時代」と言われるように、物質的な物では満たされない心の豊かさを人は求めています。自分自身への不確かさや人間関係への悩みなど、現代人ならではの悩みを誰もが抱え、誰もが心への関心を強めています。 この授業では、「そもそも心理学はどんな学問なのだろうか、心理学で何がわかるのだろうか」といった素朴な関心・疑問に応えつつ、心理学の過去から現在に至る歴史を紐解き、人の心と行動を対象とする基礎心理学を中心に据えながら、今、様々な分野で応用されている心理学のすそ野の広がりを概観します。 医療、教育、福祉の分野で長年カウンセラーとしての臨床経験を持ち、それを生かしてカウンセリングや心理テストの演習も行います。皆さんの人間理解が深まることでしょう。
16	一般教育科目(看護)	ボランティア活動論	木宮 高代	1	1	ボランティア活動は、社会のために自分ができることを行うことであり、暮らしや心の豊かさを向上させる重要な活動である。ボランティア活動の内容は多様化しており、活動分野も保健、医療、福祉、地域安全、環境、教育、文化、スポーツなど多岐にわたっている。 この授業では、看護の現場、地域社会の現場、災害の現場においてボランティア活動を実践した教員の経験を踏まえ、ボランティアの理念・目的・意義、現代社会におけるボランティア活動の現状、ボランティア活動を実践する際の基本原則を具体的な内容について講義し、社会の一員としての自覚と倫理観をもち、実際の活動を通して自己責任感や専門職としての基礎的経験学修の基礎力を養う。
17	一般教育科目(看護)	TOEICセミナー	渡辺 清美	1	2	「多読」、Out loud (音読、シャドウイング、オーバーラッピング)などの英語学習法を用いて、TOEIC受験準備を行う。これらの学習方法は従来の文法主体の講義とは異なり、英語に慣れることを通してリスニングとリーディングのスキルを身につける方法である。定期的に模擬試験を行い、自らの課題を確認し、具体的な目標を個々に立てながら、授業を進めていくため、毎回、全体での演習と個々の目標に合わせた課題に取り組む。目標達成のために長期の海外経験があり、高校の英語免許を持つ教員がその経験を活かしながら、受講生の課題克服の指導を行う。
単位数(合計)					29	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
1	経営学科	外書講読	渡辺 清美	2	2	ビジネスおよび経営に関する資料を教材にして、その内容の理解と同時に英語の運用能力をつけることを目的とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
2	経営学科	現代企業論	堀越 昌和	2	2	現代企業について学びます。この授業の目的は、二つあります。一つは、「企業とは何か」を理解することです。現代は企業の時代と言われるますが、皆さんは「企業」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。この授業では、主に日本の大企業を対象として、企業の基本的な構造や機能について、理論的に理解してゆきます。もう一つは、経済社会のなかで果たすべき企業の役割について、皆さん一人ひとり、あるいは、地域社会とのかかわりを踏まえながら、自分なりの意見を表明できるようになることです。そこで、この授業では、企業経営における経験がある教員により、実際の企業行動がもたらす成果と課題について、事例紹介を通じて、実践的に理解してゆきます。
3	経営学科	地域マネジメント	江口 圭一	2	2	・本講義では、地域活性化をはかるために地域をマネジメントしていく方法について学びます。講義とグループワーク、2回のフィールドワークを組み合わせた授業となります。 ・フィールドワークについては、福山市内の事業者、神石高原町内の事業者の視察を、それぞれ1回ずつ予定しています。 ・担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。そのうち4年間はブランドマネジメント部に所属していました。その経験から、地域のブランド化という視点から、地域の様々な課題についてより実践的な指導を行っていきます。
4	経営学科	ビジネス実務A	赤木 邦江	2	2	現代社会、特にビジネス社会の中に身を置くには、基本的な秩序やある一定の規範があることを認識しておく必要がある。「ビジネス実務A」では、ビジネス(実務)社会での行動における身の処し方(マナー・行動力・判断力・表現力などの必要とされる資質や言葉遣い、交際、事務技能など)の基本を学ぶ。そうして社会人として必要とされるスキルを身につけていく事によって、就職活動(インターンシップや企業訪問、面接など)に自信をもって進み、自らのキャリア形成を積極的に進めていく力を養成する。 企業における秘書経験、及び教育・キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設などでの社員・職員の教育指導・実務スキルアップ研修を、新人から管理職まで幅広く実施してきた経験を活かし、今後社会・組織人として求められるビジネス実務の教育指導を行う。
5	経営学科	ビジネス実務B	赤木 邦江	2	2	ビジネス社会においてビジネスパーソン・産業人として求められる秩序や規範の基本を、「ビジネス実務A」で学修したことをベースに、「ビジネス実務B」では、実社会において活用するスキルとしての応用力を身につけていく。ビジネス(実務)社会での行動における身の処し方(資質やマナー、言葉遣い、交際、事務技能等)をより深く理解し、実践できる力によって、今後の自身のキャリア選択を幅広く検討することが出来ることを期待する。 企業における秘書経験、及び教育・キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設などでの社員・職員の教育指導・実務スキルアップ研修を、新人から管理職まで幅広く実施してきた経験を活かし、今後社会・組織人として求められるビジネス実務の教育指導を行う。
6	経営学科	中小企業論	堀越 昌和	2	2	中小企業について学びます。日本企業の99.7%、広島県内企業の99.8%を占めるばかりでなく、本学の就職先にも沢山ある中小企業ですが、皆さんは「中小企業」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。中小企業の多くは、規模こそ小さいですが、地域に欠かせない存在として、小回りの良さを力に変えながら、スピーディーにダイナミックにチャレンジしています。この授業では、中小企業経営における経験を有する教員により、中小企業の特質や課題に関して、事例紹介を中心に、実践的に理解してゆきます。
7	経営学科	リテールマーケティング検定講座	小玉 一樹	2	2	私たちの生活はたくさんの商品に囲まれているが、それはメーカー(生産者)の努力だけで実現しているわけではない。商業・流通部門の役割も非常に重要である。本授業のねらいは、履修学生が将来商業・流通部門で活躍できる人材となるように、商業・流通の基礎的知識を修得することと、その達成度合いを測定するために、2月に実施されるリテールマーケティング(販売士)検定3級試験に合格することである。 小売流通業における実務経験がある教員が、その経験を活かしより実践的な課題への対応を指導する。
8	経営学科	企業倫理	堀越 昌和	3	2	「企業倫理」について学びます。現代は企業の時代と言われるように、私たちの生活に企業という存在は欠かせません。その一方で、ブラック企業や企業不祥事、環境破壊など、その影響力の大きさゆえに、人類社会や地球環境を脅かすのもまた、企業という存在にほかなりません。この授業では、企業の法令順守における経験がある教員により、企業倫理・コンプライアンス・CSRに関して、事例紹介を中心に学びつつ、現代社会における企業のあり方を考察します。
9	経営学科	ベンチャー企業論	堀越 昌和	3	2	「ベンチャー企業」について学びます。皆さんは「ベンチャー企業」と聞くと、フェイスブックやマイクロソフトなど、誰にも真似のできない革新的なビジネスを新たに創造する企業をイメージするのではないのでしょうか。ベンチャー企業には、そうしたイメージが当てはまる企業も多いことは事実ですが、既存のビジネスを組み合わせることで、地域や産業に変化をもたらす企業もたくさんあります。この授業では、ベンチャーファイナンスにおける経験を有する教員により、ベンチャー企業の創造のマネジメントについて、事例紹介を中心に学んでゆきます。その上で、ベンチャー企業の多様性を理解しつつ、キャリア選択としてのベンチャー起業の具体的な方法を検討してゆきます。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
10	経営学科	アントレプレナーシップ論	堀越 昌和	3	2	「アントレプレナーシップ」について学びます。アントレプレナーシップは一般に起業家精神のことを指します。独立して開業したり起業する人たちにとってだけ、必要な精神と思われるかも知れませんが、親の事業を継ぐ方や、社内でのプロジェクトを指揮する方など、どんな人にも、アントレプレナーシップは必要とされます。この授業では、起業家教育における経験を有する教員により、アントレプレナーシップに関して、事例紹介を中心に学びつつ、ご自身のキャリアデザインに必要なアントレプレナーシップについて考察します。
11	経営学科	コンピュータ会計	井口 芳也	2	2	本講義では、会計ソフトを利用した会計処理能力の習得を目的としている。今日の企業経理の現場において、会計処理の大部分が会計ソフトを利用して行われている。 簿記の仕組みをコンピュータによってシステム化した会計ソフトは、仕訳伝票をデータ入力することによって自動転記し、各種帳票類の作成から財務諸表の作成までを一元的にコンピュータ上で処理することを可能にした。さらに、この数値を利用した経営分析、予算作成、資金管理等は、企業経営における業績管理および意思決定の支援ツールとしてその重要性を広く認識されている。 講義では、税理士業を営んでいる教員が、その経験を生かして会計実務に直結した課題への対応を指導する。
12	経営学科	税務会計論	井口 芳也	3	2	私たちの日常生活に極めて関わりが深く、日常生活を営むうえで必ず直面する税法である「所得税法」の講義を行います。本講義では、基礎的な知識及び計算方法を取得し、実際に活用できるレベルに到達する事を目標に各回の講義を進めます。なお、本講義の担当講師は現職の税理士であり、事例等を用いた実務に直結した授業を行います。
13	経営学科	基礎演習 I	本田 良平	1	4	高校までの学びは、教えられること、覚えることが比較的多かったのに対し、大学での学びの多くでは、明確な答えがない中で、皆さんが自分なりに考え、自分なりの答えを出してゆくことが重要になります。その土台として、自ら知識を集め、考え、自分なりの意見や結論を導き出してゆく能力と、意見や結論を自らの言葉で明確にまとめて他の人に分かりやすく伝える能力の涵養が必要です。言い換えれば、文献や資料を正確に読み、自分の考えを的確に伝える、より高度な日本語運用能力が必要になるのです。 本講義では、大学で学ぶための基礎力としての高度な日本語運用能力を、受講者の皆さんが読み、書き両面で身につけることを主な目的としています。この能力の獲得により、情報を広く収集し、正確に吟味したうえで深く思考することが出来るようになり、問題の発見とその解決の能力が高まります。また、正確に読み、的確に書く能力の向上は、相手の話をよく聞き、また相手に言いたいことを十全に伝えるコミュニケーション能力の涵養にもつながります。 さらに、大学生活は受講者の皆さんが社会の一員たる大人になる準備の期間でもあります。このことから、本講義では受講生の皆さんに将来のキャリアについて意識を持てるようになることや、社会生活に必要な税に関する知識を身につけることも目的としています。
14	経営学科	海外研修 I	小玉 一樹	2	2	小売流通業経営に必要な理論と実践的知識および現地ビジネスでの問題解決のケーススタディを学習した後、現地研修を実施する。日本における学習との相乗効果によって、真に小売流通ビジネスで活躍できる人材を育成し、備後地域に供給することを目標とする。実施時期は9月初旬を予定している。なお、本講義については、企業において実務経験のある本授業担当教員が、経営学の理論に加え、その経験を活かしたより実践的な課題への対応を指導します。
15	経営学科	トビタテ留学JAPAN	渡辺 清美	2	2	福山市が行っているグローバル人材育成事業である「トビタテ留学JAPAN」に採用された学生が、研修の事前準備を行う授業です。
16	経営学科	インターンシップ	小玉 一樹	3	2	インターンシップ実習へ向けて、事前の準備や就職活動への活かし方など、知っておくと得をすること全てを知ることができます。 1. 先輩学生の体験談からインターンシップの「失敗」を知る。 2. 企業から人事担当者をお招きし、業界の説明を聞くことができる。 3. インターンシップ参加のためのエントリーシート対策ができる。 4. 自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識が育成される。 なお、本講義については、企業における人材採用経験がある教員が、その経験を活かしてより実践的な課題への対応を指導します。
17	経営学科	ゼミナール I	堀越 昌和	3	4	この講義では、中小企業経営について経験のある教員により、次の三つの内容の理解・習得を図っていく。①ケースやビジネスプランを題材として、「中小企業の経営の特長」を理解する。②キャリア選択の一つとしての企業研究を進めていくために必要な「中小企業を診る基本的な視点」を習得する。③中小企業に対する興味関心を深め、卒業研究のテーマを発見する。
18	経営学科	ゼミナール II	堀越 昌和	4	4	この講義では、中小企業経営について経験のある教員により、起業から承継へと至る中小企業のライフサイクルについて、事例紹介を中心に、理解していく。
単位数(合計)					42	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
1	福祉学科	福祉健康科学入門	岡部 真智子	1	2	本授業では、福祉健康科学をキーワードに福祉学科の各教員の研究・実践活動から幅広く学びます。本講義を通じて、福祉を学ぶ意義やイメージを膨らませ、4年間の福祉学科での学びの基礎づくりを行います。各回、福祉学科の教員が、福祉健康科学にかかる専門分野について、リレー形式で講義を担当するオムニバス授業です。詳細は1回目のガイダンスで確認して下さい。 実務経験を生かした授業科目：これまでの研究成果・教育活動を踏まえた授業内容とする。
2	福祉学科	人体の構造と機能及び疾病Ⅰ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 広範な医学の領域から、個人や集団を支える対人援助の現場で活動するために必要とされる事項を厳選し学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 本授業は、疾患の理解の基礎となる各器官、重要な疾患、心身の障害とリハビリテーション、ICFの考え方、健康の定義等、身体・疾患・健康に関わる一連の内容を概観しながら、その基礎的な理解を目指す。 なお、本授業の担当者は病院や在宅での臨床経験があり、その経験を活かした授業を行う。
3	福祉学科	人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 本科目は前期の同科目名Ⅰで、社会福祉士に必要な”人体の構造と機能及び疾病”に関する基礎的知識を修得した後に選択履修をする科目である。後期では、前期の学習内容の復習を踏まえることで、社会福祉士に求められる知識の習得を確実にする。また、福祉の教職につく者には必須科目であり、さらには健康を支援する職業に就く者、一般職に就く者、家庭に入る者にとっても、人の身体を知り、病気と健康に対する理解を深めることで、履修者個々の今後に活かせることを目的としている。 [授業全体の内容の概要] 本授業は、疾患の理解の基礎となる各器官、重要な疾患、心身の障害とリハビリテーション、健康の定義等、身体・疾患・健康に関わる一連の内容を概観しながら、その基礎的な理解を目指す。 なお、本授業の担当者は病院や在宅での臨床経験があり、その経験を活かした授業を行う。
4	福祉学科	医療的ケアⅠ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケアⅠでは、医療的ケア実施の基礎的知識として、関連する制度、医療的ケアと関連付けた個人の尊厳と自立、倫理上の留意点、チーム医療と連携、利用者の安全な療養生活・感染予防を学び、根拠に基づく「たんの吸引」の手順の基礎的知識と技術を学ぶ。 なお、本授業については、医療現場(病院・在宅)での就業経験のある教員がその経験を活かして、実践や現場における課題について言及し、学生の技術の習得と学習意欲を喚起する。そのほか、多職種連携の在り方などについて言及する。
5	福祉学科	医療的ケアⅡ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケアⅡでは、喀痰吸引と経管栄養という医行為を根拠に基づく手技で実施できるよう、基礎的知識と実施手順方法を学ぶ。 なお、本授業については、医療現場(病院)での就業経験のある教員がその経験を活かして、実践や現場における課題について言及し、学生の技術の習得と学習意欲を喚起する。そのほか、多職種連携の在り方などについて言及する。
6	福祉学科	医療的ケアⅢ	石橋 亜矢	4	1	[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する [授業全体の内容の概要] 医療的ケアⅢでは、喀痰吸引と経管栄養という医行為を根拠に基づく手技で実施できるよう、演習を中心に基礎的知識と実施手順方法を学ぶ。 「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生」の演習を行う。 ・口腔内吸引:5回以上 ・鼻腔内吸引:5回以上 ・気管カニューレ内部の吸引:5回以上 ・胃ろうによる経管栄養:5回以上 ・経鼻経管栄養:5回以上 ・救急蘇生法:1回以上 なお、本授業の担当者は、病院や在宅での臨床経験があり、限定的ではあるがその経験を活かした授業を行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
7	福祉学科	精神医学Ⅰ	森 麻子	3	2	精神疾患または精神障害について、その診断、症状、成因、治療または対応の留意点を理解する。 なお、本講義については、精神科総合病院、精神科救急病院での実務経験のある教員が、その経験を活かして多職種連携に必要な医学的知識を指導する。
8	福祉学科	精神医学Ⅱ	齊藤 晋治	3	2	講義のねらい 本講義では、我が国の精神科医療の実態を理解し、精神保健福祉士として必要な精神科医療の基本的知識を身に付けるとともに、以下の4点の習得することをねらいとする。 ①精神疾患の治療方法について理解する。 ②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科医病院内の入院形態や医療観察法について理解し、その中で精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。 ③精神科医病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。 ④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。 授業の概要 授業は講義形式とするが、グループワーク、ディスカッション等を併用する。講義ではテキストを中心にまとめたスライドを用いて展開する。授業開始時にスライドを基にしたレジュメを配布し、板書などを加えていく。 なお、本講義については、精神科病院で13年間精神保健福祉士として勤務した経験を持つ教員が、その経験を生かした授業を行う。
9	福祉学科	児童・家庭福祉	志賀 信夫	2	2	この授業は新しい保育士養成課程に準拠した内容で、子育て家庭への支援と保育の推進について理解する。特に「児童の権利に関する条約」の充実や「貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応」など、現代的な課題に対応できるよう理解する。
10	福祉学科	高齢者福祉	中司 登志美	2	2	[目的・ねらい] 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 [授業全体の内容の概要] 高齢者の特性を説明した上で、高齢者の生活実態や取り巻く社会環境について述べる。その上で、高齢者福祉の歴史をpushさつつ、高齢者の生活を支える法制度を具体的に述べる。更に、地域包括ケアシステムの中で、高齢者、家族、専門職、機関がどのような関係にあり、社会福祉士としてどう調整すべきかを考えることができる授業にする。 高齢者の医療、介護、福祉を支援内容としていた医療ソーシャルワーカー（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員の資格も所有している）の経験のある教員がこの授業を担当する。
11	福祉学科	医学概論	石橋 亜矢	2	2	[授業の目的・ねらい] 広範な医学の領域から、個人や集団を支える対人援助の現場で活動するために必要とされる事項を厳選し学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 本授業は、疾患の理解の基礎となる各器官、重要な疾患、心身の障害とリハビリテーション、ICFの考え方、健康の定義等、身体・疾患・健康に関わる一連の内容を概観しながら、その基礎的な理解を目指す。 なお、本授業の担当者は、病院や在宅での臨床経験があり、その経験を活かした授業を行う。
12	福祉学科	介護概論	大塚 和美	(社)2 (介)3	2	人権を基盤とした介護を理解し、介護福祉を支えている、または関わっている法制度やサービスを理解する。そのサービスの担い手である専門職や介護支援の実践、具体的な方法などを理解する。これらの理解を通して、誰もが避けて通ることができない『介護』について、理解を深めていく。 なお、「知る」「習得する」「考える」「振り返る」を繰り返し、介護に関する知識と技術を身につけられるように学ぶ。 また、本授業については、担当教員の介護福祉士としての実務経験を活かした授業を行う。
13	福祉学科	介護過程Ⅰ	中司 登志美	2	2	利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画（個別援助計画）を立案し、適切な介護サービスの提供ができるようにする。 介護過程の意義や介護過程を展開するための一連のプロセスとアセスメントの視点について基礎的理解ができるように、事例を用いながら学ぶ。 病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーの経験があり、個別支援計画やケアプランの作成経験がある教員がその経験を活かしてこの科目を担当する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
14	福祉学科	介護過程Ⅱ	中司 登志美	2	2	利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画(個別援助計画)を立案し、適切な介護サービスの提供ができるようにする。 介護過程の意義や介護過程を展開するための一連のプロセスとアセスメントの視点について基礎的理解ができるように、事例を用いながら学ぶ。 病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーの経験があり、個別支援計画やケアプランの作成経験がある教員がその経験を活かしてこの科目を担当する。
15	福祉学科	介護過程Ⅲ	中司 登志美	2	2	利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画(個別援助計画)を立案し、適切な介護サービスの提供ができるようにする。 介護福祉実習で情報収集した担当利用者の情報(アセスメント用紙)を用いて、介護過程の実践的展開を理解する。 病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーの経験があり、個別支援計画やケアプランの作成経験がある教員がその経験を活かしてこの科目を担当する。
16	福祉学科	介護過程Ⅴ	中司 登志美	3	2	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画(個別援助計画)を立案し、適切な介護サービスの提供ができる基本的能力を養う学習とする。 利用者の在宅生活を支援する介護過程の展開について学習し、理解する。 利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 病院や介護老人保健施設で、医療ソーシャルワーカーとして在宅支援の経験がある教員が担当する。経験を活かして、施設で暮らす人の支援と異なる点や方法を指導する。
17	福祉学科	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	中嶋 裕子	(社)1 (介)3	2	以下の項目について理解することを目的とする 1.精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わり 2.精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容 3.精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等 4.更生保護制度と医療観察法 5.社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用 相談支援の現場に携わった経験から支援者の心構えや考え方について伝える
18	福祉学科	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	中嶋 裕子	(社)1 (介)3	2	以下の項目について理解することを目的とする 1.精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わり 2.精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容 3.精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等 4.更生保護制度と医療観察法 5.社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用 相談支援の現場に携わった経験から支援者の心構えや考え方について伝える
19	福祉学科	老人福祉論Ⅰ	中司 登志美	(社)2 (介)1	2	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養う。人間の生活と社会の関わりを理解する。介護実践に必要な知識である介護保険制度を学習する。 少子高齢社会が進むわが国は、団塊の世代(昭和22年から24年のベビーブームの頃に生まれた世代)が65歳の高齢者になる2015年を経て、75歳になる2025年を目指して、今急ピッチで高齢者施策の改変や構築が行われている。高齢者の生活をとりまく制度の変遷を追いながら、「介護保険制度」を中心に、「老い」や「介護」「認知症」「介護過程」について学ぶ。 高齢者の医療、介護、福祉を支援内容としていた医療ソーシャルワーカー(介護支援専門員の資格も所有している)の経験のある教員がこの授業を担当する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
20	福祉学科	老人福祉論Ⅱ	中司 登志美	(社)2 (介)1	2	高齢者をとりまく状況を把握し、社会をみつめる感性や現代の高齢者の生き方や考え方について考える力を養う。そのために、高齢者の特性や高齢者をとりまく状況の歴史、現状について述べる。 また、医療と介護の連携、地域包括ケアの構築が注目されていることを理解する意味で、終末期ケア、介護の概念や対象についても述べる。 高齢者の医療、介護、福祉を支援内容としていた医療ソーシャルワーカー(介護支援専門員の資格も所有している)の経験のある教員がこの授業を担当する。
21	福祉学科	社会調査の基礎	杉本 浩章	(社)2 (介)3	2	本講では社会福祉の業務や調査研究方法について、社会調査の基礎理論や調査手法について学ぶ。また、国家試験受験対策に加え、卒業論文の作成、就職後のニーズや調査研究等に役に立つ講義とする。
22	福祉学科	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	中嶋 裕子	(社)2 (介)3	2	精神保健福祉士の役割、相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護、他職種との概念と範囲、多職種連携を学ぶ。 相談支援の経験から支援者の心構えや考え方について伝える。
23	福祉学科	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	大中 章	3	2	この授業のねらいは、「リハビリテーション」という視点から、精神障害者に対する生活支援を理解することである。精神保健福祉士には、精神障害者の社会復帰を促進するため、退院のための環境整備など、さまざまな生活支援を行うことが期待されている。しかし、「退院させさえすればよい」と単純に考えていると、症状の再発・再燃をはじめ、さまざまな問題が生じる可能性がある。支援には、「リハビリテーション」の理念と技術は欠かせない。そこで、この授業では、この「リハビリテーション」という視点から、望ましい支援のあり方を考えていきたい。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
24	福祉学科	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	大中 章	3	2	この授業のねらいは、「リハビリテーション」という視点から、精神障害者に対する生活支援を理解することである。精神保健福祉士には、精神障害者の社会復帰を促進するため、退院のための環境整備など、さまざまな生活支援を行うことが期待されている。しかし、「退院させさえすればよい」と単純に考えていると、症状の再発・再燃をはじめ、さまざまな問題が生じる可能性がある。支援には、「リハビリテーション」の理念と技術は欠かせない。そこで、この授業では、この「リハビリテーション」という視点から、望ましい支援のあり方を考えていきたい。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
25	福祉学科	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	中嶋 裕子	3	2	・精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 ・精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。 ・精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神科専門療法を含む)の知識と技術及び活用の方法について理解する。 ・精神障害者を対象とした相談援助技術(個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援相談支援の現場に携わった経験から支援者の心構えや考え方について伝える
26	福祉学科	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	中嶋 裕子	3	2	・精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神科専門療法を含む)の知識と技術及び活用の方法について理解する。 ・精神障害者を対象とした相談援助技術(個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む)の展開について理解する。 ・精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実践について理解する。 ・精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。 相談支援の現場に携わった経験から支援者の心構えや考え方について伝える
27	福祉学科	チームマネジメント論	藤井 宏明(福祉)	3	2	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う。 チームマネジメントに必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解できる内容を学ぶ。 介護福祉サービスでのチームマネジメントの経験を持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。
28	福祉学科	社会福祉援助技術論	中司 登志美	1	2	[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について学ぶ。 コミュニケーションの意義や概要、手法について学ぶ。 病院や介護老人保健施設において社会福祉援助技術を用いて業務を行う医療ソーシャルワーカーの経験のある教員が、その経験を活かして社会福祉援助技術を指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
29	福祉学科	発達と老化の理解	石橋 亜矢	1	2	<p>[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の成長と発達に関する基礎的な事項を学ぶとともに、老化に伴うところとからだの変化と生活への影響を学ぶ。 なお、本授業の担当者は、病院や在宅での臨床経験があり、限定的ではあるがその経験を活かした授業を行う。</p>
30	福祉学科	介護福祉学Ⅰ	大塚 和美	1	2	<p>「介護の基本(介護福祉学Ⅰ・Ⅱ)」は、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。</p> <p>『介護福祉の基本的な考え方』を理解するために、①介護福祉の基本となる理念、②介護福祉の役割と機能、③介護福祉士の倫理、④自立に向けた介護について学ぶ。</p> <p>『介護を必要とする対象者・暮らし・支援』を理解するために、⑤介護を必要とする人の理解、⑥介護を必要とする人の生活を支える仕組み、⑦協働する多職種の機能と役割について学ぶ。</p> <p>『介護実践における安全の確保』を理解するために、⑧介護における安全の確保とリスクマネジメント、⑨介護従事者の安全について学ぶ。</p> <p>なお、本講義については、担当者の介護福祉士としての実務経験を活かした授業を心掛ける</p>
31	福祉学科	介護福祉学Ⅱ	大塚 和美	2	2	<p>「介護の基本(介護福祉学Ⅰ・Ⅱ)」は、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。</p> <p>『介護福祉の基本的な考え方』を理解するために、①介護福祉の基本となる理念、②介護福祉の役割と機能、③介護福祉士の倫理、④自立に向けた介護について学ぶ。</p> <p>『介護を必要とする対象者・暮らし・支援』を理解するために、⑤介護を必要とする人の理解、⑥介護を必要とする人の生活を支える仕組み、⑦協働する多職種の機能と役割について学ぶ。</p> <p>『介護実践における安全の確保』を理解するために、⑧介護における安全の確保とリスクマネジメント、⑨介護従事者の安全について学ぶ。</p> <p>なお、本講義については、担当者の介護福祉士としての実務経験を活かした授業を心掛ける</p>
32	福祉学科	余暇生活支援法Ⅰ	中村 恵美	1	2	<p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを踏まえた上で、通所介護施設や入所施設で生活する対象者にはレクリエーションが必要であることを理解する。介護福祉の専門職に求められる能力のひとつである、通所介護施設や入所施設の要介護者を対象としたレクリエーション援助計画の作成と実施について学ぶ。</p> <p>介護福祉の基本的理念、地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを学ぶ。</p> <p>通所介護の利用者や入所施設で生活する要介護者にとって、レクリエーションはどのような意義があるのかを学ぶ。</p> <p>それらの方たちを対象としたレクリエーション援助計画を作成し、実習に臨む。</p> <p>なお、本講義については、高齢者の介護予防活動の経験を持つ教員が、利用者の生活歴や障害例といった背景をもとに生活支援を考える授業を指導する。</p>
33	福祉学科	余暇生活支援法Ⅱ	中村 恵美	2	2	<p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを踏まえた上で、通所介護施設の利用者や入所施設で生活する者の症状緩和を図るレクリエーションや、多数を対象にしたイベントの計画立案とその実施を学ぶ。</p> <p>介護を必要とする方たちにとっての余暇生活の意義を振り返り、1年次の実習で実施したレクリエーションの評価を行う。その後、イベントの立案企画準備を通じて、イベントを実施する能力を養う。さらに、症状別アプローチを学び、実習で実施できるように準備を進める。</p> <p>なお、本講義については、高齢者の介護予防活動の経験を持つ教員が、利用者の生活歴や障害例といった背景をもとに生活支援を考える授業を指導する。</p>
34	福祉学科	認知症の理解Ⅰ	中司 登志美	2	2	<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解が得られるように説明する。 認知症専用の介護老人保健施設、精神科病院の精神保健福祉士としての経験がある教員が担当する。現在も3箇所の認知症カフェを運営しているのでその経験も活かして、最新の認知症のケアや認知症に関する情報を授業に反映させる。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
35	福祉学科	認知症の理解Ⅱ	中司 登志美	2	2	<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解を深め、介護福祉士としての連携と協働、家族への支援について学ぶ。 認知症専用の介護老人保健施設、精神科病院の精神保健福祉士としての経験がある教員が担当する。現在も2箇所の認知症カフェを主宰しているのでその経験も活かして、最新の認知症のケアや認知症に関する情報を授業に反映させる。</p>
36	福祉学科	こころとからだのしくみⅠ	石橋 亜矢	2	2	<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造や機能を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間のこころのしくみを学び、人間の欲求、自己実現と尊厳を理解する。 からだのしくみを学ぶ。 なお、本授業の担当者は、病院や在宅での臨床経験があり、その経験を活かした授業を行う。</p>
37	福祉学科	こころとからだのしくみⅡ	石橋 亜矢	2	2	<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を学ぶ学習とする。 生活支援技術を実施する際の基本となるこころとからだのしくみを学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 移動に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 身支度に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 食事に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 排泄に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 なお、本授業の担当者は、病院や在宅での臨床経験があり、その経験を活かした授業を行う。</p>
38	福祉学科	リハビリテーション論	岡部 正道	2	2	<p>○介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解したうえで、介護の基本である尊厳のある生活や自立支援を踏まえたリハビリテーションを学ぶ。 ○リハビリテーションの理念を意義を正しく理解し、リハビリテーションの考え方や実践を通じた高齢者や障がい者の自立支援・介護予防の方法について学ぶ。 なお、本講義については、高齢者の介護予防活動の経験を持つ教員が、利用者主体の生活とリハビリを考える視点を持った授業を行う。</p>
39	福祉学科	コミュニケーション技術Ⅰ	藤井 宏明(福祉)	2	2	<p>対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。 介護を必要とする人とのコミュニケーションの基本、障害の特性に応じたコミュニケーションを概説する。 また、視覚障害者への指導経験をもつ教員が、その経験を活かして点字の活用方法について教授する。</p>
40	福祉学科	障害の理解Ⅰ	中司 登志美	2	2	<p>[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援について概説する。 精神科病院で精神障害者の支援を行う精神保健福祉士として働いていた教員が授業を担当する。</p>
41	福祉学科	介護技術Ⅰ	藤井 宏明(福祉)	1	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 生活支援の理解を伴う介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。自立に向けた移動介護の技術を身につけることで、生活支援技術の応用につながる基礎を学ぶ。 介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
42	福祉学科	介護技術Ⅱ	藤井 宏明(福祉)	1	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>要介護者の自立に向けた身じたくと排泄に関連する介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。身じたくと排泄に関する介護技術を身につけることで、生活支援技術の応用の範囲を広げる。</p> <p>介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>
43	福祉学科	介護技術Ⅲ	藤井 宏明(福祉)	2	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>要介護者の自立に向けた食事の介護に関連する介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。口腔ケアを含めた食事に関する介護技術を身につけることで、生活支援技術の応用の範囲を広げる。</p> <p>介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>
44	福祉学科	介護技術Ⅳ	藤井 宏明(福祉)	2	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>要介護者の自立に向けた入浴・清潔保持と休息・睡眠に関する介護に関連する介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。入浴・清潔保持と休息・睡眠に関する介護技術を身につけることで、生活支援技術の応用の範囲を広げる。</p> <p>介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>
45	福祉学科	生活支援技術Ⅰ	大塚 和美	2	1	<p>「生活支援技術Ⅰ」は、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識及び技術を学習する科目である。</p> <p>『生活支援の理解』では、介護福祉士が行う生活支援の意義と目的、ICF及び利用者主体の視点、利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方などを学ぶ。</p> <p>『居住環境の整備』では、住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内環境のあり方などを学ぶ。</p> <p>『福祉用具の意義』では、生活支援における福祉用具の重要性、適切な福祉用具を選ぶための視点などを学ぶ。</p> <p>『災害時における生活支援』では、被災地で活動する際の介護福祉士の役割と災害時における生活支援について学ぶ。</p> <p>なお、本講義については、担当者の介護福祉士としての実務経験を活かした授業を心掛ける。</p>
46	福祉学科	生活支援技術Ⅲ	石橋 亜矢	3	1	<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践をおこなうための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 内部障害の医学的側面の基礎知識を学ぶ。内部障害のある人の生活上の困りごとを学ぶ。内部障害のある人への支援の展開を学ぶ。内部障害のある人への支援の実際として、酸素チューブ・バルーンチューブ・人工肛門造設患者ケアについて対象者と家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を学ぶ。</p> <p>人生の最終段階にある人とその家族をケアする人に、終末期の支援やチームケアの実践を学ぶ。</p> <p>なお、本授業については、医療現場(病院・在宅)での就業経験のある教員がその経験を活かして、実践や現場における課題について言及し、学生の技術の習得と学習意欲を喚起する。</p>
47	福祉学科	生活支援技術Ⅳ	藤井 宏明(福祉)	3	1	<p>障害のある利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>知的障害、精神障害、発達障害、重症心身障害のある人への生活支援の理解を学ぶ。移動場面をはじめ各種生活場面における具体的支援方法について学ぶ。</p> <p>発達障害者支援の経験をもつ教員が、その経験を活かして支援方法を教授する。</p>
48	福祉学科	介護実習指導Ⅰ	藤井 宏明(福祉)	1	2	<p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>介護実習Ⅰのための準備を行う。</p> <p>介護福祉現場にて従事経験がある教員が、その経験を活かして実習指導を展開する。</p>
49	福祉学科	介護実習Ⅰ	藤井 宏明(福祉)	2	2	<p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。</p> <p>介護実習Ⅰは通所サービス(デイサービス、デイケア)で80時間(2週間)行い、介護福祉士の役割や他職種の業務を把握し、利用者の生活を理解した上で個々の状況に合わせた介護技術を学ぶ。また同時に利用者や家族とのコミュニケーションも実践する。</p> <p>介護福祉現場にて従事経験がある教員が、その経験を活かして介護実習を指導する。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
50	福祉学科	介護実習Ⅱ	中司 登志美	2	3	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 介護実習Ⅱは、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設、認知症グループホーム、障害者支援施設等で160時間(4週間)行い、利用者個々の状況に合わせた介護技術、コミュニケーションの方法を習得する。 また、介護過程の実践的展開を身に付けるために、まず、最も重要であるアセスメントを体験する。特定の利用者を担当して、その利用者に関する生活全体の情報を収集し、利用者の課題分析を実践する。 介護福祉現場にて従事経験がある教員が、その経験を活かして介護実習を指導する。
51	福祉学科	介護実習Ⅲ	中司 登志美	3	5	①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ②利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。 介護福祉現場にて従事経験がある教員が、その経験を活かして介護実習を指導する。
52	福祉学科	専門演習Ⅱ(卒業論文を含む)	岡部 真智子	4	4	各自のテーマに即した卒業論文の執筆上の指導、調査活動の指導・助言を行う。途中経過を確認しながら、ゼミ生相互のピアレビューを進める。 実務経験を生かした授業科目:研究を行っている教員が持つ研究の方法論を伝達する
			藤井 宏明(福祉)			この授業の目的は、卒業論文を完成させることにあります。3年次から行っている卒業研究指導を継続・発展させて、論文完成まで行います。 また、中間発表、最終発表を通して、プレゼンテーション能力の向上に結び付く演習を行います。 介護福祉現場の勤務経験のある教員が、社会福祉現場の課題にそった卒論テーマを指導する。
53	福祉学科	研究演習A	岡部 真智子	4	2	社会福祉士・精神保健福祉士養成にかかる講義系科目の基礎的な知識、技術、価値を理解する。 実務経験を生かした授業科目:社会福祉士資格を有する教員により、相談援助専門職に不可欠な知識・技術・価値を伝達する。
			大塚 和美			・介護福祉士国家試験筆記試験問題の11科目群の復習を通して、介護福祉士に必要な知識・技術・価値を定着させるための学びを行う。その上で、介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 ・本研究演習Aにおいては、①社会の理解、②介護過程、③認知症の理解の科目内容を行う。 なお、本講義については、担当者が介護福祉士や介護教員として働いていた際の知見を基に授業を行う。
54	福祉学科	研究演習B	大塚 和美	4	2	介護福祉士国家試験筆記試験問題の11科目群の復習を通して、介護福祉士に必要な知識・技術・価値を定着させるための学びを行う。その上で、介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 本研究演習Bにおいては、①人間の尊厳と自立および介護の基本、②人間関係とコミュニケーションおよびコミュニケーション技術、⑩総合問題の科目内容について触れる。 なお、本講義については、担当者が介護福祉士や介護教員として働いていた際の知見を基に授業を行う。
55	福祉学科	研究演習C	大塚 和美	4	2	介護福祉士国家試験筆記試験問題の11科目群の復習を通して、介護福祉士に必要な知識・技術・価値を定着させるための学びを行う。その上で、介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 本研究演習Cにおいては、⑥発達と老化の理解、⑧障害の理解、⑨こころとからだのしくみの科目内容について触れる。 なお、本講義については、担当者が介護福祉士や介護教員として働いていた際の知見を基に授業を行う。
56	福祉学科	研究演習D	岡部 真智子	4	2	社会福祉士・精神保健福祉士養成にかかる講義系科目の応用可能な知識、技術、価値を理解する。 実務経験を生かした授業科目:社会福祉士資格を有する教員により、相談援助専門職に不可欠な知識・技術・価値を伝達する。
			大塚 和美			介護福祉士国家試験筆記試験問題の11科目群の復習を通して、介護福祉士に必要な知識・技術・価値を定着させるための学びを行う。その上で、介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 本研究演習Dにおいては、④生活支援技術、⑩医療的ケアの科目内容について触れる。 なお、本講義については、担当者が介護福祉士や介護教員として働いていた際の知見を基に授業を行う。
57	福祉学科	社会福祉援助技術演習Ⅲ	向井 通郎	3	2	社会福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術の中でも、特にその根底となる価値観や理論モデルに基づく基本的な技法について、実践的に習得し、学ぶことを目的とする。そのために、グループディスカッションや多様なワークを活用しつつ、学びを深める。 なお、本講義の担当者については、介護支援専門員・障害者相談支援専門員としての実務経験を有している。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
58	福祉学科	社会福祉援助技術演習Ⅳ	向井 通郎	3	2	講義科目との関連性を視野に入れつつ、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことが出来る能力を涵養する。特に、社会福祉士の専門性や、各分野・援助技術の繋がりを援助過程の中で見据えつつ、柔軟な思考力と行動力、発言力を養い、自らの実践を意識化できることをめざす。この演習では、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、相談援助技術の統合化をめざす。 なお、本講義の担当者については、介護支援専門員・障害者相談支援専門員としての実務経験を有している。
59	福祉学科	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	中嶋 裕子	3	2	[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士としてソーシャルワークを展開する実践力を身につける。当事者の視点で生活者の問題を見つけ、多様な技術・技法のバリエーションを駆使しながら精神保健福祉士として対等な立場でその人に寄り添った支援を展開できるようになる。 [授業全体の内容の概要] 精神保健福祉援助技術について理解を深めるためロールプレイ、グループディスカッション、事例検討を中心に授業を展開する。相談支援の現場に携わった経験から支援者の心構えや考え方について伝える
60	福祉学科	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	中嶋 裕子	3	2	[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士としてソーシャルワークを展開する実践力を身につける。当事者の視点で生活者の問題を見つけ、多様な技術・技法のバリエーションを駆使しながら精神保健福祉士として対等な立場でその人に寄り添った支援を展開できるようになる。 [授業全体の内容の概要] 精神保健福祉援助技術について理解を深めるためロールプレイ、グループディスカッション、事例検討を中心に授業を展開する。相談支援の現場に携わった経験から支援者の心構えや考え方について伝える
61	福祉学科	カウンセリング	大中 章	1	2	この授業のねらいは、「聞き上手になる」ということである。そのためには、共感的な態度と傾聴の技術を身につけなければならない。これらは、専門家の行う心理カウンセリングの基礎であると同時に、福祉サービスの提供をはじめ、学校での教育など、あらゆる対人援助サービスの基礎でもある。「聞き上手になる」ためには、カウンセリングの知識を習得するだけでなく、練習を積み、聞く技術を身につけていく過程が欠かせない。そこで、この授業では、講義と共に、「聞く」ということを実際にやってみる演習も取り入れていきたい。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
62	福祉学科	カウンセリングⅡ	大中 章	4	2	この授業のねらいは、「聞き上手になる」ということである。そのためには、共感的な態度と傾聴の技術を身につけなければならない。これらは、専門家の行う心理カウンセリングの基礎であると同時に、福祉サービスの提供をはじめ、学校での教育など、あらゆる対人援助サービスの基礎でもある。「聞き上手になる」ためには、カウンセリングの知識を習得するだけでなく、練習を積み、聞く技術を身につけていく過程が欠かせない。そこで、この授業では、講義と共に、「聞く」ということを実際にやってみる演習も取り入れていきたい。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
63	福祉学科	福祉用具専門相談員論Ⅰ	大塚 和美	2	2	介護保険では、「利用者本位」「高齢者の自立支援」「利用者による選択(自己決定)」を基本理念として掲げている。 この基本理念をもとに福祉用具についても、高齢者の自立支援、介護者の負担軽減を図る観点から、福祉用具の貸与や特定福祉用具購入費の支給などのサービスが位置づけられており、年々利用者が拡大してきている。このサービスの指定基準(人員基準)において義務付けられているのが「福祉用具専門相談員」である。 福祉用具に関する専門的知識に基づく助言を行う者である「福祉用具専門相談員」を目指し、福祉用具の知識を身に着け、高齢者福祉また障害者福祉の一端を担えるようになる。 なお、本講義については、担当者が介護福祉士として働いていた際の知見を基に授業を行う。
64	福祉学科	福祉用具専門相談員論Ⅱ	大塚 和美	2	2	介護保険では、「利用者本位」「高齢者の自立支援」「利用者による選択(自己決定)」を基本理念として掲げている。 この基本理念をもとに福祉用具についても、高齢者の自立支援、介護者の負担軽減を図る観点から、福祉用具の貸与や特定福祉用具購入費の支給などのサービスが位置づけられており、年々利用者が拡大してきている。このサービスの指定基準(人員基準)において義務付けられているのが「福祉用具専門相談員」である。 福祉用具に関する専門的知識に基づく助言を行う者である「福祉用具専門相談員」を目指し、福祉用具の知識を身に着け、高齢者福祉また障害者福祉の一端を担えるようになる。 なお、本講義については、担当者が介護福祉士として働いていた際の知見を基に授業を行う。
65	福祉学科	精神保健福祉援助実習	大中 章	4	4	この授業のねらいは、精神保健福祉分野の実践現場に実際に赴き、そこでの経験を通して、精神保健福祉士に必要な実践力を身につけることである。具体的には、利用者やその家族との援助関係の形成、生活問題の把握と援助計画作成、多職種との連携のあり方などの、精神保健福祉士に必要な知識・技能・態度を身につけることに努める。 相談支援の経験から支援者の心構えや考え方について伝える

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
66	福祉学科	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	大中 章	3	2	この授業のねらいは、実践から学ぶ技術を身につけることにある。講義や演習で学ぶ知識や技術は、理論モデルであって、それだけでは、本当に役立つ援助はできない。精神保健福祉の実践現場とその利用者の実際について具体的に知ることで、その場とそこに適した援助を生み出していかねばならない。そこで、この授業では、講義や演習で学んだ知識や技術を確認すると同時に、実践に関する文献講読や現場体験を通して、理論を使って実践を理解すること、実践を通して理論を再発見することなど、実践から学ぶことを、試みてもらいたいと思う。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
			中嶋 裕子			この授業のねらいは、実践から学ぶ技術を身につけることにある。講義や演習で学ぶ知識や技術は、理論モデルであって、それだけでは、本当に役立つ援助はできない。精神保健福祉の実践現場とその利用者の実際について具体的に知ることで、その場とそこに適した援助を生み出していかねばならない。そこで、この授業では、講義や演習で学んだ知識や技術を確認すると同時に、実践に関する文献講読や現場体験を通して、理論を使って実践を理解すること、実践を通して理論を再発見することなど、実践から学ぶことを、試みてもらいたいと思う。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
67	福祉学科	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	大中 章	4	2	この授業のねらいは、配属実習のための準備を整えることにある。配属実習を行うためには、事前学習や実習生として望ましい態度の確認、実習計画書の作成など、さまざまな準備が必要である。この授業では、このような配属実習にともなう具体的な作業を通して、講義や演習、その他から学んだことすべてを統合し、精神保健福祉士に必要な資質を身につけるよう、取り組んでもらいたいと思う。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
			中嶋 裕子			この授業のねらいは、配属実習のための準備を整えることにある。配属実習を行うためには、事前学習や実習生として望ましい態度の確認、実習計画書の作成など、さまざまな準備が必要である。この授業では、このような配属実習にともなう具体的な作業を通して、講義や演習、その他から学んだことすべてを統合し、精神保健福祉士に必要な資質を身につけるよう、取り組んでもらいたいと思う。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
68	福祉学科	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	大中 章	4	2	この授業のねらいは、配属実習における体験の意味を理解することにある。実習体験は、そのままでは実践に活用することは難しい。体験は、それを言語化することによってはじめて、そこから得た知識・技術・態度が身についたものとなる。この授業では、グループワークや福祉実習報告会での発表、福祉実習報告書の作成を通して実習体験を言語化し、講義や演習、その他から学んだことをすべて統合して、実習体験の意味を理解するよう努めてもらいたいと思う。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
			中嶋 裕子			この授業のねらいは、配属実習における体験の意味を理解することにある。実習体験は、そのままでは実践に活用することは難しい。体験は、それを言語化することによってはじめて、そこから得た知識・技術・態度が身についたものとなる。この授業では、グループワークや福祉実習報告会での発表、福祉実習報告書の作成を通して実習体験を言語化し、講義や演習、その他から学んだことをすべて統合して、実習体験の意味を理解するよう努めてもらいたいと思う。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
69	福祉学科	社会的養護	矢野川 祥典	3	2	子どもの養育が困難、あるいは養育を委ねることが適切でない等の理由から家庭での養育・教育を期待できない場合、養育者に代わって社会全体で次の世代を担う子どもの成長・発達をはかることが必要となる。また、児童福祉施設、乳児院、あるいは里親・養子家庭を中心とした社会的養護のシステムと内容について学ぶ。 また、特別支援学校において実務経験のある担当者が、実際に対応、経験した社会的養護に関する事例や支援方法、関係機関の業務内容等を紹介し、理解を深めることを目指す。
70	福祉学科	社会的養護演習	矢野川 祥典	3	1	子どもの養育が困難、あるいは養育を委ねることが適切でない等の理由から家庭での養育・教育を期待できない場合、養育者に代わって社会全体で次の世代を担う子どもの成長・発達をはかることが必要となる。児童福祉施設、乳児院、あるいは里親・養子家庭を中心とした社会的養護のシステムと内容について、「社会的養護」での基礎知識を活かし、グループワーク等により具体的かつ実践的に学ぶ。 また、特別支援学校において実務経験のある担当者が、実際に対応、経験した社会的養護に関する事例や支援方法、関係機関の業務内容等を紹介し、より実践的に理解を深めることを目指す。
71	福祉学科	子ども家庭支援の心理学	川島 範章	3	2	乳幼児期は発達において重要な時期であり、また、家庭をはじめとする環境の影響を大きく受ける時期でもあるため、幼稚園教諭・保育者は子どもの心身の発達過程を理解する必要がある。そこで、本講義では子どもの発達と家庭支援について、心理学的観点から、①生涯発達、②家族・家庭、③子育て家庭の現状、④子どもの精神保健の4つのテーマを取り上げ、子どもと家庭の支援のあり方を理解することを目指す。 また、子どもの発達と家庭支援に関する心理学の基礎的知識の獲得を目指すことに加え、子育て家庭に関する課題を自分自身と関連付けて考えたり、現代の社会状況を分析したりすることができることを目指す。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
72	福祉学科	子どもの理解と援助	中嶋 裕子	3	1	教育心理学の内容を踏まえて、より実践的に子どもの発達と保育者の役割について理解を深める。子ども同士の関わりの広がりや、学びの過程で遊びが果たす役割、保育者の援助のポイントについて解説する。 保育士の資格を保有し、子育てや子育て支援に携わった者としての立場や保育園との関わりなどについても言及する。
73	福祉学科	子どもの保健	池田 真理子	3	2	保育者として子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義をや子どもの身体発育や生理機能の発達について学ぶ。また、子どもの健康状態の把握に必要な基本的・基礎的知識を身に付けるとともに、子どもの疾病予防や保健管理・保健指導における適切な対応や支援について講義する。さらに子どもを取り巻く現代的な課題への対応についても健康の観点から講義を行う。この授業では、保健分野における経験がある教員がその経験を生かして実践的に指導する。
74	福祉学科	子どもの健康と安全	池田 真理子	3	1	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について具体的に学ぶ。また、子どもの発達や状況に応じた適切な対応、感染対策や子どもの安全を守るため安全管理の仕方や救急処置等について、演習を中心とした学習を行う。 小学校養護教諭としての経験を活かし、体験的かつ実践的に課題への対応について指導する。
75	福祉学科	保育内容・指導法(健康)	永井 純子	3	2	子どもが健やかに伸び伸びと成長していくためには、心身ともに健康であることが大切である。しかし、現代社会の子どもを取り巻く環境は大変憂慮すべき状態にある。健康教育を専門分野とする学校教育経験のある教員が、健康についての知識・理解を深める指導を行うとともに、「健康」領域の観点から、幼児期の子どもの運動機能、精神的発達および豊かな心と健やかな体を育てるための保育内容、指導方法について技能を高め、保育者としての資質を高める。
76	福祉学科	保育内容・指導法(人間関係)	中嶋 裕子	3	2	子どもたちが安心して園生活を送り、楽しさや充実感を獲得するとともに豊かなことばを身につけること、その基盤となる人間関係の重要性を考へながら、保育者の役割、共に育つことの意味を学びあう。 なお、講義担当者は保育士の資格保有者である。子育てや子育て支援事業に携わった者としての支援者、支援を受ける側の立場や心理、関係構築を含んだ講義を実施する。
77	福祉学科	保育内容・指導法(環境)	中原 大介	3	2	子どもが成長していくうえで、周囲の環境による影響は大きい。乳幼児にとって家族や保育者、友だちといった人的環境はもちろんのこと、その子どもが使ったり、触れたり、通ったりする物的環境との関わりも重要となる。子どもたちは、自分を取り囲む周囲の環境と相互的に作用しながら発達していくのである。 そこで本授業では、子ども一人一人の成長や発達を保証するために、子どもにとってどのような環境構成が望ましいのかを考え、それを実践できる力を獲得することをねらいとする。 なお、本授業は小学校で幼稚園と小学校の接続の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
78	福祉学科	保育内容・指導法(言葉)	小野 順子	3	2	乳幼児期の言葉の役割と機能を理解した上で、『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』における言葉の獲得に関する領域「言葉」のねらいおよび内容、指導について学ぶ。 また、手遊びや素話などの文化財やことば遊びに関する演習や発表を通して、表現力を高め、乳幼児の言葉の発達の過程を理解し、保育内容の指導や援助のあり方について考察することを目的とする。 なお、本授業は幼児教育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
79	福祉学科	保育内容・指導法(表現)	佐伯 岳春	3	2	・子どもの表現に関わる心身の発達や保育における環境構成および具体的な展開を学び、子どもの豊かな感性や表現する力について必要な知識・技術への理解を深める。 ・子どもが感じたことや考えたことを自分なりに楽しく表現することを援助する保育者に求められる「保育者としての表現」を構想して実践する。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
80	福祉学科	体育 I	永井 純子	3	2	運動は人間の体を動かすという本源的な欲求に答えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びを与え、健康の保持増進、体力の向上など心身の両面にわたる人間形成に多大な影響を与え、とりわけ、子どもにとっては、運動が健全な発達に資するものであることが知られています。この授業では、学校現場における体育指導経験がある教員が集合・整列・笛の吹き方等、集団指導の方法を指導する他、集団の特性および各運動種目の持つ特性・ねらいを理解した上で、創意工夫を重ねた体育の指導方法や援助の仕方などを身につけることを目標とする。
81	福祉学科	音楽 I	伊藤 憲孝	3	2	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、音楽の基礎である楽譜の仕組みを学び、自己の語法とする。「旋律・律動・和声」という音楽の3要素を的確に表現し他者に伝えるために存在する楽譜の仕組みを理解し体得する。理論を学びそれを実践へとつなげ、基礎的な音楽表現能力を高めることを目的とする。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
82	福祉学科	図画工作 I	佐伯 岳春	3	2	・子どもが創造することの楽しさを感じることができる造形的な表現の創造活動を展開するための基礎的な知識・技能を制作活動をとおして身につける。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
83	福祉学科	幼児の言語と遊び	三藤 恭弘	3	2	乳幼児期の言葉の役割と機能を理解し、言葉を獲得させるための保育の在り方を考え、保育内容「言葉」のねらい・内容・支援の方法を身に付けることを学ぶ。 また、絵本などの教材に関わる演習・発表を通して、乳幼児の言葉の発達過程を実践的に理解する。 なお、本授業は初等教育において教育経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
84	福祉学科	乳児保育	小野 順子	3	2	保育士として必要な乳児保育の基礎知識と技術を修得することを目的とする。保育者の役割や援助方法、乳児の生活や遊びの実態について理解を深め、望ましい保育内容について考察する。 なお、本授業は幼児教育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
85	福祉学科	乳児保育演習	甲斐 弘美	3	1	保育士として必要な乳児保育の基礎知識と技術を修得することを目的とする。保育者の役割や援助方法、乳児の生活や遊びの実態について理解を深め、望ましい保育内容について考察する。この授業では、保育園・認定こども園における乳幼児保育の経験のある教員が、その経験を活かして、実践的な課題への対応を指導する。また、西田啓子助産師の協力を得て、乳児への接し方についてデモンストレーションをしていただく。
86	福祉学科	ピアノ奏法 I	伊藤 憲孝	3	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノの原理・特性、奏法の初歩、読譜の初歩等、教育現場で必要とされる基礎を演奏を通して学ぶ。音楽の3要素であるリズム(律動)、メロディー(旋律)、ハーモニー(和音)の理解を中心にすえ、演奏・実践を通して音楽的感性を養う。豊かな演奏とはどのようなものかを一步一步学ぶ。
87	福祉学科	教職実践演習(幼・小)	古賀 一博	4	2	小学校または幼稚園の教員・保育士としての教育実践力が身につけているかを確認するため、「教員の職務内容」、「学校教育現場の諸課題への対応」、「レディネスと教育活動の実際」、「学級経営」、「保護者との連携協力」、「教科内容の指導力」及び「保育内容の指導力」の7段階の授業を行う。これらの修得状況を段階的に確認しながら、補うべき課題を重点的に指導する。グループ討議、模擬授業及び模擬保育を受けての実技指導等を適宜実施する。なお、教育・保育現場での実務経験を持つ教員が、現場の実態に即した指導・演習を行う。
88	福祉学科	基礎演習 I	藤井 宏明(福祉)	1	2	この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習 I においては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。なお、本講義については、福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			崔 銀珠			この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習 I においては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。なお、本講義については、福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			石橋 亜矢			この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習 I においては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。なお、本講義については、医療現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			大塚 和美			この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習 I においては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。なお、本講義については、福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
89	福祉学科	基礎演習Ⅱ	藤井 宏明(福祉)	2	2	授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」「書くこと」「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。なお、本講義については、福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			崔 銀珠			授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」「書くこと」「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。なお、本講義については、福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			石橋 亜矢			授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」「書くこと」「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。なお、本講義については、医療現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			大塚 和美			授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」「書くこと」「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。なお、本講義については、福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
単位数(合計)					171	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
1	こども学科	教育心理学	川島 範章	1	2	教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「学習評価(教育評価)」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本授業では教育心理学の基礎的な知識を学ぶ。 幼児および児童が主体的な学習活動を支援するために必要なそれぞれの発達段階における心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解することを目的とする。また、各発達段階に応じた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解することを目指す。 その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
2	こども学科	子ども家庭支援の心理学	川島 範章	1	2	乳幼児期は発達において重要な時期であり、また、家庭をはじめとする環境の影響を大きく受ける時期でもあるため、幼稚園教諭・保育者は子どもの心身の発達過程を理解する必要がある。そこで、本講義では子どもの発達と家庭支援について、心理学的観点から、①生涯発達、②家族・家庭、③子育て家庭の現状、④子どもの精神保健の4つのテーマを取り上げ、子どもと家庭の支援のあり方を理解することを目指す。 また、子どもの発達と家庭支援に関する心理学の基礎的知識の獲得を目指すことに加え、子育て家庭に関する課題を自分自身と関連付けて考えたり、現代の社会状況を分析したりすることができることを目指す。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
3	こども学科	特別支援教育論	矢野川 祥典	1	2	担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を活かし、特別支援教育に関する理念や制度、各障害の特性と支援内容等について講義する。特に通常学級に在籍している発達障害や知的障害のある幼児、児童及び生徒の障害特性と心身の発達、「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法及び配慮、すなわち「合理的配慮」について学ぶ。 また、肢体不自由や病弱、視覚障害や聴覚障害、言語障害等を有する幼児、児童及び生徒の障害特性と心身の発達、援助・支援方法及び配慮のあり方について学び、インクルーシブ保育・教育に関する理解を深める。 さらに、障害を有する子どもの「困りごと」や保護者の「困りごと」に対応するため、関係機関との連携の必要性について学ぶ。
4	こども学科	幼児理解	川島 範章	1	2	幼児理解は幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。まず、幼児理解の基本となる子どもの発達や学習に関する心理学の理論を理解することを目指す。加えて、幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度に関して、臨床心理学におけるカウンセリングの基礎的な知識を習得する。 また、幼児理解の具体的な技法である観察と記録の方法を理解し、映像や事例を基に実際に分析・考察を行う。 その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
5	こども学科	基礎演習 I	永井 純子	1	1	基礎演習は、大学1年生のための導入教育として開講される授業である。目標を持って大学生生活を主体的に学修する意欲を高めるとともに、実務経験のある教員の指導により、必要な基礎的知識および汎用的技能の習得をはかる。また、最近の子どもを取り巻く課題等について少人数での意見交換やグループ活動を行い、思考力や表現力を培うとともに、教師や友人との良い人間関係力の育成をはかる。
			川島 範章			基礎演習 I は大学での導入教育として開講される授業であり、高校と大学の学びの橋渡しをすることを目的とする。大学生活や大学での学びについて理解し、大学での学びに必要なとされる基礎的なスキルを習得することを目的とする。また、大学の4年間の学びを方向付けるために、キャリアデザインについても取り組む。 キャリアデザインについては、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
			足立 登志也			本授業は、目的をもって大学での学びに取り組み、4年間の学修を円滑に図るための意識の持ち方、学びの方法、ルール、マナーなど基礎的知識、基本的技能を身につけるとともに、保育・教職履修カルテで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。授業においては、保育・教育の実践現場に出た時のことを想定して、豊かなコミュニケーション能力や主体的、積極的な態度の形成を重視する。なお、本授業は小学校勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
			西川 京子			大学での学び方の理解と教育的・社会的意義のある教育学的研究テーマの模索に向けて、文献購読やプロジェクト活動(遊び場の企画・実践、学外における体験活動を4回)を行います。小学校教諭及び国内外の教師や教育関係者への研修経験をいかして、子どもや教育に対する見方・考え方を深め、体験しながら問題意識を抱けるよう指導します。
			矢野川 祥典			基礎演習 I は、大学での導入教育として開講される授業である。大学生活における学修に慣れるとともに、授業の履修方法や文献検索の方法、レポートの書き方や発表の仕方など学び方の基本やルールを習得すること等、授業全般を通して確認していく。 そして、自らの力で4年間の学習や生活に見通しを持ち、目標を立て、計画、実行していけるよう実践的に学ぶ姿勢を培っていくことを目標とする。 担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、発達が気になる子どものみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、理解を図る。
佐伯 岳春	・大学で学んでいくために必要な知識やスキルを教員から学ぶ。また、キャリアを模索する1年次にあたって、社会に出て必要と考えられる自分自身の個性を形成していく知識、スキル、その表現方法について理解を深める。 ・演習で、他者とのディスカッションやICT機器の活用をとおして学び、円滑な学生生活の基盤形成を目指す。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る。					

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
6	こども学科	基礎演習Ⅱ	永井 純子	1	1	実務経験のある教員が将来の進路選択に向けて情報提供を行い、目標を具体化させる。大学での授業、実習、模擬試験等から進路を明確化するとともに、就職への準備を開始する。そのために必要な実践的な演習を行い、基礎的知識・技能を習得する。また、個別指導やグループディスカッション等により、思考力や表現力、課題解決力を育成する。
			川島 範章			将来の進路選択に向けて情報提供を行い、目標を具体化させる。大学での授業、実習、模擬試験等から進路を明確化させるとともに、就職への準備を開始させる。そのために必要な知識・技能に関する助言を行う。 また、実習で必要な文章作成に関する指導を行う。 キャリアリサーチについては、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
			足立 登志也			「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学での専門的な学習のために必要とされるスタディ・スキルズの中でも、特に読むことと書くことを実践的に習得することをねらいとする。なお、本授業は小学校勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
			西川 京子			プロジェクト活動(遊び場の企画・実践、学外体験活動4回)と文献購読、発表を行い、授業で解説する保育・教育者に必要な「CEReZO」力を高め、教育者としての教育的・社会的意義のある研究テーマを模索します。小学校教諭経験と国内外の教員や教員養成担当者、教育行政の関係者に対する各種研修経験をいかして、教育学的見方・考え方の基礎を培います。
			矢野川 祥典			・1年次の基礎的な学びを基盤とし、興味・関心のある事柄について文献を読み、考察する力を高める。 ・子どもとの関わりを通して得た気づきなどからテーマを選び、レポートにまとめる力を高めることを目指す。 ・保育者・教育者に求められる他者と協働していく力をつけるために、ゼミ学生が協力して実践する活動を行う。 ・担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、発達が気になる子どものみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、活用方法の理解を図る。
			佐伯 岳春			・キャリア形成に必要な情報や、身につける知識やスキルを整理し、選択し習得することを目指す。また、他者とICTによるコミュニケーションをとおして、社会に出て必要と考えられる自分自身の理解を深める。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る。
7	こども学科	専門演習Ⅰ	三藤 恭弘	3	2	本授業は、卒業論文を執筆するための基礎的知識・基本的技能を身につけるとともに、ディプロマポリシーで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。 授業では、言葉に関わる保育・教育、あるいは言葉に関わる文化や物語的な社会事象等について課題を発見し、文献を収集、卒論作成を進めるとともに、就職に向けての実務的な学修、準備もおこなう。 なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			川島 範章			本授業では、受講生の関心や進路の希望を考慮しながら、卒業論文作成に向けたテーマ設定と研究計画の作成を行う。卒業論文作成のために必要な知識・技能の習得、基本的な資料の収集、自身の関心の明確化などを行うことを目的とする。また、キャリア形成のため、採用試験等に向けて、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
			伊藤 憲孝			演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、子ども・児童を取り巻く音楽的現状を把握するとともに、卒業研究発表に向けて演奏曲目を吟味するためにはどのような方法があるのか等々、本演習では問題の焦点化、方法の吟味、分析方法の紹介を演習形式でとりながら行うことにより、卒業研究表をするための基礎的能力を育成することを目的とする。
			足立 登志也			本授業は、卒業論文を執筆するための基礎的知識・基本的技能を身につけるとともに、保育・教職履修カルテで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。授業では、生活科や総合的な学習の時間の内容、意義、指導法を中心に小学校で進める授業や学級経営について、文献を収集したり、レポートを作成したりする。また、それをもとにしてディスカッションを行い、論文作成の準備をするとともに、就職に向けての情報収集も行う。なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			西川 京子			卒業論文作成のために必要な知識・技能の習得をねらいとしています。ねらいを達成するために、学生自身の関心や進路の希望を考慮しながら、卒業論文作成に向けた基礎的文献の収集と講読、テーマの明確化、研究計画の発表と改善を行い、遊び場づくり等の実践を通して、子どもの実態と研究の往還を図ります。小学校教諭時代と国内外の教師や教員養成担当者等への研修経験を活かし、教育学的見方・考え方・実践研究のあり方を指導します。
			矢野川 祥典			本授業では、受講生の関心や進路の希望を考慮しながら、卒業論文作成に向けたテーマ設定と研究計画の作成を行う。卒業論文作成のために必要な知識・技能の習得、基本的な資料の収集、自身の関心の明確化などを行うことを目的とする。 担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、「発達が気になる子ども」のみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、より実践的な活用方法の理解と習得を図る。
			佐伯 岳春			・子どもの造形的な視点や考え方を学び、子どもの発達段階に合わせ、生活や社会のなかで形や色と豊かに関わる資質・能力を育成するには、何をすべきかについて考える。 ・興味があることや卒業後の進路に活かせる研究テーマをゼミでのディスカッションやグループワーク等で深め、論文の作成を進める。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
8	こども学科	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	三藤 恭弘	4	4	本授業は、卒業論文を執筆するための基礎的知識・基本的技能を身につけるとともに、ディプロマポリシーで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。 授業では、言葉に関わる保育・教育、あるいは言葉に関わる文化や物語的な社会事象等について課題を発見し、文献を収集、卒論作成を進めるとともに、就職に向けての実務的な学修、準備もおこなう。 なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			古賀 一博			「専門演習Ⅰ」で学んだことを生かして、卒業研究にふさわしいテーマを決定し、計画的に調査研究活動を進め、卒業論文を完成させるとともに、卒業論文発表会において効果的な発表ができるようになることをねらいとする。 卒業論文のテーマを決定して研究計画書を作成し、各自で調査研究を進めて行き、6月に卒業論文中間発表会を行う。卒業論文を仮完成させた後に丁寧に推敲を行い、より良い論文として完成させる。完成後は、要旨や発表会用スライドを作成し、卒業論文発表会において効果的な発表ができるようリハーサルを行う。 また、調査研究を進めていく上では、中学校・高等学校英語教諭としての経験のある教員が、小学校を含めた日本の英語教育について教育現場の実情に即した視点の提供や助言を行う。
			川島 範章			本授業では、受講生の関心や進路の希望を考慮しながら、卒業論文の完成に向け、自分の関心を明確にし、基本的な資料の収集、論文作成のために必要な知識・技能の習得などを行う。4年間の学習の成果を卒業論文という形にまとめることを目的とする。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
			伊藤 憲孝			演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、子ども・児童を取り巻く音楽的現状を把握するとともに、卒業研究発表に向けて課題を吟味するためにはどのような方法があるのか等々、本演習では問題の焦点化、方法の吟味、分析方法の紹介を演習形式でとりながら行うことにより、卒業研究発表をするための発展的能力を育成することを目的とし、その成果を卒業研究発表としてまとめます。
			足立 登志也			本授業は卒業論文作成することを主要な目的とするとともに、保育・教職履修カルテで求められる知識、技能、資質、能力の修得をねらいとする。 授業では、各自の論文に関する課題の発見、考察、探究を行い、発表・討議を繰り返すことを通して卒業論文を作成するとともに、就職に向けた実践的な準備を進める。 なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			西川 京子			専門演習Ⅰでの中間発表の成果と課題をふまえ、テーマの明確化、先行研究、文献の収集・講読・分析・考察を行い、卒業論文・抄録・スライドを完成させ、発表と質疑応答できることをねらっています。小学校教諭経験と国内外の教師や教員養成担当者等への研修経験を活かし、教育学や教育実践の発展に寄与する見方・考え方・研究のあり方を指導します。
			矢野川 祥典			本演習では、学生の興味・関心や進路の希望を考慮し、卒業論文の作成に取り組む。卒業論文完成のために、研究計画を立て、それに基づき資料収集や調査を行い、データを集め分析する。得られた結果から考察を行い、論文としてまとめる。 担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、発達が気になる子どものみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、より実践的な活用方法の理解と習得を図る。また、インクルーシブ保育・教育について、より理解を深める機会とする。
			佐伯 岳春			・自身の興味ある分野や卒業後の進路に活かせる研究テーマを考察し卒業論文を執筆する。 ・研究の内容をICTを用いて分かりやすく広く社会に発信できる方法などを考察する。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る。
	黒木 貴人	「専門演習Ⅰ」で学んだことを生かして、卒業研究にふさわしいテーマを決定し、計画的に調査研究活動を進め、卒業論文を完成させるとともに、卒業論文発表会において効果的な発表ができるようになることをねらいとする。 卒業論文のテーマを決定して研究計画書を作成し、各自で調査研究を進めて行き、6月に卒業論文中間発表会を行う。卒業論文を仮完成させた後に丁寧に推敲を行い、より良い論文として完成させる。完成後は、要旨や発表会用スライドを作成し、卒業論文発表会において効果的な発表ができるようリハーサルを行う。 また、調査研究を進めていく上では、中学校・高等学校英語教諭としての経験のある教員が、小学校を含めた日本の英語教育について教育現場の実情に即した視点の提供や助言を行う。				
9	こども学科	保育キャリア演習Ⅰ(保・幼)	中原 大介	3	1	保育者として必要な保育実践力の基礎を学修することで、自らのキャリアに対する意識を高めていくことを目的とする。地域の保育現場での観察や、行事の立案から振り返りまでのPDCAサイクルを経験的に学ぶことなど、グループ討論を交えながら子どもを理解することや保育者のかかわりについて学修を深める。 近隣の幼稚園、こども園等のご協力をいただきながら学習を進めます。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
10	こども学科	保育キャリア演習Ⅱ(保・幼)	中原 大介	4	1	保育者として必要な保育実践力の基礎を確認し、活用することで、自らのキャリアに対する意識を深めていくことを目的とする。ゲストスピーカーとしての現場の園長・保育者を交えてのグループ討論、保育現場の観察・参加、子育て広場への参加等を通して、保育者としての職務、保育観・こども観についての理解を深める。
11	こども学科	教育キャリア演習Ⅰ(小)	三藤 恭弘	3	1	小学校教員に求められる資質・能力の実際を知り、その資質・能力の基盤を育むとともに、自分とのマッチングについて検討することをねらいとする。 資質・能力の基盤を育むことを目的とするため、基礎的知識・技能はもちろん、実技や社会的教養等幅広く身に付けていく。 なお、本授業は初等教育において教育経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
12	こども学科	教育キャリア演習Ⅱ(小)	古賀 一博	4	1	「こども実務演習B」の内容をさらに発展させ、学校現場での教諭の経験がある教員が、その経験を生かして、小学校教員志望者を対象に、初任者教師として即戦力となる実務の演習を行う。 3年間の自己の学びの振り返りを行い、教師に必要とされる資質のうち、自分に足りないものを再確認する。そのうえで、主体的・協働的な学びを通して、教師としてふさわしい表現技法、国や任命権者の教育政策の学習、学習指導案の即興的作成と模擬授業などを行う。
13	こども学科	子ども家庭福祉	矢野川 祥典	2	2	この授業は新しい保育士養成課程に準拠した内容で、子育て家庭への支援と保育の推進について理解する。特に「児童の権利に関する条約」や「児童福祉法」などに基づいた子どもの支援に関する理念や原理について知ると共に、「貧困家庭」「外国籍の子どもとその家庭への対応」「虐待」など、現代的な課題に対応できるように理解を深める。
14	こども学科	子育て支援	中原 大介	3	1	現代の子育てを巡る状況を知り、その上で子育て支援の意義と課題について理解する。 保育士の専門性を背景とした保護者支援について理解を深める。 事例検討やロールプレイといったグループワークを通じ、現場へ出た際の実践力と思考力の涵養に努める。 近隣のこども園のご協力を得ながら、子育て支援の実践について体験的に学習する機会を設けます。
15	こども学科	子どもの理解と援助	矢野川 祥典	2	1	保育者が望ましい保育を行っていくためには、子ども一人ひとりにふさわしい保育実践及び発達について理解を深めることが必要である。そこで本講義では、これまでに学んできた幼児児童理解や教育心理学等の知見を踏まえつつ、より効果的な保育を展開するための基本事項について、理解することを目的とする。 また、特別支援学校において実務経験のある担当者が実際の支援方法を紹介し、「発達が気になる」子どもへの理解と援助・支援方法、配慮等について、定型発達の乳幼児と併せて学ぶ機会とする。さらに、保護者との連携や支援、関係機関等との連携の在り方について学ぶ。 授業では、映像資料などによる具体的な事例をもとに、自ら主体的に学び、考察力を高めるためのレポート課題提出を求める。また、ケースによりペアワークやグループワークなどを取り入れ討論や意見交流を行い、多様な視点から子どもの心身の発達や学びの理解を深めることを目指す。
16	こども学科	社会的養護	矢野川 祥典	2	2	子どもの養育が困難、あるいは養育を委ねることが適切でない等の理由から家庭での養育・教育を期待できない場合、養育者に代わって社会全体で次の世代を担う子どもの成長・発達をはかることが必要となる。また、児童福祉施設、乳児院、あるいは里親・養子家庭を中心にした社会的養護のシステムと内容について学ぶ。 特別支援学校において実務経験のある担当者が、実際に対応、経験した社会的養護に関する事例や支援方法、関係機関の業務内容等を紹介し、理解を深めることを目指す。
17	こども学科	社会的養護演習	矢野川 祥典	2	1	子どもの養育が困難、あるいは養育を委ねることが適切でない等の理由から家庭での養育・教育を期待できない場合、養育者に代わって社会全体で次の世代を担う子どもの成長・発達をはかることが必要となる。児童福祉施設、乳児院、あるいは里親・養子家庭を中心にした社会的養護のシステムと内容について、「社会的養護」での基礎知識を活かし、グループワーク等により具体的かつ実践的に学ぶ。 また、特別支援学校において実務経験のある担当者が、実際に経験した社会的養護に関する事例や支援方法、関係機関の業務内容等を紹介し、理解を深めることを目指す。
18	こども学科	子どもの保健	池田 真理子	3	2	保育者として子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義をや子どもの身体発育や生理機能の発達について学ぶ。また、子どもの健康状態の把握に必要な基本的・基礎的知識を身に付けるとともに、子どもの疾病予防や保健管理・保健指導における適切な対応や支援について講義する。さらに子どもを取り巻く現代的な課題への対応についても健康の観点から講義を行う。この授業では、保健分野における経験がある教員がその経験を生かして実践的に指導する。
19	こども学科	子どもの健康と安全	池田 真理子	3	1	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について具体的に学ぶ。また、子どもの発達や状況に応じた適切な対応、感染対策や子どもの安全を守るため安全管理の仕方や救急処置等について、演習を中心とした学習を行う。 小学校養護教諭としての経験を活かし、体験的かつ実践的に課題への対応について指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
20	こども学科	介護概論	大塚 和美	2	2	人権を基盤とした介護を理解し、介護福祉を支えている、または関わっている法制度やサービスを理解する。そのサービスの担い手である専門職や介護支援の実践、具体的な方法などを理解する。これらの理解を通して、誰もが避けて通ることができない『介護』について、理解を深めていく。 なお、「知る」「習得する」「考える」「振り返る」を繰り返し、介護に関する知識と技術を身につけられるように学ぶ。 また、本授業については、担当教員の介護福祉士としての実務経験を活かした授業を行う。
21	こども学科	生活研究	足立 登志也	1	2	生活科の教科書の内容を研究しながら、生活科という教科の意義、指導内容に関する知識、技能の総合的な習得をはかる。また、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムに代表される望ましい保幼小連携教育について考える。 なお、本授業は小学校で生活科の授業および幼小連携研究の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
22	こども学科	体育Ⅰ	永井 純子	2	2	運動は人間の体を動かすという本源的な欲求に答えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びを与え、健康の保持増進、体力の向上など心身の両面にわたる人間形成に多大な影響を与え、とりわけ、子どもにとっては、運動が健全な発達に資するものであることが知られています。この授業では、学校現場における体育指導経験がある教員が集合・整列・笛の吹き方等、集団指導の方法を指導する他、集団の特性および各運動種目の持つ特性・ねらいを理解した上で、創意工夫を重ねた体育の指導方法や援助の仕方などを身につけることを目標とする。
23	こども学科	体育Ⅱ	永井 純子	2	2	本時は中学校における勤務経験のある教員がその経験を活かして実践的な指導を行う。 1. 子どもの発達に応じた運動の実技・指導・補助ができるようにする。 2. 幼児期には、運動に対する不安感・恐怖心が大きいため、その感情を考慮した体育の指導ができるようにする。 3. また、運動の得意な子どもに対して向上心を養えるような「できた」を感じる指導ができるようにする。 4. 体育(運動)が嫌いにならないように導入から「楽しい」と感じることができ体育指導を目指し、指導の現場に直結した授業を行う。
24	こども学科	音楽Ⅰ	伊藤 憲孝	2	2	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、音楽の基礎である楽譜の仕組みを学び、自己の語法とする。「旋律・律動・和声」という音楽の3要素を的確に表現し他者に伝えるために存在する楽譜の仕組みを理解し体得する。理論を学びそれを実践へとつなげ、基礎的な音楽表現能力を高めることを目的とする。
25	こども学科	音楽Ⅱ	伊藤 憲孝	2	2	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、音楽の基礎である楽譜の仕組みを学び、自己の語法とする。「旋律・律動・和声」という音楽の3要素を的確に表現し他者に伝えるために存在する楽譜の仕組みを理解し体得する。理論を学びそれを実践へとつなげ、基礎的な音楽表現能力を高めることを目的とする。
26	こども学科	図画工作Ⅰ	佐伯 岳春	2	2	・子どもが創造することの楽しさを感じることができる造形的な表現の創造活動を展開するための基礎的な知識・技能を制作活動をとおして身につける。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
27	こども学科	図画工作Ⅱ	佐伯 岳春	3	2	・児童が創造することの楽しさを感じることができる造形的な表現の創造活動を展開するための基礎的な知識・技能を制作活動をとおして身につける。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導する。
28	こども学科	幼児の言語と遊び	三藤 恭弘	2	2	乳幼児期の言葉の役割と機能を理解し、言葉を獲得させるための保育の在り方を考え、保育内容「言葉」のねらい・内容・支援の方法を身に付けることを学ぶ。 また、絵本などの教材に関わる演習・発表を通して、乳幼児の言葉の発達過程を実践的に理解する。 なお、本授業は初等教育において教育経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
29	こども学科	保育内容・指導法(健康)	永井 純子	3	2	授業の概要 子どもが健やかに伸び伸びと成長していくためには、心身ともに健康であることが大切である。しかし、現代社会の子どもを取り巻く環境は大変憂慮すべき状態にある。学校現場で教育経験のある教員が、健康についての知識・理解を深める指導を行うとともに、「健康」領域の観点から、幼児期の子どもの運動機能、精神的発達および豊かな心と健やかな体を育てるための内容及び指導方法を修得し、保育者としての資質を高める。
30	こども学科	保育内容・指導法(人間関係)	川島 範章	2	2	本講義では、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、乳幼児期の子どもの発達の基礎となる「人間関係」をどのように育てていくのかを学ぶ。具体的には、他者とのかかわりを通じた発達が期待される意欲や態度、情動(愛情や信頼感、自立心等)について、それらの育ちを支える保育者の役割、望ましい援助の在り方や評価等の指導法について考える。また、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることを目的とする。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
31	こども学科	保育内容・指導法(環境)	中原 大介	2	2	子どもが成長していくうえで、周囲の環境による影響は大きい。乳幼児にとって家族や保育者、友だちといった人的環境はもちろんのこと、その子どもが使ったり、触れたり、通ったりする物的環境との関わりも重要となる。子どもたちは、自分を取り囲む周囲の環境と相互的に作用しながら発達していくのである。 そこで本授業では、子ども一人一人の成長や発達を保証するために、子どもにとってどのような環境構成が望ましいのかを考え、それを実践できる力を獲得することをねらいとする。 なお、本授業は小学校で幼稚園と小学校の接続の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
32	こども学科	保育内容・指導法(言葉)	小野 順子	2	2	乳幼児期の言葉の役割と機能を理解した上で、『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』における言葉の獲得に関する領域「言葉」のねらいおよび内容、指導について学ぶ。 また、素話や手遊びなどの児童文化財やことば遊びに関する演習や発表を通して、表現力を高め、乳幼児の言葉の発達の過程や保育内容の指導、援助のあり方について考察することを目的とする。 なお、本授業は幼児教育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
33	こども学科	保育内容・指導法(表現)	佐伯 岳春	2	2	・子どもの表現に関わる心身の発達や保育における環境構成および具体的な展開を学び、子どもの豊かな感性や表現する力について必要な知識・技術への理解を深める。 ・子どもが感じたことや考えたことを自分なりに楽しく表現することを援助する保育者に求められる「保育者としての表現」を構想して実践する。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
34	こども学科	幼児の描画理解とその指導	佐伯 岳春	2	1	・子どもの描画発達の過程について学び、年齢に合わせた描画活動に対する理解を深める。 ・描画トレーニングを継続して行い、描画能力を育成する。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
35	こども学科	乳児保育	小野 順子	2	2	保育士として必要な乳児保育の基礎知識と技術を習得することを目的とする。保育者の役割や援助方法、乳児の生活や遊びの実態について理解を深め、望ましい保育内容について考察する。 なお、本授業は幼児教育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
36	こども学科	乳児保育演習	甲斐 弘美	2	1	保育士として必要な乳児保育の基礎知識と技術を修得することを目的とする。保育者の役割や援助方法、乳児の生活や遊びの実態について理解を深め、望ましい保育内容について考察する。この授業では、保育園・認定こども園における乳幼児保育の経験のある教員が、その経験を活かして、実践的な課題への対応を指導する。また、西田啓子助産師の協力を得て、乳児への接し方についてデモンストレーションをしていただく。
37	こども学科	障がい児保育Ⅰ	矢野川 祥典	2	1	障がい及び障がい児の基礎知識や保育を中心とする発達を促す取り組みについて学び、人間発達に影響する諸要因の理解、及び保育と学校教育との関係を理解する。 特別支援学校において実務経験のある担当者が実際の支援方法を紹介し、「発達が気になる子ども」に対する理解及び援助・支援方法、配慮の在り方について学ぶ。 また、障害当事者である本人と併せ保護者への支援、関係機関との連携による支援体制の在り方等について学ぶ。 授業では映像資料などによる具体的な事例をもとに、多様な視点から子どもの心身の発達を学び、支援方法や配慮等について理解を深めることを目指す。
38	こども学科	障がい児保育Ⅱ	矢野川 祥典	2	1	障がい及び障がい児に関する基礎知識や保育を中心とする発達を促す取り組みについて学び、人間発達に影響する諸要因の理解、及び保育と学校教育との関係について、より実践的に理解する。 また、特別支援学校において実務経験のある担当者が実際の支援方法を紹介し、「発達が気になる子ども」に対する理解及び援助・支援方法、配慮の在り方等について、より具体的に学ぶとともに、インクルーシブ保育・教育に対する理解をさらに深める。 障害当事者である本人と併せ保護者への支援、関係機関との連携、情報の共有や引継ぎで必要となる「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等について、学ぶ。 授業では映像資料などによる具体的な事例をもとに、多様な視点から子どもの心身の発達を学び、支援方法や配慮等について理解を深めることを目指す。
39	こども学科	初等国語Ⅰ	三藤 恭弘	2	2	本授業は「小学校国語科」授業を担当するための基礎的な知識・技能や資質・能力の修得をねらいとしている。授業では「小学校国語科」というものがどのような内容・要素で成り立っているのかを理解し、授業の作り方について学ぶとともに、実践的に自身の資質・能力を磨くことを目標とする。 「日本語検定」は全員3級以上の獲得を目指し、受験すること。3級以上獲得した(既に獲得している)者には加点する。 本授業は小学校教育現場の経験者が、その知見を生かして指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
40	こども学科	初等国語Ⅱ	三藤 恭弘	2	2	本授業は小学校教員になりたい人の国語科授業力や資質・能力の向上を図ることを目的とした授業である。不可能でない限り、受講すること。 教材研究力を高めると同時に、教育現場の研究会に参加し、実践的意欲・態度や視点・技術を獲得することを目標とする。また、こども学科行事“音楽と物語りの夕べ”に参加し、朗読をおこなう。 日本語検定の3級以上に合格していない人は秋の受検日に受検すること。3級以上に合格した者(している者)は加点する。 本授業は小学校勤務経験を有する教員が、その知見に基づき指導する。
41	こども学科	初等国語科教育法	三藤 恭弘	2	2	本授業は実際の小学校国語科授業を想定した教材研究、授業構想、指導技術の力量向上を目指して、学習指導計画の立案と模擬授業、評価を繰り返し、授業研究力と実践的指導力を身に付けることを目標とする。 学習指導案の作成は、パソコンを用いて的確に作成する。授業では適宜電子黒板を活用する。「日本語検定」で3級以上を未取得者は受検し、認定を受けること。日本語検定3級以上獲得の者(既に獲得している者も含む)には加点する。 本授業は小学校に勤務の経験がある教員がその知見をもとに指導する。
42	こども学科	初等社会	西川 京子	2	2	本科目は、小学校社会科授業づくりの基礎的理解(変遷・目標・内容・方法・背景となる地理学等の社会科学)、社会的事象の見方・考え方を育む教材研究力を培います。講義とアクティブラーニング(児童用教科書の分析、授業体験、博物館巡検、教材研究等)の併用により、教師に求められるCEReZO力(C=協働する、E=“らしさ”を引き出す、Re=ふりかえる、Z=熱意をもって学び続ける、O=場づくり)を高めます。小学校教諭経験と国内外の教師や教員養成担当者等への研修経験を生かし、社会科教育の理論と実践の往還を図ります。
43	こども学科	初等社会科教育法	西川 京子	3	2	本科目は講義とアクティブラーニング(授業体験、授業や学習指導計画の分析、模擬授業等)を通して、①基礎的な学習指導理論の理解、②具体的授業場面を想定した授業設計方法の修得、③『CEReZO:C=協働する、E=“らしさ”を引き出す、Re=ふりかえる、Z=熱意をもって学び続ける、O=場づくり』の涵養をねらいます。小学校教諭経験と、国内外の教師や教員養成担当者への研修経験をいかして社会科教育の理論と実践の往還を図ります。
44	こども学科	初等算数	太田 直樹	2	2	小学校算数科で扱う内容の中で、特に重要な領域や教育内容を例示しながら、小学校教員として必要な数学的素養を養う。「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の各領域を概観すると共に、各領域において重要な教育内容に関する初等的な数学の背景について理解を深める。また、具体的な算数的活動に取り組むことを通して、教員になった時に必要な教材研究を自ら行い得る力を育てる。
45	こども学科	初等算数科教育法	太田 直樹	3	2	小学校算数科について、目標、内容、方法、評価についての基礎的な知識を理解するとともに、子どもたちに育む資質や能力(基礎力・思考力)への視点を養うことを目的とする。授業では、算数科の五領域に対する子どもの数理認識を中心に講義し、その認識を高める教材を作成する。
46	こども学科	初等理科	足立 登志也	2	2	この授業は、小学校学習指導要領(理科編)に基づき、まず初等理科の学習内容に関わる基礎的・基本的な事象・現象について理解する。その上で小学校において理科を教えるのに必要な基礎的・基本的な知識と技能を探究活動を通して獲得し、その内容を発表することで受講者全員のさらなる力量向上を図ることを目的とする。 なお、本授業は小学校で理科の授業の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
47	こども学科	初等理科教育法	足立 登志也	3	2	この授業は、小学校学習指導要領(理科編)に基づき、初等理科教育に関わる基礎的原理を理解し、小学校の理科の授業を構想し、実践するための基礎的・基本的な知識・理解と技能を獲得することをねらいとする。 なお、本授業は小学校で理科の授業の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
48	こども学科	初等生活科教育法	足立 登志也	2	2	平成元年度の小学校学習指導要領改訂において新設された生活科は、学習方法や評価方法などにおいて他教科にはない特徴がある。本授業ではその学習方法や評価方法を理解することを目的とする。さらに学習指導案の検討や模擬授業を行ったりすることを通して、将来教壇に立つ者の実践的な力を培う。 なお、本授業は小学校で生活科の授業の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
49	こども学科	初等図画工作教育法	佐伯 岳春	3	2	・児童の造形的な表現における発達特性を実践事例などから学び、発達特性に合わせた指導内容や方法、手順を学ぶ。 ・制作活動に取り組み、他者の造形的な表現に対する共感や取り組みに対する態度を学ぶ。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
50	こども学科	初等家庭	梶山 曜子	2	2	小学校家庭科の教育内容に対する自分なりの考えを確立し、学びに必要な内容を自ら探究できること、さらに、生活を総合的に捉え、よりよい家庭生活のあり方を考究し、自ら実践できる能力を身につけること。 授業では、小学校家庭科の内容について、家庭科教育の理念を踏まえ検討を加えます。具体的には、家庭生活と家族、食生活、衣・住生活、消費生活と環境に関する基礎的な内容について解説する。そして、日常生活を構成する各要素とその相互関係を理解し、よりよい生活の創造について考究する。 なお、本講義を担当する教員については、高等学校で「家庭基礎」他、家庭に関する専門科目を担当しており、その知見を持って指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
51	こども学科	初等家庭科教育法	梶山 曜子	2	2	授業のねらいは、授業の設計、実践授業の分析をとおして小学校家庭科の授業に対する自分なりの考えを確立し、授業を実践する能力を身につけることです。 授業では、家庭科教育の理念を踏まえ、小学校家庭科を中心に教育目標、教育内容、教育方法について検討を加えます。さらに、実践的授業研究をとおして、授業の構成要素について解説します。最後に授業を実際に組み立て家庭科授業のあり方を考究します。 なお、本講義を担当する教員については、高等学校で「家庭基礎」他、家庭に関する専門科目を担当しており、その知見を持って指導する。
52	こども学科	初等体育科教育法	永井 純子	2	2	1. 学校現場における体育指導経験がある教員が、その経験を活かして、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることの重要性を伝えるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく生活を営む態度を育てる。 2. 児童の特性を勘案した運動の楽しさを伝えることができる学習指導案の作成を指導する。用具の準備、種目に適した準備運動および児童の特性に応じた運動指導を実践する。
53	こども学科	初等外国語(英語) I	千菊 基司	2	2	小学校外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力(CEFR B1レベル程度)を「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域において育成しながら、その能力を授業場面で実践的に活用できるようにする。また、英語や第二言語習得に関する基本的な知識や、児童文学や異文化理解に関する知識を身に付ける。その際、中学校・高等学校の外国語科教諭としての経験のある教員が、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を行う。
54	こども学科	初等外国語科教育法(英語)	千菊 基司	2	2	小学校外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識として、まず、学習指導要領や主教材等の小学校外国語教育についての基本的な内容について理解する。そして、児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、指導に生かす方法を身に付ける。そのうえで、英語での話しかけ方等の指導技術を習得する。さらに、学習評価や指導計画等の授業づくりの基本を踏まえた学習指導案を作成し、グループで模擬授業を行う。模擬授業の振り返りを通して、授業改善に取り組むことができる応用力を身に付ける。 なお、中学校・高等学校における外国語科(英語)教諭としての経験をもつ教員が、英語教育のスタートとしての小学校英語の在り方や小中連携も踏まえ、教育現場の実態に即した指導の在り方という視点を重視した講義を行う。
55	こども学科	総合的な学習の時間の指導法	足立 登志也	2	1	総合的な学習の時間は、平成10年実施学習指導要領の改訂で設定された「生徒の意欲と主体的な活動が核となる学びの時間」である。そしてその理念は、最新の平成29・30年の学習指導要領の改訂でも変わらない。本授業でも、ただ講義を聞くという受動的な形ではなく、学生同士の小グループでのディスカッション、発表、活動等を中心に行い、総合的な学習の時間の本質に触れるとともに、授業実践に繋がる力を修得できることをねらいとする。 なお、本授業は小学校での実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
56	こども学科	特別活動の指導法	西川 京子	2	1	本科目は、小学校における特別活動の意義を理解し、指導に必要な知識や素養を身につけることをねらいとしています。小学校教諭としての社会科専科担任や学級担任の経験をいかし、各教科や地域との連携を図った特別活動の理論と実践の往還を指導します。
57	こども学科	教育相談	川島 範章	3	2	学校教育現場では、不登園・不登校、ひきこもりなどの非社会的行動や非行などの反社会的行動から、発達障害児への生活指導や学習支援、教師のメンタルヘルスマまで、幅広い課題への対応が必要となる。本講義では、教育現場で見られる様々な問題について取り上げ、学校で必要とされる教育相談のあり方について考える。カウンセリング手法を用いた基本的関わり方やアセスメントの方法、関係者／機関の連携によるチーム援助体制の構築について学び、問題を示す児童・生徒に対する基本的理解および効果的な対応スキルを身につけることを目指す。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
58	こども学科	教職実践演習(幼・小)	古賀 一博	4	2	小学校または幼稚園の教員・保育士としての教育実践力が身につけているかを確認するため、「教員の職務内容」、「学校教育現場の諸課題への対応」、「レディネスと教育活動の実践」、「学級経営」、「保護者との連携協力」、「教科内容の指導力」及び「保育内容の指導力」の7段階の授業を行う。これらの修得状況を段階的に確認しながら、補うべき課題を重点的に指導する。グループ討議、模擬授業及び模擬保育を受けての実技指導等を適宜実施する。なお、教育・保育現場での実務経験を持つ教員が、現場の実態に即した指導・演習を行う。
59	こども学科	ピアノ奏法 I	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	1	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノの原理・特性、奏法の初歩、読譜の初歩等、教育現場で必要とされる基礎を演奏を通して学ぶ。音楽の3要素であるリズム(律動)、メロディー(旋律)、ハーモニー(和音)の理解を中心にする。演奏・実践を通して音楽的感性を養う。豊かな演奏とはどのようなものかを一歩一歩学ぶ。
60	こども学科	ピアノ奏法 II	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	1	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノの原理・特性、奏法の初歩、読譜の初歩等、教育現場で必要とされる基礎を演奏を通して学ぶ。音楽の3要素であるリズム(律動)、メロディー(旋律)、ハーモニー(和音)の理解を中心にする。演奏・実践を通して音楽的感性を養う。またピアノ演奏のみならず、歌、手拍子など総合的に音楽を学んでいく。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
61	こども学科	ピアノ奏法Ⅲ	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	2	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノ奏法の基礎を演奏を通して学び、教育現場で必要とされる作品の演奏を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指す。またアンサンブル能力向上のためピアノ演奏のみならず、歌、手拍子など総合的に音楽を学んでいく。
62	こども学科	ピアノ奏法Ⅳ	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	2	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノ奏法の基礎を演奏を通して学び、教育現場で必要とされる作品の演奏を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指す。またアンサンブル能力向上のためピアノ演奏のみならず、歌、手拍子など総合的に音楽を学んでいく。
63	こども学科	ピアノ奏法Ⅴ	伊藤 憲孝	3	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。ピアノ奏法の応用を演奏を通して学び、教育現場で必要とされる作品の演奏を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指す。教育現場にて活用される作品を取り上げ、ピアノ演奏を行う。
64	こども学科	ピアノ奏法Ⅵ	伊藤 憲孝	4	2	演奏家/ピアニストおよび声楽家として経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、保育・教育現場で必要とされる作品を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指し、採用試験対策を行う。
65	こども学科	保育実習ⅠA(保育所)事前事後指導	中原 大介	3	1	1. 保育実習の意義・目的を理解する 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育に取り組む力を養う。 保育現場の講師を招き、実習生の心構え等について指導を行っていただく。
66	こども学科	保育実習ⅠB(施設)事前事後指導	矢野川 祥典	3	1	1. 保育実習の意義・目的を理解する 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む力を養う。 ゲストスピーカーを招聘し、実習への心構え等について指導をいただく。
67	こども学科	保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	矢野川 祥典	4	1	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む「人間力」の涵養に務める。
68	こども学科	教育実習Ⅰ・Ⅱ(幼稚園)事前事後指導	小野 順子	3	1	教育実習の目的や意義を明確にし、積極的に取り組むことができるよう、教育実習前には保育内容や指導方法にかかわる基礎的な知識・技能を学修する。また教育実習後には実習を振り返り、個々の省察やグループ協議を通しながら保育に対する理解を深める。 なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
69	こども学科	教育実習Ⅲ(小学校)事前事後指導	足立 登志也	3	1	<p>小学校教育の実際について、その概要を理解し、教壇に立つための基礎的・基本的な事項を身に付け、教育実習校での教育活動に携わることができるようにすることをねらいとする。</p> <p>教育実習の計画と実施にあたり、能率的かつ効果的に実習を行うために、事前に教育実習の意義や目的、子どもの実態や教育活動の実際等について明らかにする。そして、準備と実施に不可欠な基本的・予備的知識や心構え、実習の手続きの仕方等を身に付ける。実習終了後は、まとめや反省・評価を行い、実習の成果と課題を明確にしたうえで報告書を作成し、小学校教育実習報告会においてパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。教育現場での教諭としての経験がある教員が、その経験を生かして、教育現場の実情に即した講義を行い、模擬授業や場面指導の効果的な演習ができるように指導する。</p>
70	こども学科	保育実地体験Ⅰ(保・幼)	小野 順子	1	1	<p>保育実地での観察及び活動を通して、保育所・施設・幼稚園・こども園での生活の流れ、子どもの発達や保育者の職務について学修すると同時に、保育実地での観察及び活動で学んだことをもとにグループ協議を行い、多様な観点での学修を深める。</p> <p>本授業は、学内での授業を10回(第1回～第6回、第12回～第15回)、学外での実地体験活動を15時間以上実施する。</p> <p>なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。</p>
71	こども学科	教育実地体験Ⅰ(小)	足立 登志也	1	1	<p>子どもが多様化する小学校の教員になるためには、大学で学ぶ理論は大切であることは言うまでもないが、現場に出向き、直接児童や教員と関わる経験は大変需要であると考えられる。そこで本授業では、現場で児童の活動や教員の仕事に触れ、小学校教諭としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p> <p>なお、本授業は小学校での実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。</p>
72	こども学科	教育実地体験Ⅱ(小)	足立 登志也	2	1	<p>小学校教育の実際について、その全体像を理解するとともに、教育現場の実際を体験することによって、教職についての現実的な理解と教職を志望する決意を深めることをねらいとする。</p> <p>「教育実地体験Ⅰ」での学習経験を生かし、引き続き、広島県教師養成塾における学校インターンシップに参加することを通して、教育現場での経験知を増やし、教師になるための自己の成長を促す。初回、中間、最終回における講義では、教育現場での教諭としての経験がある教員が、その経験を生かして、教育現場の実情に即した助言や指導を行い、受講生の不安や疑問を解消するとともに、教師として必ず押さえておくべき点への気づきを促す。</p>
73	こども学科	保育実習ⅠA(保育所)	中原 大介	3	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む「人間力」の涵養に努める。</p>
74	こども学科	保育実習ⅠB(施設)	矢野川 祥典	3	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子ども・利用者とのかかわりを通して子ども・利用者への理解を深める。 3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育・養護及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育・養護の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む力を養う。</p>
75	こども学科	保育実習Ⅱ(保育所)	中原 大介	4	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」などを身につける。</p>
76	こども学科	保育実習Ⅲ(施設)	中原 大介	4	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む「人間力」の涵養に努める。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
	こども学科	教育実習Ⅰ(幼稚園)	小野 順子	3	2	教育実習の目的は、幼稚園と幼児の実態を知り、大学において学んだ理論に基づき、保育の実際的理論と保育経験を実践することである。直接幼児に接し、その実態を把握し、具体的な人間関係を通して、幼稚園教育全体を把握し、保育理論や心理学やその他の知識と実際とを結びつけて考えることが大切である。 この教育実習Ⅰでは、幼稚園教諭免許を取得するために「観察・参加、部分の指導」の立場で幼稚園の生の教育現場に接する。教育活動の現場をよく観察し、子どもたちの実態や教師の実践活動を自分の目で具体的に捉え、指導的対応を経験する。 なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
	こども学科	教育実習Ⅱ(幼稚園)	小野 順子	3	2	教育実習の目的は、幼稚園と幼児の実態を知り、大学において学んだ理論に基づき、保育の実際的理論と保育経験を実践することである。直接幼児に接し、その実態を把握し、具体的な人間関係を通して、幼稚園教育全体を把握し、保育理論や心理学やその他の知識と実際とを結びつけて考えることが大切である。 この教育実習Ⅱでは、幼稚園・小学校教諭の資格・免許を取得する学生が履修し「観察・参加」「部分・全日指導」の立場で幼稚園の生の教育現場を学ぶための実習である。 なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
	こども学科	教育実習Ⅲ(小学校)	足立 登志也	3	4	小学校の教育実習に参加して、授業や学級経営など教師の職務の一部を担当しながら、大学で学習した理論と教育現場での実践を統合し、実践的な指導力を身につけることをねらいとする。訪問指導では、教育現場での教諭としての経験がある教員が、その経験を生かして、それぞれの教育現場に対応した実践的な指導を行う。 実習の内容・方法については、実習校の実情に合わせて計画をお願いします。具体的には、授業参観、実地授業、研究授業・研究会、学級指導、学級経営や学級指導に関する補助活動、学校行事等特別活動での指導や補助、校長・教頭・教務主任・保険主事・学年主任・養護教諭・栄養士の先生等による講話などである。
	こども学科	保育・教育実地研究(国内)	西川 京子	1	2	本科目は、ルワンダの幼児・児童と広島県の保育園・幼稚園・小学校の交流活動を支援したり、地域文化や地球的課題の教材研究・開発・実践をしたり、テキストを輪読したりすることを通して、ESD(持続可能な発展のための教育)や多文化共生のための保育・教育の理論と実践の往還を図ることをねらいとしています。小学校教諭経験と、国内外の教員や教員養成関係者の研修経験を生かすと共に、保育・教育現場のスタッフの指導を仰ぎます。
	こども学科	保育・教育実地研究(野外)	西川 京子	1	2	子どもが「地域の自然・社会・人の中で豊かに遊ぶ(学ぶ)」野外体験活動づくりの基礎を培います。学内研修15回(ワークショップ・教材研究・子どもの研究・発表・講義)と、学外研修(3回の日帰り野外体験活動)があります。主体性の尊重や体験を通じた科学的見方・考え方の育成に関する理論と実践の往還について、小学校や地域における野外体験教育実践経験のある教員と優れた野外体験教育の実践家として評価の高い実践家が指導します。
単位数(合計)					98	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
1	健康スポーツ科学科	スポーツ心理学	藤本 太陽	2	2	スポーツ心理学は、スポーツに関する諸問題を心理学的に解明し、スポーツの実践や指導にあたって役に立つ知見や技術を提供しようとする学問である。 本講義ではスポーツに関する心理学的基礎、スキルの獲得に関する運動学習、スポーツと健康、競技スポーツとメンタルトレーニング、スポーツに関わる様々な問題など、広範囲に心理的現象を取り上げて概説する。さらに、これらの知見を競技活動および教育現場で活かせるように、体育・スポーツ現場での問題または疑問と常に関連させながら授業を実施する。また、本講義は日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。
2	健康スポーツ科学科	救急法技法	石井 智紋	3	2	不慮の事故によるケガや体調不調による急病の発生に実践レベルで対処できる救急技法を学ぶとともに、ケガや急病を予防するための安全管理や施設管理等についても学習する。安全に配慮したつもりでも、ケガや急病は時と場所を問わず発生する。まずは私たちを取り巻く日常は、常に危険と隣り合わせであることを認識し、不幸にも発生してしまった事故に対しても、正確で迅速な救急処置ができる技能及び知識の習得を目的とする。それ故、この講義では、講習日本赤十字社が救急法救急員の養成に規定する理論および実技内容を網羅し、考えられる限りの救急法の習熟を求め、加えて運動やスポーツの指導者として必要な施設の安全管理や救急管理体制づくりの必要性についても学ぶ。 また本講義は、学外で日本赤十字社救急法指導員の資格を有する指導員が講習会を行っている。
3	健康スポーツ科学科	健康心理学	藤本 太陽	3	2	高齢化社会の到来により個人は自らの健康に対して少なからずの責任を負わなければならない。そこで立ち止まり「健康とは何か」と自問すると、明確な定義がいかに困難であるかがわかる。心理的側面から捉えた健康の価値と身体的側面から捉えた価値は必ずしも一致しないが、その双方が人間のあるべき姿を規定していることは疑う余地もない。講義で扱う問題は健康とは何か、そしてそれを確保するための取り組みとは何かである。心理面だけでなく、身体面から介入する取り組みに説明の重点を置く。また、本講義は日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。
4	健康スポーツ科学科	臨床スポーツ医学	石橋 勇	2	2	種々のスポーツ現場で指導に携わる指導者が修得しなければならないスポーツに関わる功罪、特に罪の部分である障害・外傷について正しい知識を系統的に講義する。講義の内容は外科系の外傷・障害、内科系の障害、疾患とスポーツの関係、さらに境界領域のスポーツ外傷・障害についての知識と手技についてである。スポーツに限らず「障害」は早期発見・早期治療がもっとも要求されることである。そのためには現場の指導者が豊富なスポーツ医学的知識を有することが求められる。本学科の学生はまさに指導者となる人々であり、重要な授業科目である。 本講義は、日本代表トレーナー経験がある教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。
5	健康スポーツ科学科	アスレティック・リハビリテーション	峯田 晋史郎	2	2	傷害受傷から一般活動レベルまでのリハビリテーションとは異なり、アスリートを対象としたリハビリテーションでは、一般活動レベルから競技レベルまで身体活動レベルを戻す必要があり、専門的な知識が必要となる。 本講義では各部位の傷害に関する基礎知識を復習したうえで、競技復帰までのリハビリテーションプログラムの作成法について学習する。
6	健康スポーツ科学科	コンディショニング科学	石橋 勇	3	2	スポーツの場面で、コンディショニングとは「ピークパフォーマンスの発揮に必要なすべての要因をある目的に向かって望ましい状況に整える」と定義されている。競技選手がより良いパフォーマンスを発揮するために必要なことを理解することは競技関係者にとって重要である。そこで本講義では、コンディショニングを理解し、そこで必要な身体的要素を中心に学習していく。また、その方法と実際の場面を想定した手法についても学習する。 更に講義中には、スポーツマッサージの実技を行う。スポーツマッサージには、(1)選手の基本運動能力を高める目的で行われるもの、(2)トレーニングや試合直前に、筋肉のウォーミングアップやほぐすことを目的に行われるもの、そして(3)運動後の疲労回復を促進するために行われるものがある。本講義では、マッサージにおける生理・心理的効果を理解し、それぞれの目的に適したマッサージの習得を目指す。 本講義は、日本代表トレーナー経験がある教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。
7	健康スポーツ科学科	アスレティック・トレーナー演習	石橋 勇	1	4	これまで健康スポーツ科学科内の講義において、スポーツ医科学を専門的に学習してきたが、そういった講義を基礎とし、アスレティックトレーナーとして適した内容を学習し最適な知識を構築する。更に各分野の実践演習を行い、実技部門のエキスパート化を図る。 また、初めてスポーツ医科学を学ぶ者であっても高レベルからの学修により、今後の基礎教育につなげることを図る。 更に渡航先のスポーツ医学プログラムを受講し、海外のスポーツ医学の現状を学ぶこと及び異文化について理解を深めることを目的とする。 本講義は、日本代表トレーナー経験がある教員やアスレティックトレーナー関連資格を持った教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。
8	健康スポーツ科学科	Sports Medicine Seminar	峯田 晋史郎	3	2	本講義は、臨床スポーツ医学などの講義で学修した内容を、より実践的な内容で行う授業である。特にスポーツ現場での応急処置や競技スポーツ選手に対する様々なコンディショニングのアプローチ方法をより実践的にを行い、知識及び技術を習得する内容である。さらに海外とのスポーツ医学の取り組み内容やアプローチ方法を学修し、日本との違いを理解するよう展開していく。
9	健康スポーツ科学科	健康運動演習Ⅰ(エアロビックダンス)	木村 真弓	2	2	健康運動実践指導者の資格取得を目標としている学生たちが、エアロビックダンスエクササイズの実践指導が可能になるようにする。 民間スポーツクラブなどでエアロビックダンスエクササイズの指導実務経験・指導者養成講座実務経験がある教員が、その経験を活かして、実践型授業を展開し、指導プログラム作成方法及び指導技術を身につけていく実習を多く行う。 また、健康づくりの為に運動を、自らが実践できる社会人になる為の下地作りをする。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
10	健康スポーツ科学科	生涯スポーツ実技 I	松田 広	2	1	生涯スポーツの魅力は、健康・体づくりだけではなく、自分の状況に応じて、様々な楽しみ方が可能である点に生涯スポーツの魅力がある。そこで、スポーツの楽しみ方を知り、スポーツの特性・ルールを理解し、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる能力を身につける。また、生涯スポーツの意味を理解することで、実践していくことが人間の生活の質(QOL)を高めていくことができる人材の育成を図る。なお、授業形態の一つとして、4年生教育実習修了学生を参加させ、「体づくり運動」や「運動遊び」の内容などを導入し、アクティブラーニングなどのグループ学習や班別指導を取り入れ、課題を明確化し解決方法等の指導をする。現職保体科教諭の実技実践を観察することから、生涯スポーツに向けた取り組みから現状の把握ができ、具体的なイメージができるように指導をする。 保健体育科教員として30年以上現場で勤務した経験から、実践的な学びを提供する。
11	健康スポーツ科学科	スポーツプロモーション I	吉川 浩司	2	2	現代の生活におけるスポーツの効果と必要性を理解した上で、スポーツ振興をどのように進めることができるか、を考えます。具体的には、スポーツに関わる様々な立場、スポーツ競技団体、地域住民、行政、民間企業等の特徴を理解し、それらが有効なパートナーシップを築く方法について考えを深めます。 「実務経験のある教員」による授業に関して： 講師は1984年ロサンゼルスオリンピックを始め、1992サッカーアジアカップ、1993サッカーU-17世界選手権、1994第12回広島アジア大会、2002年ワールドカップ日本招致活動、1998フランスワールドカップ、2002年FIFAワールドカップ日韓大会、他のスポーツ大会に運営側として、主にプロトコール(国際外交儀礼)担当として従事して来ました。これらの経験を活かして、「実際に現場に居て突発的なトラブル状況に陥った場合、いかに考え、どのように行動するか？」を、実例をもとに具体的に提示し、「考え、行動する道筋」等について多く言及したいと思います。
12	健康スポーツ科学科	メンタル・トレーニング方法論	藤本 太陽	2	2	メンタルトレーニング(以下、MT)に対する世間の注目が増加する一方、日本スポーツ心理学会ではS(スポーツ)MT指導士なる資格を制定し、その誤用防止に努めている。MTの目的は、選手が持つ実力を試合の場において100%発揮できるようにすることである。その内容及び方法は多岐にわたる。それらを具体的に解説し、受講生にMTに対する理解を深めてもらいたい。なお、受講生の多くが競技スポーツに関与していると考えられるため、自己の競技力向上及び今後の指導力向上に役立つヒントとなることを期待している。本講義は、日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。
13	健康スポーツ科学科	メンタル・トレーニング演習	藤本 太陽	3	2	メンタルトレーニング(以下、MT)に対する世間の注目が増加する一方、日本スポーツ心理学会ではS(スポーツ)MT指導士なる資格を制定し、その誤用防止に努めている。MTの目的は、選手が持つ実力を試合の場において100%発揮できるようにすることである。MT方法論で得た知識を応用することを本講義の狙いとする。また、自己の競技力向上及び今後の指導力向上に活用できるスキルを獲得することを期待している。 本講義は、日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。
14	健康スポーツ科学科	コーチ学B	若井 研治	2	2	コーチングとは、目標を達成するために必要となる能力や行動をコミュニケーションによって引き出す能力開発法である。専門のコーチが質問を重ねながら相手に自分自身で何を実現したいのかを明確にイメージさせ、潜在能力を引き出して目標を達成するための行動を促すことでもある。このことから、リアリティを持ったトレーニングを構築し、効果的なコーチングをするために「全体像からの逆算」で課題を分析できるようにしていく。また、コーチングにおいて重要になるコミュニケーション・スキル、トレーニング科学も学習していく。 この授業は日本サッカー協会公認A級ジェネラルライセンスを有し、指導歴20年以上の教員が担当する。
15	健康スポーツ科学科	スポーツ施設演習	石井 智紋	3	2	地域のスポーツ施設や事業団体等での実習経験を通じて、地域社会におけるスポーツ活動を理解し、理論にとらわれず現場で役に立つ知識や技術を積極的に学習する。また、それぞれのスポーツ施設・事業団体が持つ理念を理解し、責任を持って主体的に行動する態度や能力を養う。 本授業の履修において、学生は各種施設・団体を自ら選択し、実習期間を任意に設定する。また、各スポーツ施設・事業団などの実務経験を有している担当者のもとで実習をおこなう。
16	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(アーティスティック・ダンス)	黒坂 志穂	1	2	本授業では教材として社交ダンスを用いる。 社交ダンスは男女がカップルで踊るものであり、長い歴史をかけて様々な民族の歴史が混じりあり、互いに影響し合い、今日の型に洗練されてきた。本授業では数多くある社交ダンスの種類の中でも特に動きが活発なラテン種目(ルンバ、チャチャチャ、サンバ、ジャイブ)に焦点を当て、インナーマッスルを中心とした体の使い方を習得し、どのようなスポーツにでも活かすことのできるカラダづくりを目標としていく。 動画閲覧やICT教材を用いた授業も実施する。 高等学校専修免許状(保健体育)及び健康運動実践指導者の資格を有する教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。
17	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(リズム・エクササイズ)	黒坂 志穂	1	2	本授業では教材としてスポーツクラブで行われているフィットネスエクササイズを習得を中心に授業を行う。 健康づくりにあたっての運動強度管理や、ある程度の運動強度が確保された状態でいかに楽しく、効果的なカラダづくりを行っていくかに焦点を当てる。 動画やICT教材を利用した授業も行う。 高等学校専修免許状(保健体育)及び健康運動実践指導者の資格を有する教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
18	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(バレーボール)	永井 純子	1	2	学校教育現場経験のある教員が、大学バレーボールトップチームスタッフの協力を得て、バレーボールの基本技能であるサーブ・パス・スパイクの練習ドリルや試合の運営法、ルールの説明を行い、実際の試合で応用できるように進める。また、スキルの向上を目標としながらラリーゲームに親しむ感覚や学生同士のコミュニケーションを促進できるよう指導する。
19	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(サッカー)	若井 研治	1	2	サッカーは、味方と相手との攻防の中でボールを奪い、ゴールを守り得点を競うゴール型のスポーツである。そのために必要な基本技術・戦術を習得し、学習段階・状況に応じた作戦を立て、ゲームができるようにする。世界基準との比較で、実際にできることとできないことのギャップを感じ、その課題にいかに取り組みか自分で解決方法を見いだせるようにする。 この授業は、日本サッカー協会公認A級ジェネラルライセンスを有し、指導歴20年以上の教員が担当する。
20	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(ラケットスポーツ)	三宅 幸信	1	2	ラケット種目である卓球とバドミントン、多くの地域で生涯スポーツとして楽しまれている。この授業では、グループ活動を中心として基本的な戦術や運動技術を探究することを通して、自分たちでスポーツ活動を展開していくための方法を理解していく。 尚、授業担当者の、中・高等学校の教育現場から得た知見とその経験を活かしつつ、現実の課題に対応した指導を行うものとする。
21	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(武道)	高橋 和久	1	2	剣道の講話と実技を通して、日本固有の文化である武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようになることを目指します。中学、高校の授業や部活動で剣道指導の実務経験を有する者が、その経験を活かして理論的かつ実践的に進めます。 (1)講義前半では、剣道具(防具)のない場合の指導法を習得できます。 (2)講義後半では、剣道具(防具)のある場合の指導法を習得できます。
22	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(トレーニング)	門田 正久	1	2	スポーツ実践演習授業の狙いとしては、身体機能の理解及び効果的身体活動のためのプレパレーションの理解と周辺環境因子(栄養・休養・動作・mind set)の理解と実践。また、プレパレーションにおいては実践とともに必要な動作を理解し、自ら実践できるようになることを狙いとする。
23	健康スポーツ科学科	介護概論	大塚 和美	2	2	人権を基盤とした介護を理解し、介護福祉を支えている、または関わっている法制度やサービスを理解する。そのサービスの担い手である専門職や介護支援の実践、具体的な方法などを理解する。これらの理解を通して、誰もが避けて通ることができない『介護』について、理解を深めていく。 なお、「知る」「習得する」「考える」「振り返る」を繰り返し、介護に関する知識と技術を身につけられるように学ぶ。 また、本講義については、担当者が介護福祉士や介護教員として働いていた際の知見を基に授業を行う。
24	健康スポーツ科学科	医学一般Ⅰ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 広範な医学の領域から、個人や集団を支える対人援助の現場で活動するために必要とされる事項を厳選し学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 本授業は、疾患の理解の基礎となる各器官、重要な疾患、心身の障害とリハビリテーション、ICFの考え方、健康の定義等、身体・疾患・健康に関わる一連の内容を概観しながら、その基礎的な理解を目指す。 なお、本授業の担当者は病院や在宅での臨床経験があり、その経験を活かした授業を行う。
25	健康スポーツ科学科	医学一般Ⅱ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 本科目は前期の同科目名Ⅰで、“人体の構造と機能及び疾病”に関する基礎的な知識を修得した後に選択履修をする科目である。 後期では、前期の学習内容の復習を踏まえることで、健康を支援する職業に就く者、一般職に就く者、家庭に入る者にとっても、人の身体を知り、病気と健康に対する理解を深めることで、履修者個々の今後に活かせることを目的としている。 [授業全体の内容の概要] 本授業は、疾患の理解の基礎となる各器官、重要な疾患、心身の障害とリハビリテーション、健康の定義等、身体・疾患・健康に関わる一連の内容を概観しながら、その基礎的な理解を目指す。 なお、本授業の担当者は病院や在宅での臨床経験があり、その経験を活かした授業を行う。
26	健康スポーツ科学科	保健体育教員教育実践演習	三宅 幸信	3	2	本講義は、「体育分野」「科目体育」の各領域における、すぐれた体育実践記録を分析し、討論していくことを通して、体育授業づくりの構成方法(目標-内容-方法の一貫性、系統的指導、学習集団づくり、教材・教具づくり)を理解し、教材づくりの能力を養うことをねらいとする。教育現場においては、教師自らが教材解釈を深め、授業をよりよいものに改善してゆくことが求められる。本演習では、それらに必要な資質・能力を養うことも図る。毎授業の前半では領域構成と学習指導の内容と方法について講義をした後に、グループワークや発表を行い、主体的・対話的で深い学びとなるよう、工夫する。 尚、授業担当者の、中・高等学校の教育現場から得た知見とその経験を活かしつつ、現実の課題解決に対応した指導を行うものとする。
27	健康スポーツ科学科	保健体育教員情報演習	三宅 幸信	3	2	保健体育科教員として、採用試験を受験する学生を対象とした採用戦略に必要な情報の分析と活用法を学ぶ。 尚、授業担当者の、中・高等学校の教育現場における教師としての立場、管理者としての立場から得た知見とその経験を活かしつつ、現実の課題に対応した指導を行うものとする。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
28	健康スポーツ科学科	体育実践演習(水泳)	林・長久	2	2	水泳技能を身に付けることは水に対して自分の安全を守ることであり、泳ぎができて溺れることはある。これは自分の力を過信したり、水に対する知識の不足によるものである。小学校での体育の運動領域の水泳のねらいの中で『安全』が特に強調されるのは水泳だけである。したがって水泳能力はどうしても身につけさせることが必要である。また、水を利用したスポーツ、例えばカヌー、ラフティング、ダイビング、サーフィンなどが盛んになって、これらのスポーツでも犠牲者が多くでている。このことは水に対する知識の不足による。長年水泳指導経験がある教員がその経験を活かして水に対する知識・技能を指導する。
29	健康スポーツ科学科	体育実践演習(武道)	藤本 太陽	2	2	教育基本法の改正から、「伝統と文化を尊重」することが強調され、学習指導要領改訂の課題が、全ての生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させることであるということから、中学校での武道を含む全領域が必修となった。そのことから柔道授業の充実が求められ、柔道の効果的な指導ができるようになってきている。このことは教員の指導力の向上が不可欠であるということが示される。前述のことから柔道の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るために、生徒の意欲を高めさせ、安全に学ばせる指導方法を身につけさせることをねらいとする。本講義は、柔道四段の資格を持ち、競技経験、指導経験がある教員が指導する。
30	健康スポーツ科学科	体育実践演習(器械体操)	吉田 浩	2	2	本授業では、体操競技を専門とする教員が、ジュニア選手からトップ選手までの育成指導の経験や、幼児から小中学校、高校での学校体育の授業経験もと、器械運動の実践や指導の基本を教材とする。器械運動とは、マット、鉄棒、平均台、跳び箱など、器械・器具を使った運動種目である。それぞれの運動種目は、器械・器具の特性を生かした「技」で構成されている。学生自らが実践することで、各運動種目の「スキル(技の技術)」を習得することに重点を置きつつ、①各技の名称や体系の理解、②安全に配慮した指導者の補助活動についても理解を深める。履修に際し、各運動種目で得手不得手があることは否めない。ただ、この授業で技を克服する意志(挑戦・思慮)や精神を大切に。積極的な履修を望む。
31	健康スポーツ科学科	体育実践演習(創作ダンス)	木村 真弓	2	2	学習指導要領によって必修化されたダンスの「民謡・フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」を体験して、ダンスの楽しさを体感し、体の使い方を学ぶ。 「創作ダンス」の単元では、実際に創作ダンス作品を作る過程を通して、指導の実際を学び、自分が授業を組み立てる際に、気を付けるべきことを体得する。 ダンスインストラクターとして活動もしている教員が、その経験を活かして、ダンスの素晴らしさを伝えていく。
32	健康スポーツ科学科	学校保健	中村 雅子	1	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 学校における保健活動について、保健教育と保健管理の内容とそれらを関連づける組織活動について概説する。また、児童生徒の心身の発達や健康問題を小児保健、精神保健の立場からも取り上げる。事故防止について学校安全の内容を取り上げる。
33	健康スポーツ科学科	保健体育実践 I	松田 広	1	2	学校の教師には授業のみならず、校務分掌や学級担任など多岐にわたる職務がある。それは保健体育教師にも同様のことが言える。皆さんが生徒として学校にいたときと教師として学校に戻ったときには異なった存在の仕方をする。本講義では、「保健体育教師とは何か」という本質に迫り、保健体育教師になるための基礎・基本について学ぶ。 「運動やスポーツを合理的、計画的に実践できるように、経験知から動きのポイント例を具体的に示す。また、身体の動きの流れを優先順位をつけて例示する」 なお、授業形態については、4年生教育実習修了学生を参加させアクティブラーニング(グループ学習や班別)でのディスカッションを取り入れ、課題を明確化し解決方法等の指導をする。 現役教諭の実践を聞く講義から現状を把握させ具体的なイメージができるように指導をする。保健体育科教員として30年以上現場で勤務した経験から、実践的な学びを提供する。
34	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法 I	三宅 幸信	1	2	本講義では、中学校と高等学校の保健体育の授業づくりに必要な知識と方法を学ぶ。具体的には、体育の授業づくりに必要な目標論、教育課程論、内容論、教材づくり論、学習指導論(系統的指導論・学習集団論)、体育理論の授業づくり論、および教科外体育(運動会・体育的行事・運動部活動)の理論について講義する。これらは保健体育教員になる上で柱となる、基本的な知識を蓄積することがねらいである。 尚、授業担当者の、中・高等学校の教育現場から得た知見とその経験を活かしつつ、現実の課題に対応した指導を行うものとする。
35	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法 II	松田 広	2	2	本講義は、「教員(中高保健体育)」を目指す学生が受講しているという前提で、体育の模擬授業体験を中心に進める。模擬授業は自己の授業の改善点が明確にされると同時に、授業を実施する上で必要な自信を養うことができる。模擬授業の進め方は、選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法などを検討し、学習指導案の作成を行う。その指導案にもとづいて、模擬授業を実施し、自己の模擬授業について省察する。 「学習カードの段階的提示をする。教師と生徒の相互のコミュニケーションのあり方を例示する。オーセンティックな評価の仕方を提示する」 なお、授業形態の一つとして、4年生教育実習修了学生を参加させアクティブラーニング(グループ学習や班別)でのディスカッションを取り入れ、課題を明確化し解決方法等の指導をする。現職保体科教諭の実践を聞く講義から現状を把握させ具体的なイメージができるように指導をする。 保健体育科教員として30年以上現場で勤務した経験から、実践的な学びを提供する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
36	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法Ⅲ	松田 広	2	2	保健体育の教員は体育の授業だけではなく、「保健」の授業も担当する。本講義は、「保健」について全般的な模擬授業を行い、授業の実際に接近することが目的である。保健の授業の印象は、「教科書を読み、下線を引いて終わり」や「教員から生徒への一方向の矢印で終わり」、のような授業が多かったのではないだろうか。しかし教育現場では、保健の授業の位置づけは高く、事前の準備が極めて重要な教科である。模擬授業を通して、よい保健の授業を行うために必要な指導技術を身につけてもらう。それと同時に保健の授業を遂行するための学習指導案の作成。「指導と評価の一体化を図る学習展開のあり方」新学習指導要領の要点を生かした実践事例の提示をする。健康と安全に関する実践的な理解を示す」 「指導と評価の一体化を図る学習展開のあり方」新学習指導要領の要点を生かした実践事例の提示をする。健康と安全に関する実践的な理解を示す」 なお、授業形態の一つとして、4年生教育実習修了学生を参加させアクティブラーニング(グループ学習や班別)でのディスカッションを取り入れ、課題を明確化し解決方法等の指導をする。現職保体科教諭の実践を聞く講義から現状を把握させ具体的なイメージができるように指導をする。 保健体育科教員として30年以上現場で勤務した経験から、実践的な学びを提供する。
37	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法Ⅳ	松田 広	3	2	受講する学生は、「中学校・高等学校の保健体育科教員」の教員採用試験を受けるということを前提とした上で、中学校の体育分野・保健分野及び高等学校の科目体育・科目保健の模擬授業を行い査定される授業展開を学ぶ。また、教員採用試験の問題を中心として、内容を学習し、模擬試験等を行いつつ、その試験の領域ごとに重点を整理して学んで行くことをねらいとする。 「学校現場での実際の役割と責任を事例から示す、面接の視点と立居振舞の実践、生徒の動かし方の実例から、模擬授業における教師行動のあり方の実例から」 なお、授業形態の一つとして、4年生教育実習修了学生を参加させアクティブラーニング(グループ学習や班別)でのディスカッションを取り入れ、課題を明確化し解決方法等の指導をする。現職保体科教諭の実践を聞く講義から現状を把握させ具体的なイメージができるように指導をする。 保健体育科教員として30年以上現場で勤務した経験から、実践的な学びを提供する。
38	健康スポーツ科学科	保健看護学	近藤 千穂	1	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 保健看護学は、医療福祉の思想と理論を基盤に、保健と看護を統合したケアリングを追求する学問である。保健看護学の理論枠組み、専門職としての役割・機能、実践活動について総合的に学習し、養護教諭が保健・医療、福祉システムの中で自らのアイデンティティを保ちながら他の専門職と連携していくことの重要性を、法制度、教育制度、国際動向を基に考察し、将来の在り方を展望する。
39	健康スポーツ科学科	学校看護学	中村 雅子	2	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 養護教諭に必要な基礎的な看護の知識と看護援助の方法及び看護技術をまなぶ。看護援助の必要な対象を理解し、適切な看護を実施するために必要な具体的なケアの方法について講義・演習を通して学習する。
40	健康スポーツ科学科	養護概説	中村 雅子	2	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 児童生徒の健康実態に関心を持ち、学校保健及び養護教諭の活動内容と役割を理解し、具体的に展開するための知識及び技術を習得する。子どもの心と身体の健康課題を解決するための養護紀要湯の支援活動(養護実践)の展開を理解し、その過程で用いる技術を習得する。また、その展開過程において地域保健や医療機関との連携した活動の必要性を知る。
41	健康スポーツ科学科	健康相談活動	中村 雅子	2	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 近年、養護教諭の行う健康相談活動の重要性がますます高まってきている。学校における健康相談活動のあり方と、養護教諭の役割、健康相談活動のすすめ方、校外の支援組織とそれぞれの役割、家庭との連携のあり方などについて基礎知識をつけるとともに、具体的な健康相談活動場面を想定して展開できる基礎的な実践能力を習得する。 児童生徒の発達段階における心と身体の特徴および健康実態を把握するとともに児童生徒の健康問題について学校医・学校歯科医や専門機関ならびに学校内連携による健康相談と養護教諭・保健室の機能を生かした健康相談の違いを理解し実践能力を習得する。
42	健康スポーツ科学科	看護学実習	中村 雅子	2	1	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 病院の外来・病棟・関連施設において、養護教諭に必要な基礎的な看護の知識と看護援助の方法及び看護技術の見学と体験実習を行う。
43	健康スポーツ科学科	養護実習指導	中村 雅子	3	1	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 養護実習の内容を十分理解し、実習校での計画に基づいて、保健教育、組織活動、児童・生徒への対応等、養護実践活動全般の具体的な展開を学ぶ。実習終了後には、養護実習の記録を整理する。その中から、研究課題を取りあげて発表する。
44	健康スポーツ科学科	養護実習	中村 雅子	3	4	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 学校において養護教諭実習を行うことにより、学校現場の施設設備や組織を理解し、保健室における児童生徒との関わりにおいても、児童生徒の発達課題や健康課題を理解し、対応についても指導養護教諭や自分自身の経験を通して学ぶことができる。
単位数(合計)					89	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
1	看護学科	栄養と代謝	井上 徹	1	2	本科目は、「身体のしくみ」および「身体の働き」として履修する【解剖生理学】という分野に含まれる科目である。体内の化学反応(代謝、生化学反応)を学んで、生命現象の基盤を識る。 本講義では特に、糖質・蛋白質・脂質という三大栄養素を体内へ吸収する過程、および吸収した後エネルギー産生に利用するためのエネルギー代謝を学ぶ。 エネルギー代謝を理解することによって、さらに現在の国民病と呼ばれる代謝異常疾患である糖尿病の病態を識る。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴を生かした授業を実施したい。
2	看護学科	食生活論	田中 陽子	1	2	栄養療法はすべての治療の根幹であり、臨床現場でも栄養管理の重要性が再認識され、診療報酬においても多職種による質の高い栄養管理に対し、評価がされるようになり、今後ますますチーム医療が推進されていく中、その中心的存在となる看護師は、臨床栄養学の知識をより深めておく必要があります。食生活論では、臨床分野での実務経験豊富な管理栄養士が、より実践的な知識の習得を目指した講義を行なって参ります。
3	看護学科	身体のしくみ	井上 徹	1	2	[1] 身体の構造【解剖学】と働き【生理学】を融合した【解剖生理学】という分野を、前期科目「身体のしくみ」および後期科目「身体の働き」を通して系統的に学ぶ。 [2] 身体の中で行われている生命現象を、治療・看護の目的で理解することに留まるべきではない。疾病予防、健康増進が重要視される近年、健康の前提になる「正常な身体機能を維持すること」の複雑さ、繊細さを識ることによって、健康であることの重要性について自己啓発されたい。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学研究に携わった研究歴を生かした授業を実施したい。
4	看護学科	身体の働き	井上 徹	1	2	[1] 身体の構造【解剖学】と働き【生理学】を融合した【解剖生理学】という分野を、前期科目「身体のしくみ」に引き続いて、後期科目「身体の働き」を通して系統的に学ぶ。 [2] 身体の中で行われている生命現象を、治療・看護の目的で理解することに留まるべきではない。疾病予防、健康増進が重要視される近年、健康の前提になる「正常な身体機能を維持すること」の複雑さ、繊細さを識ることによって、健康であることの重要性について自己啓発されたい。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学研究に携わってきた研究歴を生かす授業を、計30回の予定で実施したい。
5	看護学科	看護と病態	井上 徹	2	2	1年次に修得した【解剖生理】に基づき、疾病の発生機序を明らかにする【病理、病態生理】を修得する。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学研究に携わった研究歴を生かして、病態を考える授業を組み立てたい。
6	看護学科	感染と免疫	井上 徹	2	2	感染症の診療ならびに予防を実践する基盤として、その原因である【病原微生物】を識り、および生体防御機構である【免疫】を理解する。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および海外医療協力を携わった研究歴を生かす授業を実施したい。
7	看護学科	病態と治療	井上 徹	2	2	1年次に修得した【解剖生理】に基づき、疾病の発生機序を明らかにする【病理、病態生理】を修得する。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学研究に携わった研究歴を生かして、病態を考える授業を組み立てたい。
8	看護学科	援助的人間関係論	松本 陽子	1	1	看護は対象との対人関係を基盤として行われるものである。本授業では、その看護の基本となる援助的人間関係の形成について理解を深めるとともに、専門職として援助的な関係を形成していくための技術を習得する。 ※本授業では、看護師および看護教育での経験および研究活動を活かして臨床現場に即した実践的な内容を教授する。
9	看護学科	臨床心理学	川島 範章	3	2	臨床心理学とは「人間の心理的適応・健康や発達、自己実現を援助するための、心理学的人間理解と心理学的方法を、実践的かつ理論的に探究する心理学の一領域」とされる。本講義では、臨床心理学の成り立ちを学ぶとともに、臨床心理学の代表的な基礎理論について学ぶ。また、学校臨床における対人援助の実際について学ぶことで、人間尊重の精神とこころの問題への理解を深めることを目的とする。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
10	看護学科	学校保健	岡本 陽子	2	1	今日、大きく様変わりしようとしている学校教育、なかでも児童生徒の健康問題は山積している。これらの現状を捉え、ヘルスプロモーションに基づき、看護の専門性に基づいた知識、技術、科学的な理論と実践の上に立脚した学校保健活動の展開について学ぶ。「学校保健の理念」「健康管理」「健康教育」をテーマとして、養護教諭として教育現場で的確に実践できる資質力量を身につける。 この科目は、長年養護教諭として学校現場で活躍し、大学教員としても経験豊富な講師が指導します。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
11	看護学科	疫学	井上 徹	3	2	医療保健行為を実施する拠り所は、実は、用意周到にデザインされた疫学研究のデータである。疫学では、ヒトの健康状態を個人単位でなく、集団をとして評価するという、独特の考え方をしなければならない。特に保健師領域では、疫学は統計学と並び必要不可欠な技術といえる。 本講義ではまず、ヒトの健康状態を集団として評価するための方法を学ぶ。次に、ヒト集団を対象として、病気(結果)とその原因(曝露)との関連性・因果関係を証明する考え方・方法を習得する。続いて、関連性・因果関係を証明するための研究手法を理解する。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および海外医療協力を携わった研究歴を生かす授業を実施したい。
12	看護学科	保健統計論 I	田中 知徳	3	1	保健統計学とは、集団を対象として、その集団の健康に関する現象の数量的な特徴を観察・把握・分析することを目的とした学問である。最近、少子・高齢化の進展や疾病構造の変化などに対応するために、科学的根拠に基づいた保健・看護活動が求められている。この科学的根拠に基づいた保健・看護活動の実践に当たっては、保健統計学の知識・技術が不可欠である。 今回の講義を通して、保健統計学の理論と手法を習得し、地域保健・看護活動において効果的に専門性を発揮できることをめざす。 授業にあたっては、保健所長としての長年の勤務経験を生かした講義、演習を行います。
13	看護学科	環境保健学	井上 徹	2	1	外部環境は人類、地域、集団レベルでヒトの健康に影響を及ぼす。日々刻々変化していく環境問題を、今後自力で追跡できるよう、本講義でテーマを提供する。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学研究に携わった研究歴を生かす授業を実施したい。
14	看護学科	保健医療福祉行政論	齋藤 公彦	2	3	少子高齢化社会で保健師活動の重要性が強く言われ、健康づくりや在宅療養者の支援の需要の拡大から保健師活動が重要な課題となっている。その保健師活動を実践する上で不可欠な知識と技術(保健福祉計画の策定・実践・評価・報告)としての基盤をなす保健医療福祉行政の仕組みや変遷、その制度や内容等を学習する。 行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
15	看護学科	基礎看護学	岡 和子	1	2	人間の理解を中心に、健康、環境、看護の定義・役割・機能などに関する看護の概念について学習する。看護専門職として、自律していくための必須条件を学び、看護実践の基本となるケア能力を育成する。また、看護の発達の歴史を理解し、看護を科学的に思考・分析する能力を培うとともに、今日の看護のありようとこれからの看護の方向性を考察する。学外授業(病院見学)に該当するものとして、DVD学習・グループワークを取り入れ、看護の基本概念、看護活動の場、看護の役割機能、専門性等について、より効果的に理解できることをめざす。 この授業では、看護師・大学教員として経験豊富な教員の指導の下で講義・演習を実施する。
16	看護学科	看護倫理学	内田 史江	2	1	人間を対象とし、生と死に向き合う職業である看護専門職は、倫理的であることが求められる。本授業では、看護専門職として必要な看護倫理の原則・看護倫理の課題について理解し、現実的な看護問題に包含される倫理的課題について考察し、理論的な解決プロセスを学ぶ。 本授業では、看護師および看護教育について経験豊富な教員により指導を行います。
17	看護学科	看護理論	福田 久仁子	2	1	看護理論とは、看護の諸現象間の関係について記述し、説明し、予測するために体系づけられた学問であること、現実世界を代表する言葉や現象から構成されることを学ぶ。また看護理論の4つの概念である人間、社会と環境、健康、看護について理解を深め自己の看護観を養う。 理論は、研究と実践をつなぐ枠組みであり、さらに看護研究の課題に応えるための適切な方法を見つける手段であることを学ぶ。 「理論」は「看護実践」を支える大切なもので、理論が含まれてこそ、実践に結び付く そのため、豊富な臨床での看護教育経験・看護学生教育経験がある教員がその経験を活かし、看護理論の基本的知識や事例を盛り込み実践に生かす看護理論を説明・指導する。
18	看護学科	看護過程論	内田 史江	2	1	対象の個別性やニードを捉え、看護を系統的・科学的に実践するための方法論である看護過程の基本的知識・技術を習得する。また、既習の看護理論が看護過程の中でどのように活かされているのかを理解するとともに、看護実践における意義を知る。 事例を用いた看護過程の展開の演習では、個別またはグループワークを行うことで看護過程の具体的なプロセスを学ぶ。 この授業では、看護師としての臨床経験や看護教育の経験が豊富な教員が指導にあたります。
19	看護学科	生活援助学 I	中川 名帆子	1	1	日常生活援助とは単に療養上の世話という意味にとどまらず、健康を回復していくことを助けるという看護独自の介入技術であり、対象の安全・安楽、尊厳と権利を守り、健康生活を支援していかなければならない。そのため、看護技術の概念、範疇特性、一般原理、技術獲得の条件について学習し、人間の健康生活に注目した日常生活援助の基本となる理論と原理原則に基づく看護技術の実際を統合し、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を養う。本授業では、これらの看護援助に必要な知識と技術の確実な習得に向けて、クラス分けを行い少人数制での授業を展開する。本科目では、臨床現場における看護実践の経験がある教員がその経験を活かして具体的な援助技術の指導を行う。
20	看護学科	生活援助学 II	内田 史江	1	2	日常生活援助とは単に療養上の世話という意味にとどまらず、健康を回復していくことを助けるという看護独自の介入技術であり、対象の安全・安楽、尊厳と権利を守り、健康生活を支援していかなければならない。そのため、看護技術の概念、範疇特性、一般原理、技術習得の条件について学習し、人間の健康生活に注目した日常生活援助の基本となる理論と、原理原則に基づく援助技術の実際を演習を通して統合していく。 本科目では、臨床現場における看護実践の経験のある教員が、具体的に援助技術の指導を行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
21	看護学科	治療援助学Ⅰ	福田 久仁子	2	1	治療や処置は対象の症状に応じて医師の指示により行われるが、看護師としては専門的な知識とともに、責任と倫理性を持ち、対象が安全・安楽に治療を受けられるよう援助していくことが大切である。 本授業では、診療の補助における看護師としての基本的な態度、呼吸・循環を整える技術、創傷管理、検査時の看護に関する基礎的理論と基本的技術および対象の立場に立った看護について学習する(知識・技術・態度)。 1. 授業は各単元に関する事前学習と講義および演習により展開する。 2. 技術の獲得と演習時の安全の確保のために2つのクラスに分ける。 3. 演習においては看護師として臨床経験がある教員の指導の下、少人数のグループ制で行う。
22	看護学科	治療援助学Ⅱ	中川 名帆子	2	1	治療や処置は対象の症状に応じて医師の指示により行われるが、看護師としては実施される治療や処置の専門的な知識とともに責任と倫理性を持ち、対象が安全・安楽に治療を受けられるよう援助していくことが大切である。 本授業では、対象への侵襲が高い技術である与薬、ME機器の取扱いに関する基礎的理論と基本的技術を学習するとともに、対象の立場に立った看護について学習する(知識・技術・態度)。 1. 授業は各単元に関する事前学習と講義および演習により展開する。 2. 技術の獲得と演習時の安全の確保のために、2つのクラスに分ける。 3. 看護師として臨床経験がある教員の指導の下、少人数のグループ制で行う。
23	看護学科	リスクマネジメント	大塚 千秋	2	1	質の高い医療看護を提供するためには、安全についての意識と共に安全を確保する技術が、必要不可欠である。医療安全の歴史と医療現場の陥りやすい看護事故、対象の安全を守る技術について教授する。さらに、事故防止の観点から組織の損失を最小に抑え、医療の質を保証するためのプロセス、分析手法を学び、看護専門職としての意識を高め看護実践能力の向上につなげる。 看護師としての臨床経験や実習指導から、様々なヒヤリハットの場面を経験してきた教員および、病院で医療安全管理者を務めている医療安全のスペシャリストが、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。
24	看護学科	在宅看護論	平井 三重子	2	2	在宅看護の対象である疾病や障害をもちながら地域で生活している人とその家族を生活者として捉え、その生活の継続・QOL向上のための支援を行う上で必要となる基本的な視座と看護援助、社会資源の活用・チームケアのあり方を理解・考察できるようにする。 地域包括ケア時代の保健・医療・福祉の在り方、看護の在り方を理解・考察できるようにする。 講義は、臨床と在宅での実務経験がある教員が行う。
25	看護学科	在宅看護援助論	大元 雅代	3	2	少子・高齢社会の到来によって、高齢者や障害者の在宅ケアニーズはますます高まっている。施設内外を問わず、看護援助を必要とするすべての人々に対して看護機能を果たす必要がある。そのために、人々の地域社会での生活を基盤として、健康回復や保持増進のための看護や保健医療福祉従事者と協働で地域を支えていく看護を実践する能力が求められる。在宅看護援助論では、在宅療養者とその家族の看護上の問題を明確にし、看護計画の立案ができる力を身につける。 講義は臨床と在宅での実務経験がある教員が行う。さらに現場の訪問看護師からも専門的な知識・技術について学ぶ。
26	看護学科	地域看護論	齋藤 公彦	1	1	今日、栄養の過多・過少や労働・運動・休養(睡眠)の課題を基盤とする健康障害が世界的な問題となっている。本講義では健康管理の基礎的理論や健康行動理論の基礎を学ぶことにより、看護専門職としての保健指導を可能とする基盤的方法論を身につける。 ※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
27	看護学科	エンド・オブ・ライフケア論	齋藤 智江	2	1	終末期における症状緩和、患者のQOLを大切にしながら日常生活を支える看護は重要であり、看護師の果たす役割は大きいと考える。本講義では死に対する考え方を深めるとともに、人としてどのように生き、対象のエンド・オブ・ライフを意味あるものとしていくのかを考えられることをねらいとする。終末期にある患者を支えるために必要な知識・技術について理解を深め、看護者に求められる資質・スキルについて学ぶことがねらいである。また、終末期にある人とその家族が意義のある生(エンド・オブ・ライフ)を全うできるような援助の在り方について、理論と方法を学び活用できるような援助の在り方について、理論と方法を学び活用できるような学習を深めることができる。 臨死期看護を経験した教員により授業を受け、深めることができる。
28	看護学科	成人看護学総論	齋藤 智江	1	1	成人期は、人のライフサイクルにおいてもっとも長く、人口比率が大きく、身体的精神的には徐々に安定し、社会・経済的に重要な役割をもつ時期である。また、成人期にある人々は、多種多様な生活様式や価値観をもち、そのことが人々の健康問題や家族関係などの社会的問題へと発展することもある。 本講義では、成人期の看護の特徴を、発達、生活習慣、社会、ストレス、健康、アンドラゴジー教育理論の側面から総合的に理解する。さらに、健康問題を持つ成人期の対象の看護展開に必要な看護理論や概念モデルについて学習する。 成人看護領域で臨床経験をつんだ教員による授業であり、学生の主体性、自己分析できるようなかわりの中で自己分析できるようになる。
29	看護学科	高齢健康科学Ⅰ	木宮 高代	1	1	超高齢社会と核家族化の進む我が国の現状の中、高齢者に対する身体的・精神的・社会的(霊的)に理解する学修は不可欠である。身体的側面では、高齢者の加齢変化を通して、精神・社会的側面への影響に加えて認知症についても合わせて学修する。さらに、個々の高齢者の自己概念を学ぶことにより、個の受け止め方の相違を理解し、その背景に個の置かれた社会的側面も同時に考えることが必要であることを学修する。また、学外研修として国立療養所長島愛生園・長島愛生園歴史館を訪問しハンセン病の歴史や人権についての学修を深める。この授業は臨床現場での看護活動を実践した教員の経験を活かし、高齢者個々の生活史が現在を生きる高齢者にどのように影響を与えているのか、まだ理解し得ないことへの謙虚な気持ちも同時に学修する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
30	看護学科	高齢健康科学Ⅱ	大塚 千秋	2	1	高齢者の身体的変化の本質である各機能の老化過程をふまえ、老年期特有の疾患、治療(薬物)が高齢者やその家族に及ぼす影響について学び、高齢者への適切な診断アセスメント、リスクマネジメントのできる高度な看護実践能力を養う。 健康の各段階、症状に応じ高齢者やその家族のQOLを維持・向上する看護について教授する。 高齢者の健康状態に応じたアセスメントに必要な課題発見力、創造力、計画力を養い、高齢者の特性をふまえ現有機能を最大限に活かした援助へ展開できることを目指す。 本講では、看護師及び緩和ケア認定看護師として高齢者および終末期患者・家族の入院および外来看護の経験、看護学生への実習指導の経験がある教員が実践的内容に即して教授する。
31	看護学科	老年看護援助学Ⅰ	山本 千佳子	2	1	老年期にある患者の特徴を理解し、健康上の問題や障害を持つ高齢者の生活におけるニーズや諸問題を抽出し有効な看護援助を提供するために、適切な看護援助計画・立案するための思考力を養う。 又、老年期にある患者に適した、個別性のある看護を提供するために、臨床判断技術として、対象の理解、生活上・健康上の背景、論理性・推理力を必要とする看護過程の展開を行い、個別性のある援助技術の習得を目的とする。 紙上患者事例を用い、アセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価のプロセスを系統的教授する。 又、豊富な臨床経験や教育経験がある教員及びその指導の下に、有効な援助技術を習得するため臨床判断技術として、看護過程、看護記録に関する思考過程を学び、対人関係能力、看護介入のための技術を修得する。
32	看護学科	老年看護援助学Ⅱ	山本 千佳子	3	1	老年期にある患者の特徴を理解し、適切な看護援助を行うために、必要な知識・技術を習得することを目的とする。 更に看護問題の解決に必要な看護過程展開し、看護介入のための技術として、高齢者の日常生活援助、対象の訴えに対する看護技術、教育指導技術など演習を通し修得する。 又、豊富な臨床経験や教育経験がある教員及びその指導の下に、健康障害を持つ高齢者に対し、対人関係能力として、非言語的コミュニケーション、タッチング・スキンシップを図り、看護介入のための技術を修得する。
33	看護学科	子どもの成長と健康	田村 美子	2	1	小児看護学の対象である子どもと家族の理解と、小児看護の理念および役割を理解する。そのため、社会の中で成長・発達する子どもの特性を理解し子どもと家族が個人の権利を保障され、より健康に成長・発達していく過程を支援していくために必要な知識について学ぶ。また、成長発達の過程にある子どもの問題や特徴、子どもと家族が抱える問題を理解し、子どもと家族の健康を支えるための援助について学ぶ。 この授業では、臨床経験、教育経験の豊富な教員が指導を行う。
34	看護学科	子どもの病気と看護	田村 美子	2	1	小児看護学の対象である子どもと家族を理解する。小児と家族を看護する基本的態度、子どもの権利を尊重する看護実践の重要性を学ぶ。そして成長・発達過程にある子どもの健康上の問題とその特徴、子どもと家族が抱える問題を理解し、病気の子どもと家族への援助について学ぶ。 担当教員は、医療機関において小児看護実践の経験を有し、病気の子どもと家族の看護実践のあり方を概説する。
35	看護学科	小児看護援助学	佐竹 潤子	3	2	健康障害のある子どもの成長・発達に与える影響を子どもの反応や、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解し、発達段階に応じた療養生活、家族への援助を学び、子どもの発達を助けるための看護の役割を考える。また、成長発達の過程にある子どもの問題や特徴、子どもと家族が抱える問題を理解し、子どもと家族の健康を支えるための援助について学ぶ。さらに、子どもの成長・発達や子どもの家庭、生活環境に起因する健康障害について理解を深め、健康を害された子どもと家族のニーズに対し、QOL向上への看護について学ぶ。 臨床経験の豊富な教員や認定看護師により、知識や経験を活かして、具体的な看護を指導する。また、小児看護に必要な技術演習を行う。
36	看護学科	母性と生命科学Ⅰ	藤原 弘子	2	1	母性機能、母性を取り巻く社会環境および母性看護の役割について学ぶ。母性の健康は次世代の健康に受け継がれていくため、生命の継承に関わる母性看護の役割と課題について考えを深める。 また、女性のライフサイクル各期における女性の特徴および健康問題と看護の役割、妊娠に伴う身体的・心理社会的変化とその看護について学ぶ。 母性各期の健康支援の中核となる周産期の女性に焦点をあて、妊娠期および分娩期の看護について一連の繋がりで理解を深め、その援助に必要な知識・技術を学ぶ。 * 看護師・助産師として臨床経験のある教員が、その経験を活かして女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護、分娩期にある女性の対象理解とその看護について、具体的な内容を教授する。
37	看護学科	母性と生命科学Ⅱ	永田 華千代	2	1	周産期の看護を中心に、分娩期および産褥期・新生児期の看護について、その援助に必要な知識・技術を学ぶ。特に、分娩期の看護では、分娩の生理や産婦の心理に着目し、安楽なケアについて視聴覚教材を通して学ぶ。また、産褥期・新生児期の看護では、妊娠・分娩期からの母子の経過に関連づけて対象を理解し、母子が正常な経過を辿ることを支援するために必要な知識・技術を学ぶ。 出産は女性の一生の中で大きな出来事であり、産婦や家族にとって満足できる体験となるように援助する必要があることを理解するとともに、女子学生にとっては自らの母性意識を高め、男子学生にとってはパートナーへの思いやりを養えるよう、助産師として臨床経験のある教員が、臨床での体験や事例を通して身近なことと受け止められる講義内容とする。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
38	看護学科	母性看護援助学	永田 華千代	3	2	妊娠・分娩・産褥期にある女性の特性および新生児の特徴を理解し、母子を関連づけて、その援助に必要な知識・技術について学ぶ。特に、褥婦と新生児の身体的変化や心理社会的側面での適応を促す支援や、正常な経過を辿るための看護および健康を逸脱した場合の看護について学ぶ。 また、事例を用いた看護過程の演習を通して、ウェルネスの視点から対象理解を深め、必要な看護ケアを考察する。 さらに、妊婦の観察技術、褥婦・新生児の観察技術、正常な産褥経過を支援するための理論と知識・技術について、演習を通して習得する。 * 看護師・助産師として臨床経験のある教員が、その経験を活かして妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある女性および新生児の対象理解とその看護について、具体的な内容を教授する。
39	看護学科	心のケア	後藤 満津子	2	1	精神とは何か、精神の健康とはどういうことなのかを心理学的視野から学び、今注目されている脳科学や感情活用理論や対人関係論へと発展させながら、個人から家族、集団への心の健康について学修する。 この授業では、看護師としての臨床経験や教育経験の豊富な教員が指導に当たります。
40	看護学科	精神看護援助学 I	後藤 満津子	2	1	心のケアで学ぶ基礎的知識を理解しながら、精神の疾病・障害に関する基礎的知識と、その看護に必要な基礎的な援助方法・技術・態度を学ぶ。さらに精神保健医療福祉のリハビリテーションの現状と課題について学修する。
41	看護学科	精神看護援助学 II	松本 陽子	2	1	心のケア・精神看護援助学 I で学んだ基礎的知識をふまえて、精神障害のある対象への治療的対人関係形成や看護過程について演習を行い、看護のポイントを理解する。 ※本授業では、病院や地域における精神看護の経験がある教員が、その経験を活かし、実習でもより学びが深まるよう、臨床現場に即した実践的な内容を教授する。
42	看護学科	看護とカウンセリング	後藤 満津子	3	1	援助的人間関係、心のケア、精神看護援助学 I・II で学んだ基礎的知識を踏まえて、治療的人間関係形成について講義と演習を行い、対人関係を展開していくためのカウンセリングの基本的技術を修得する。共感的態度、受容的態度について理解を深め、カウンセリング・マインドを身につける。自己理解・他者理解を深め、自己の傾向について考察できる能力を養う。 この授業では、看護師としての臨床経験・教育経験の豊富な教員が指導に当たります。
43	看護学科	養護概論	岡本 陽子	3	2	養護学概論は養護教諭の専門性に基づいた養護活動の展開について学ぶ。養護教諭としての基礎的応用的な知識・技術を学び、科学的な理論と実践のなかで研究的な資質・力量を身につける。「学校教育における養護教諭の果たすべき役割」「養護教諭の制度と職務内容の変遷」「養護教諭の職務の進め方」をテーマとして、教育現場での確に実践できる資質力量を身につける。 この科目は、長年養護教諭として学校現場で活躍し、大学教員としても経験豊富な講師が指導します。
44	看護学科	災害看護・国際看護活動論	長野 扶佐美	4	1	災害看護の授業については、災害看護が生命の危機や、健康が脅かされる災害の急性期だけでなく、その後の生活や地域が安定するまで継続されることに鑑み、臨床現場や災害現場での災害看護活動を実践してきた教員の指導のもと、災害看護の基礎知識と看護技術、災害看護の課題と看護職の役割について教授する。また、国際看護の授業については、これまでに国内外での看護活動を実践した教員により、国際的な視点で世界の人々の健康を支援するために、看護職者の果たす役割や開発途上国や自らの社会・文化と異なる「異文化」についてグループワークを取り入れながら、国際看護の課題と対応について教授する。
45	看護学科	看護学教育論	木宮 高代	4	2	看護学教育は社会からの看護への要求や、期待される成果の質に対して責任を負うものである。教育の基本的な考えに基づき、教育活動の展開を通して、看護専門職を育成するための看護学教育のあり方について教授する。具体的には、看護学教育の特殊性、目的・目標、看護学教育の大学での教育の必要性について学習する。資質が問われる看護学教育の構造と内容の中で、看護の感性をいかに培うかを考察する。 また、看護教育制度、看護教育課程、看護教育を支える学習方略、教育方法、看護学実習の位置づけ、意義、特質についても学習する。看護系大学における教育経験のある教員が、その経験を活かして実践的な方法論を指導する。
46	看護学科	基礎ゼミ I	山本 千佳子	1	1	大学生として、自ら学び方を学び、新しい知見を吸収し、疑問を持ち自分の力でその事象を解き明かし、「書き」「聴き」「話し」「発表」といった能力を講義やグループワークを通して学習し、実践し身につける。そして他者からの批判を受け入れ、自分の考え方を磨いていくプロセスを学習する。 特に看護学教育では、将来看護職として社会に出たときには、身に付けておくためのスキルを学ぶ。 多職種ケアマネジメントにおけるグループ学習でのファシリテーターや社会人としての経験を活かし、「書き」「聴き」「話し」「発表」といった能力が身につくように指導する。看護師としての臨床経験や、大学教員として経験豊富な教員が指導に当たります。
47	看護学科	基礎ゼミ II	大元 雅代	2	1	看護キャリアの形成を図るために必要な知識とスキルを講義・演習・グループワークを通して学習し、キャリアデザインを描く能力を育成する。 臨床経験・研究業績のある教員の指導の下、ゼミナール形式で行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
48	看護学科	看護研究Ⅰ	福田 久仁子	3	1	①看護現象の中に、自身が興味・関心がある問題や追求すべき課題を見出すことができる。 ②見出した看護現象の中の問題・課題を探求するための文献検討をすることができる。 ③看護現象の中の問題・課題を探求し、看護の新たな知見を得る方法としての看護研究の意義を理解することができる。 ④研究デザインの種類とその特徴を理解することができる。 ⑤看護研究を進める上での研究計画書の必要性を理解し、研究計画書を作成することができる。 ⑥看護現象の中の問題・課題を見出し、研究計画書を作成する全過程を通して、看護職に必要な探求能力、論理的思考を習得することができる。 * 1.研究の基本的な知識習得は一斉授業で行うが、文献検討・研究計画書作成は、学生の興味・関心に応じてグループを編成し、ゼミナール形式で行う。 * 2.学生の興味・関心のある分野についての問題・課題の明確化・文献検討、研究計画書の作成は、学生の興味・関心領域の研究経験がある教員がゼミ担任となり、その経験を活かして研究指導する。
49	看護学科	看護研究Ⅱ	平川 幹子	4	2	看護学分野において課題を焦点化し、研究の意義と目的を明確にして取り組み、明らかとなった結果をもとに研究論文にまとめる。この研究のプロセスを通して看護を追求する基礎的能力を学ぶ。 看護学分野における研究実績のある教員が、その経験を活かして課題への対応を具体的に指導する。
50	看護学科	国際援助と保健資源	木宮 高代	4	2	世界の多様な文化・地域特性、人々の持つ多様な価値観を理解した上で、国内外で国際看護を実践できる基礎的な知識・態度を修得する。 * 1.教員のカナダ・インドネシア・韓国の大学での研修・講演経験や韓国・中国・台湾・スウェーデンの大学の教員・学生との国際交流の経験等から学んだ各国の文化や価値観、看護の違い等を学生に伝えることで、人々の多様性・文化・価値観を理解した上でケアすることの重要性を理解させ、国際看護活動や在留外国人にケアを実践する上で必要な基本的な姿勢・支援の方法が身につくよう教授する。
51	看護学科	看護管理学	平井 三重子	4	2	看護の対象に質の良いサービスを提供できるようにマネジメントすることは、すべての看護専門職に要求される。看護専門職が持てる能力や技術を有効に用い相互協力し、良いチームづくりを通して、看護に対する意欲を高めることができるよう条件を整えたり、他の社会資源を活用することにより発展的変化への視野にたった看護サービスを提供することが看護管理に求められている。看護サービスの質を向上させるため、個々の看護実践を有効に役立てて管理するための理論やシステム、看護制度・政策等を理解し、効果的なヘルスケアの構築について考察する。臨床で活動している認定看護管理者の講義を受け看護管理についての考察を深める。 この授業では、認定看護管理者の講義や実務経験のある教員の講義を受講することにより、実践的な教育をめざします。
52	看護学科	公衆衛生看護学概論	長野 扶佐美	2	3	公衆衛生看護学の理念と目標を理解し、地域で生活する人々への健康支援に関わる基本的な概念や特徴を学ぶ。さらに、地域を基盤とした予防活動の実際、個人・家族・集団を含むコミュニティと看護職との関わりについて理解を深める。 ※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
53	看護学科	環境と対象の理解実習	福田 久仁子	1	1	本実習は、見学と体験を通して、医療環境および入院生活による基本的ニーズに基づく日常生活への影響について学習するとともに、看護職者や他の医療専門職者と接し、各役割とチーム連携・協働の必要性について理解していく。 また、日常生活行動に制限や健康障害のある対象の生活援助の場に参加し、看護師として臨床経験のある教員の指導の下、コミュニケーションや観察を通して命の尊さを理解し、人間を統合体として捉えたケアの個別性について考える。
54	看護学科	生活習慣と健康Ⅰ	高垣 由美子	2	2	成人期にある人は精神的・経済的にも独立するが、社会人としての活動は個人の生活習慣やストレスによって健康にひずみをもたらす障害を引き起こす。成人期の特徴や生活習慣を中核に捉えて、学生自身や身近な人の実生活を通し「健康」とは何かを探求する。生活を営むその人にとっての最適な「健康」について考察し、看護実践に必要な慢性疾患看護学の基礎的知識の概要について学習する。疾患と共に生きる人を身体的・心理的・社会的側面から全人的に捉え、その人の健康障害の各レベルに対応する看護の役割、機能について学び看護実践能力を養うことを目指す。さらに各健康領域における現場のプロフェッショナルから最新の医療・看護について学ぶ。
55	看護学科	生活習慣と健康Ⅱ	齋藤 智江	2	2	成人期にある人は精神的・経済的にも独立するが、社会人としての活動は個人の生活習慣やストレスによって健康にひずみをもたらす急激な障害を引き起こす。成人期の特徴を身体的・心理的・社会的側面から全人的に捉え、急激な健康破綻をきたした対象者及び家族の危機的な状況に対する看護の役割、機能について学ぶ。実務経験を有した科目担当教員から、臨床看護に即した教授を受けるとともに、各専門領域における臨床のプロフェッショナルから最新の医療・看護について学ぶ。
56	看護学科	成人看護援助学Ⅰ	平川 幹子	3	1	生活習慣と健康Ⅰ・Ⅱで学習した健康機能障害をもつ対象者の事例について、情報収集、アセスメント、看護診断、看護計画、評価までの一連の看護過程の展開方法を理解する。また、成人期にある対象者の発達段階、発達課題、生活環境などを考慮し、健康機能障害に伴う看護上の問題を確定し、適切な看護援助を計画・立案するための思考力を養う。そして、看護問題の解決に必要な知識・看護過程展開技術の習得を目的とする。さらに成人看護学実習(臨地実習)で対象者に対応するための実践的な看護展開能力の育成をねらいとする。授業内容は、実務経験を有する科目担当教員および成人看護学実習担当教員による個別指導を行い、効果的な学習を行う。
57	看護学科	成人看護援助学Ⅱ	木場 しのぶ	3	2	成人期にある患者に適切な看護援助を行うために、必要な知識・技術を習得することを目的とする。さらに成人看護学実習(臨地実習)でよく出会う場面に対応するための基本的な実践能力の育成をねらいとする。 成人期の看護における臨床経験および実習指導経験のある教員の指導の下、看護技術の演習を行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
58	看護学科	基礎看護学実習Ⅰ	中川 名帆子	2	1	<p>【実習の目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療施設における看護の機能・役割を理解する。 2. 病院で療養生活を送る対象を理解し、援助的な人間関係を形成する力を高める。 3. 日常生活援助を体験し、対象の状況に合わせた看護援助の方法を理解する。 4. 看護をおこなう職業人としての必要な態度を身につける。 <p>本実習は、見学と体験を通して、医療環境および入院生活による基本的ニーズに基づく日常生活への影響について学習するとともに、看護職者や他の医療専門職者と接し、各役割とチーム連携・協働の必要性について理解していく。また、日常生活行動に制限や健康障害のある対象の生活援助の場に参加し、コミュニケーションや観察、看護援助の体験を通して命の尊さを理解し、人間を統合体として捉えたケアの個別性について考える。指導には、看護職としての臨床経験があり、看護師教育および学生指導の経験がある教員がその経験を活かし実習指導を行う。</p>
59	看護学科	基礎看護学実習Ⅱ	内田 史江	2	2	<p>一連の看護過程を体験的に学び、対象の個別性を考慮した看護を実践するための方法を理解する。</p> <p>また、基礎的な看護技術の実践能力および看護者としての倫理的態度を養う。看護に共通する方法や技術を学習することを目的とし、領域実習へと展開させる基礎となる実習である。</p> <p>本科目は、臨床経験を有する教員が、少人数グループの学生を引率して指導にあたる。</p>
60	看護学科	成人看護学実習	平川 幹子	3	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期で慢性期・終末期の健康段階にある患者およびその家族が、健康の維持・増進、あるいは平和な死に向けて、自らの生活を調整できるための看護支援について学習する。 2. 成人期で急性期の健康段階にある患者とその家族が、急激に変化する健康状態から回復巣へ向けて日常生活を再構築するための看護援助について学習する。 3. 保健医療専門職チームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づく総合的かつ継続的な看護実践能力を養う。臨床経験豊富な教師、臨地実習指導者の指導の下、多くの経験ができるようサポートを受け実習を行なう。
61	看護学科	老年看護学実習	木宮 高代	3	4	<p>人生の完結期にある高齢者を総合的にとらえ、加齢による心身機能の変化を基盤に老化や健康障害による問題を把握し、対象となる高齢者の尊厳と倫理的配慮に基づき、高齢者のQOLの維持・向上を目指した看護実習を行う。</p> <p>本実習では、健康課題のある老年期の対象者とその家族への看護を展開し、加齢に伴う生理的機能変化が身体的・心理的・社会的に及ぼす影響、系統的な問題解決能力、習得した知識・技術を統合させ、老年看護を実践するための知識・技術・態度を養う。</p> <p>本実習では、看護師及び緩和ケア認定看護師として高齢者および終末期患者・家族の入院および外来看護の経験、看護学生への実習指導の経験がある教員が実践的内容に即して教授する。施設の臨床指導者と連携し多面的な課題への対応を指導する。</p>
62	看護学科	小児看護学実習	田村 美子	3	2	<p>乳児・幼児・学童・思春期各期の特徴と、その子どもを取り巻く家族を理解し、子どもとその家族の発達段階や健康レベルに応じた看護を実践できる能力を養う。</p> <p>看護職として病院における臨床経験のある教員の指導のもと、小児看護学の臨地実習を行う。</p>
63	看護学科	母性看護学実習	藤原 弘子	3	2	<p>現代の少子時代における母子を取り巻く環境、および周産期にある対象のニーズにあった母子への個別的・継続的支援の実際を学習し、母子保健における今後の看護職の役割を考察することを目的とする。周産期にある妊産褥婦・新生児の看護の基本を学ぶために、病院での実習を小人数グループで行う。ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、対象者がセルフケアによって安全で快適な妊娠生活、分娩期、産褥期を過ごし、新しい家族関係が構築できるように支援できる基礎的能力を養う。</p> <p>* 看護師・助産師として臨床経験のある教員が、その経験を活かして妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある対象の理解とその看護について、具体的な内容を教授する。</p>
64	看護学科	精神看護学実習	後藤 満津子	3	2	<p>精神に障害をもつ対象との出会いを通して対象者の理解を深め、セルフケア能力の保持・増進にむけた援助を実践する。看護者として、一人の人間として自己を振り返り、自己洞察を深めながら対象者との関係を築く能力を養う。また、精神に障害をもつ対象者を、社会に生きる生活者の視点で捉え、その人にとっての社会参加のあり方を考える。精神看護領域における保健医療福祉チームとしての看護職の役割を理解し、チームの連携が退院促進を円滑にすることを理解する。</p> <p>この授業では、精神科臨床経験のある教員と地域における精神看護の経験のある教員が、その経験を活かし、実践的な課題への対応を指導します。</p>
65	看護学科	総合看護学演習	大塚 千秋	4	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに学んだ看護の専門的知識と技術をふまえ、科学的思考、的確な判断に基づいたケアを安全・安楽・倫理的に配慮し実践できる能力を養う。 2. 上記の学修過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。 <p>保健医療機関で経験のある教員が、その経験を活かして、看護の専門的知識および技術を指導する。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
66	看護学科	在宅看護学実習	平井 三重子	3	2	在宅ケア実践の場へ赴き、地域で生活する疾病や障害をもつ療養者とその家族に関わり、それを支援する人々と共にケアを実践することにより、地域で生活する人々を統合的に理解し、療養者の生活の継続・QOL向上のための在宅ケアの実際を理解すると共に、地域包括ケア時代における看護師の役割を理解できるようにする。 *1.地域連携室看護師としての実務経験を持つ教員、介護支援専門員としての実務経験を持つ教員がその経験を活かしながら、学生の学びを支援する。また、訪問看護ステーションにおいては経験豊富な訪問看護師が学生と1:1で訪問して一緒にケアをしながら、学生の気づき・学びを支援する。関連施設においても、施設の責任者・指導者が学生の学びが深化するよう働きかける。
67	看護学科	統合看護学実習	齋藤 智江	4	2	統合看護学実習では、これまでの各看護領域の学びを生かし、看護チームの一員として複数の患者の同時受け持ち、看護援助を行うことで、実務に即した実習を経験し、優先順位・時間管理・安全を考慮した看護について学ぶ。また、保健医療チームにおける多職種との協働やリーダーシップ・メンバーシップ、看護管理などについて理解し、看護者に期待される役割を学ぶ。 保健医療チームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づいた総合的かつ継続的な看護実践能力を養う。
68	看護学科	公衆衛生看護技術論Ⅰ	笹木 佳子	3	2	家庭訪問では、療養者または乳幼児の生活の場へ出向き、療養者本人・家族または育児者との信頼関係のもとで、責任をもって看護援助を行われなければならない。昨今の情勢において、必ずしも行政保健師だけではなく、訪問看護ステーションや地域包括支援センターに所属する看護職としても必要な知識であり、対象の援助ニーズを生活の中で把握し、家庭生活・地域社会生活にみあった方法で援助を行っていく方法を学習する。 ※保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた保健活動の実際について具体的に教授する。
69	看護学科	公衆衛生看護技術論Ⅱ	笹木 佳子	3	2	健康相談は、保健指導の技術を駆使して行われる個別援助活動である。健康相談で目指すのは、相談者の健康問題の解決や生活改善、不安の緩和や安寧である。 相談を通して相談者の悩みや問題をもたらしている生活を理解し、悩みを共感的に受け止めていくことを基本に、専門的な立場から技術や知識を伝える教育的な働きかけや、相談者自らが問題を解決していくための継続的支援を行う。また、相談者と信頼関係を築き、相談者の主体性を尊重した援助関係を大切に支援方法の学習を行う。 ※保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた保健活動の実際について具体的に教授する。
70	看護学科	公衆衛生看護技術論Ⅲ	長野 扶佐美	3	2	公衆衛生看護における対人支援技術である健康教育とグループ支援を本講義では学修する。健康教育とは、住民自らが健康状態を認知自覚して健康実現を図ることのできる能力を身につけるための学習を支援する営みである。地域住民の健康課題を解決するために保健師が捉える健康教育の視点は、対象の心身の状態を軸に、それに関する生活・労働・環境の問題を視野に入れて展開していくことが必要である。本講義では、健康教育の対象とその健康課題を明確化し、住民の問題意識行動変容を促す保健行動・モデルを活用した健康教育の実際について講義・演習を通して学ぶ。グループ支援についてはそのグループの健康課題の解決について、グループの目的に応じた支援方法について、講義・演習を通じて学ぶ。 行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
71	看護学科	公衆衛生看護活動論Ⅰ	長野 扶佐美	3	2	公衆衛生看護は、地域で生活している個人、家族、集団を対象に、その健康レベルや地域特性に応じて、健康の維持・増進・疾病の予防・病気からの回復を助ける活動である。本講義では、保健師が公衆衛生看護を展開する場である行政(市町村)の中での、対象別の基本的な公衆衛生看護活動について理解する。 ※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
72	看護学科	公衆衛生看護活動論Ⅱ	長野 扶佐美	3	2	本項では、地域精神、障害者(児)、難病、感染症、歯科口腔の心身の健康問題や、災害の場など、対象が置かれている状況において、保健活動がどのように行われているか学習する。 地域精神保健活動では、精神障害者のおかれてきた状況や歴史的背景を知り、保健師は、地域全体が精神障害者の対応や理解を深めることにより、精神障害者の生活の場の拡大とネットワークづくりを行い、地域全体の組織的な力の向上を目指すことを学習する。 障害者(児)、難病保健活動では、障害者(児)や難病患者の保健医療福祉の動向、施策の概要を理解し、対象者の自立支援・社会参加支援の方法を学習する。 感染症では、様々な感染症への対応・予防活動について具体的に学習する。 歯科口腔では、ライフサイクルに応じた対応策を具体的に学習する。 *1.行政保健師として障害者、難病者等の健康問題に関わり、健康課題の特性に応じた活動を展開した経験のある教員が、理論に基づいた地域活動の展開方法について具体的に教授する。
73	看護学科	公衆衛生看護活動論Ⅲ	齋藤 公彦	3	2	本項では、施設保健として、学校保健及び産業保健について学習する。学校保健では、児童や生徒及び教職員の健康管理として、環境衛生や健康診断・食育・運動・歯科保健についての保健教育や保健管理の方法や必要性について学習する。また産業保健については、職場での環境衛生や労働衛生・特定健康診断・特殊健康診断・メンタルヘルスなど、対象者と家族を踏まえたトータルヘルスプロモーションの視点で援助できるよう学習する。職場での労働衛生・健康診断・メンタルヘルス等の指導実績のある教員が教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位数	授業のねらい、概要
74	看護学科	公衆衛生看護管理論	長野 扶佐美	3	2	<p>本項では、地域保健活動の基本から保健活動の基盤である地域診断や、地域診断に基づいた地区活動・事業化・施策化、予算のしくみについて学習する。</p> <p>また、地域管理のマネジメント機能や、地域ケアシステムづくり、さらに、保健師の行う災害発生時や平常時からの健康危機管理について学習する。</p> <p>*1.行政保健師として公衆衛生看護活動の実践経験や管理職経験、被災地への派遣経験を持つ教員が、その経験を生かして公衆衛生看護としての管理機能について具体的に教授する。</p>
75	看護学科	公衆衛生看護学実習	齋藤 公彦	4	5	<p>地域特性や地域住民の生活を理解し、地域住民の健康の維持・増進を目指した地域看護活動を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>労働と健康との関連性を作業環境、作業方法等の労働環境を含めて学習し、働く人々の健康管理を行う産業保健活動と、その活動を行う労働衛生チームとしての産業保健管理の機能、目的、役割について理解する。同時に職業に伴う健康障害の予防、健康保持、疾病悪化防止等と、労働者の適正配置とQOLを支援する活動について学ぶ。</p> <p>※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。</p>
単位数(合計)					122	